

平成二年三月

史料館所藏史料目錄 第五十集

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目錄（その三）

史料館

史料館所蔵史料目録 第五十集

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その三）

一
金右軍
筆法中自若然
石上存金氣
惟多力
下
八日
八日
八日

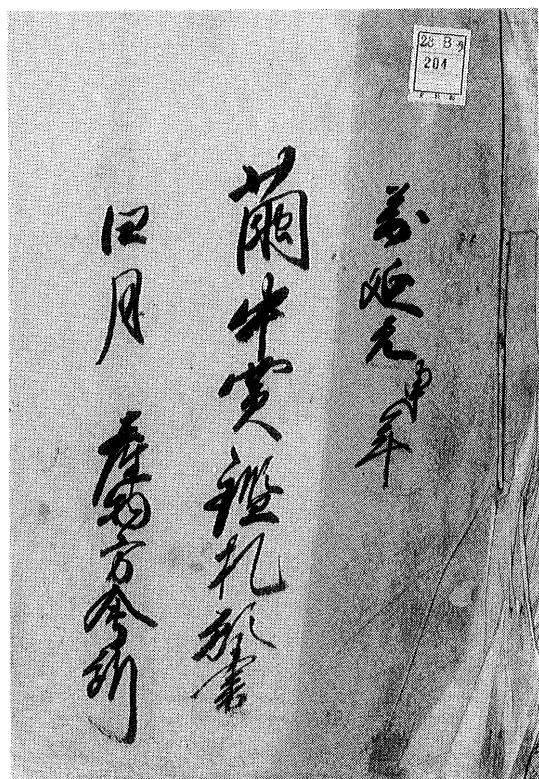
(産物会所御貸下金中借証文) 天保14年閏9月 [う298]

仕切
二番穂塩千五百俵
六法の重八百五十五俵
一、波拾壹百廿月

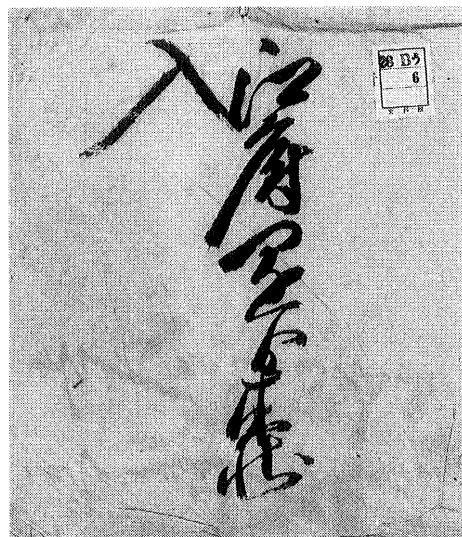
(赤穂塩仕切状) 酉(嘉永2年)10月晦日 [う907]

[illegible]

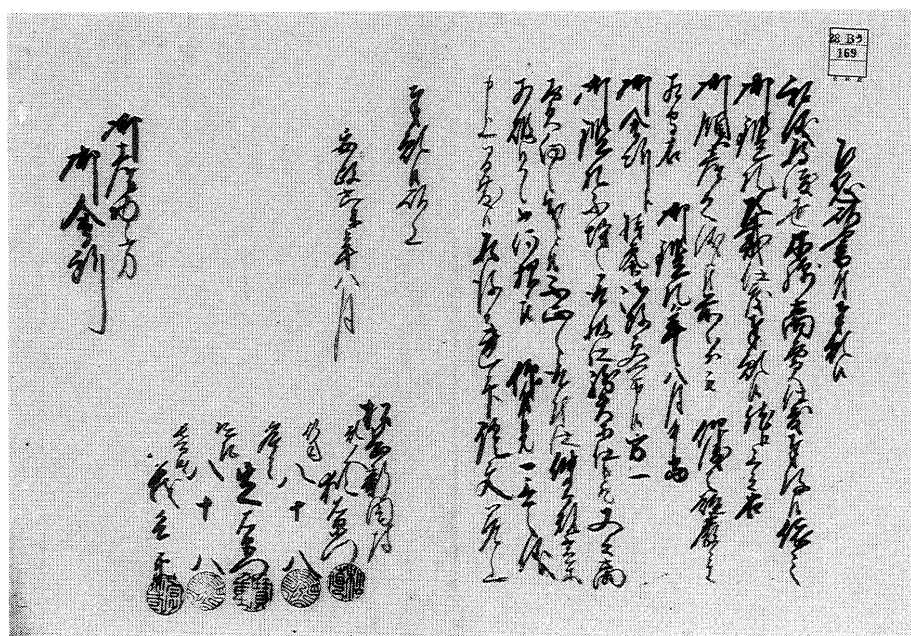
(佐野善左衛門江仕置仰付書写) (天明4年) 4月3日 [う723]



蘭中賞鑑札願書（綴） 万延元年4月〔う204〕



江戸府懸方来状（綴） 慶応3年〔う6〕



（木綿商売鑑札下付願書） 安政6年8月〔う169〕

凡 例

一 本目録は、『史料館所蔵史料目録』第五十集「信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その三）」として、同文書のうち一、二五〇件（独立に表題を付与した数）、四、二七三点（一通ないし一冊単位の数）を収めた。『目録』第四十一集、第四十八集に収めた文書と併せて利用されたい。

一 目録においては、八田家伝来文書群の内的構造（内在的な体系的秩序）を表示しうるよう、文書がどの組織体の活動にかかわって作成ないし受理されて八田家に伝来したかという観点から文書群の構成を大別し、同一組織体の文書群内部においては同一の用件ないし事項にかかわる文書ごとに細区分した。そうした階層性を有する内的構造は、大項目（第一次構成）、中項目（第二次構成）、小項目（第三次構成）を立てて表示している。また、必要に応じて〇印を付して小々項目を立てた。

大項目は一二ポイント・ゴチック活字、中項目は一〇ポイント・ゴチック活字、小項目は九ポイント・ゴチック活字、小々項目は九ポイント活字で示している。

なお、複数の組織体の活動ないし用件・事項にかかわる文書については、※を付して重出した。さらに、関連文書が収められている項目を（↓「……」）と指示した。

八田家伝来文書群の内的構造については解題を参照されたい。

一 史料目録の記載欄はほぼ、(一)表題、(二)作成者または差出人、(三)宛名、(四)作成年月日、(五)形態、(六)数量、(七)整理番号の順である。

一 表題は原表題のあるものはそれを探り、ないものについては内容・類型に応じて付与し、（ ）を付した。柱書のある場合は、それを記録した上で（ ）をして表題を付与した。なお、適宜（ ）内に内容や破損・欠損状態等を注記した。

一 宛名は従来の『史料館所蔵史料目録』では宛に統一して示していたが、本目録では文書に付された宛名敬称を重視し、「殿」「様」「衆中」等をそのまま採録し、敬称のないものは（ ）を付して「宛」と表示した。

一 作成年月日は和年号で示し、干支のみの場合はそれを採録した。推定年次については（ ）を付した。

一 史料の形態は、簿冊類では、半（半紙縦折判）、半切（半紙縦半截判）、美（美濃縦折判）、横長半（美）（半紙（美濃）横折判）、横半（美）

半（半紙／＼美濃／＼横折紙半截判）、横半／＼美／＼半折（半紙／＼美濃／＼横折紙半折判）、横切半／＼美／＼半折（半紙／＼美濃／＼横切紙半折判）、横半／＼美／＼列（半紙／＼美濃／＼横折紙列帖装）、横切半／＼美／＼列（半紙／＼美濃／＼横切紙列帖装）、縦半／＼美／＼半（半紙／＼美濃／＼縦折紙半截判）などによって表記した。これらの用語は判形に料紙の使用法も加味して概念化したものであり、従来の『史料館所蔵史料目録』での表記用語を改めているので、解題に付した図を参照されたい。なお「半」「美」は半紙判・美濃判に代表させて料紙の大きさを示したもので、料紙の種類を示すものではない。特に大型のものは美の下に大を加えた。ただここにあげた形態のものが、本目録にすべて収められているわけではない。

従来の当館の目録では書付類については特に形態は表記しなかったが、本目録では縦紙、折紙、切紙（縦切紙、横切紙）、継紙（縦継紙、横切継紙）で示した。特に大型のものは大を冠した。また、切紙のうち縦横に切った小型のものは小切紙と表記した。

史料の利用にあたっては、全体の解題および目録本文の項目ごとに付した解題を参照されたい。

一 本目録の作成は大藤 修が担当した。

目次

口絵	
凡例	頁
解題	一
信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その三）	一七
目次	一九
目録	二三

信濃国

埴科郡
松代

伊勢町八田家文書目録（その三）

信濃国 埴科郡 松代 伊勢町八田家文書目録（その三） 目次

内 方（御茶の間）		頁
勝手向	……	三
勝手向立て直し	……	三
勝手向取極・諸入用	……	三
金銭出入帳	……	三
親類	……	三
増田徳左衛門家勝手向立て直し	……	三
親類不埒示談仲介	……	三
奉公人	……	三
奉公人給金出入	……	三
土地経営	……	三
居屋敷・土蔵	……	三
自作・小作貸出	……	三
養蚕	……	三
金融	……	三
借入金・預り金	……	三
。松代藩御用達金預り運用	……	三
貸付金・預け金	……	三
無尽	……	三
儀礼	……	三
家		
献上・進物	……	六
到来物	……	六
書状（儀礼的書状）	……	六
財	……	六
武具・印章等注文	……	六
茶道具等売払	……	六
諸道具貸出	……	六
蔵書	……	六
諸芸	……	六
学芸	……	六
能	……	六
柔術	……	六
水術	……	六
松明製法	……	六
信心	……	六
見聞・風説書	……	六
学校	……	六
試験問題	……	六
店 方		
酒造方（酒蔵・酒店）	……	五
町 方		
酒造高	……	五
売渡	……	五
醬油店（松井店）	……	五
店立て直し	……	五
藩御用酒	……	五
陶器方	……	五
触書写控	……	五
軋切支丹類族改	……	五
殿様御入	……	五
飢饉時米調達	……	五
松代藩御用		
御用達金預り運用	……	七
御勝手方御用役	……	七
産物御用掛	……	七
産物御用掛任命	……	七
藩方拝借金	……	七
産物無尽	……	七
産物売捌方問屋	……	七

褒賞	元	諸方より預り金	三	陶器竈場	三
川船会所	三	会所貸下金	三	桑畑	三
通船免許	三	産業統制	三	縮緬製造	三
通船貸下	三	市役金・店口銭	三	絹紬類売買	三
通船取締	三	。糸市役金、。店口銭	三	絹紬類織立	三
会所世話料	三	絹紬・木綿布・麻布等	三	絹紬類買上	三
金子・田畑屋敷貸下	三	他製品商売禁制	三	絹紬類売捌	三
冥加金	三	諸国より城下入込商人改行司	三	。絹紬類専売仕法替、。上州吹屋村一件	三
接待用諸道具貸出	三	産物改	三	絹紬類貸下	三
糸会所	三	。木綿改所、。縮緬改、。産物改所	三	大坂交易	三
糸会所締掛任命	三	并取締役	三	嘉永期甘草・杏仁等	三
藩より拝借金	三	鑑札	三	大坂売捌仕法	三
諸方より預り金	三	。領産取締、。絹紬仲買鑑札、。繭仲買・蚕種商売・糸繭買・唐糸師等の鑑札、。蚕種・生糸鑑札、。木綿商売・木綿布仲買鑑札、。杏干仁商売鑑札、。甘草仲買鑑札、。天秤振商売(香具)鑑札、。煙草鑑札、。楮商人荷宿并鑑札	三	。大坂表金無心一件	三
糸元師	三	糸商売免許	三	西国産物買入	三
紬類売捌	三	冥加金	三	安政期杏仁大坂売捌仕法	三
産物会所	三	。絹紬仲買冥加金、。繭仲買冥加金、。唐糸師冥加金、。木綿師冥加金、。品々冥加金	三	。杏仁買上、。杏仁大坂試捌	三
会所役人心得方・取計方案々	三			維新时期京坂交易	三
藩より拝借金	三			麻・木綿売買	三
拝借(中借)	三			麻売買	三
藩立替	三			木綿売買	三
藩に献上金	三			明礬江戸送	三
藩入用品調達	三			蚕種・生糸改并外国交易	三

検断・調停	六〇
不実商い吟味	六〇
商い出入調停	六〇
入用	六二
諸入用	六三
会所普請・作事入用	六五
勘定	六六
諸書類綴	六六
用状	六六
その他	六六
松代商法社	六七
長野県	六八
勸業	六八
蚕種・生糸交易	六八
松木家	六八
書簡	六八

信濃国

埴科郡
松代

伊勢町八田家文書目録（その三）

（文書記号 28B）

内方（御茶の間）

一般的に近世の商業は、原初形態においてはまず、生活共同の組織である「家」において家族労働を中心に若干の奉公人を雇って営まれ、営業規模の拡大に伴って「家」⇨生活組織と「店」⇨営業組織とが分化し、奉公人制度がシステム化される、という発展方向をたどっている。八田家も組織の分化がかなり進んでおり、「内方」（「家」と「店方」に分化し、後者はさらに営業の種類に応じて専門分化し、いくつかの店に分かれていっている。

内方は家族の生活の場、家政機関であると同時に各店の統轄機関でもあった。そのほか未だ「店」として分離独立するに至っていない営業機能をも内包していた。そして内方の内部でも機能分化が進んでおり、それに応じて種々の掛りが設けられていた。八田家の家政・店政を統轄していたのは元方役であり、内方と各店の金銭請払を管理し、また各店からの意見は必ず元方に報告させ、元方が指図する仕組みになっていた。ただ、元方が設けられた時期は明らかではない。おそらく、元方を中心とする管理システムが確立されたのは、天保期の家政・店政改革においてではなからうか。八田家の当主は藩に出仕していたため、名代役として役代が置かれていた。この役代は一八世紀中期にはすでに設けられていたことが確認でき、役代に就いた者は代々「伝兵衛」を名乗っている。対外的な文書のやりとりは「伝兵衛」の名で

なされている例が多い。元方役が設けられる以前は、役代が家政・店政の統轄機能も果たしていたと思われる。八田家においてもおそらく当初は当主が直接統轄していたであろうが、藩の御用に従事するに従い、その機能を重役に委任していったものと思料される。

家事担当の掛りとしては買物方・賄方等が置かれていた。また八田家は土地経営と材木売買も行っており、家屋敷を貸して家賃を取り、田畑の一部を手作りにし、他は小作に出していた。土地経営は作方や小作家賃方が、材木売買は材木方が担当していた。

八田家では家政・店政を営む上でかなりの奉公人を雇っていた。天明から文化期まではほぼ毎年四〇人以上、多い年には六〇人以上の奉公人を抱えていたが、文政以降減少し、天保期には一〇数人になっている。これは営業不振を示すもので、八田家は奉公人を減じ、一人に複数の役を兼帯させるなど、徹底した緊縮策でもって経営危機を乗り切っている。その一方で、糸会所・産物会所の役人として領内産業統制の実権を握り、支配的地位の確保を図ったのである。奉公人は安永・天明期までは伊勢出身者が多かったが、その後は領内村々の出身者で占められている。

文政以降家政の逼迫した八田は、松代藩その他よりたびたび借金をして凌いだ。本目録にも八田の金子借用証文が比較的そろって収められている。ただ、これらは借金を返済したが故に八田が取り戻した証文であり、印や本文を抹消して返済済みであることを示している。しかし、嘉永期に借財返済見込について藩へ上申した文書（八三六）を見ると、返済できずにいる借金もまた数千両にのぼっていたことが知

られる。

本目録所収の文書ではこのほか、全国各地の様々な出来事に関する情報を書き記したものが数多くあるのが目を惹く。これらは『見聞・風説書』の項目にまとめている。

勝手向

勝手向立て直し

取復見込書類（借財を返済、勝手向立て直しの見込） 貸入 二冊 う 三六

① 御内々御尋ニ付取復手段見込申上（借財返済見込についての藩への上申書） 嘉永 横長半 一冊

② （借財取調帳）（「御内借方」「御金方」「他借金」に分けて取り調べ。藩および諸家より数千両にのぼる借金をしている） 嘉永 横長半 一冊

勝手向取極・諸入用

（勝手向関係文書綴）（勝手向取極・諸入用関係（文化力）） 横切継紙（八九通） う 三九

※丑年要用書類（村々所々田畑小作入調元帳、八田宛の諸品代金・人足賃の請求書・受取書、酒札等々） 天保一二年 横切継紙 横長半 横切継紙 小札 一綴（二冊・う 三〇通）

※丑極月諸方配符書出し（八田が諸村に持っている土地の年貢・諸役受取手形が主体。この他、諸品代金受取手形等を綴る） 天保一二年 横切継紙 横長半 一綴（二冊・う 八四八通）

（金子覚書）（性格不明） 塚田屋 八田様 申 横切紙 一通 う 六四

（葉代金并医者名覚書） 小切紙 一通 う 五七

金銭出入帳

（金銭出入帳）

横長美大 仮一冊 う 六二

親類

増田徳左衛門家勝手向立て直し（八田家と増田家は姻戚関係）

口上覚（勝手不如意ニ付口上書）（伴孫兵衛へ勝手向を引き渡したが、借財がかさみ自殺してしまった窮状を述べ、家名相立つよう親類に配慮方を願う） 増田徳左衛門 御親類中様 弘化二年一二月 美 仮一冊 う 四六

親類不埒示談仲介

（八田）喜兵衛書状（朔次郎不埒一件内済示談金の支払いについて、嘉助が親類のよしみにて問い合わす）（八田）嘉助様（嘉永二丁四年）三月二五日 横切継紙（切貼封） 一通 う 一七

奉公人

奉公人給金出入

乍恐以書付奉願候（八田家奉公中給金・小遣支払被仰付度願書） 浅草寺地中妙徳院地内茂兵衛店平兵衛、差添人新橋山王町幸之助店喜兵衛 眞 横切継紙 一通 う 三六
田信濃守御役人中様 天保一三年九月
乍恐以書付御答奉申上候（江戸浅草寺地中平兵衛奉公中一条御尋ニ付返答書案）（平兵衛が八田家に奉公中小遣・給金を支給されなかったとして訴えたのに弁駁す）（天保一三年） 半 仮一冊 う 五五

土地経営

居屋敷・土蔵

以書付御絶申上候(居屋敷・土蔵請戻取成願書)
〔父の代に木綿問屋を始めるため八田嘉右衛門の
執り成しで藩より金子を拝借し、八田に家屋敷・土
蔵を差し出して代わりに返済してもらったが、勝手
向難渋のため、請戻しの仲介を檀那寺に依頼〕
町杭金平左衛門 證連寺様 天保一二年四月 仲

自作・小作貸出

(作方取入書上)〔木綿、粟、豆、胡麻、大根、
人参、粃等〕 喜左衛門 作方(宛) 天保七年

※丑年要用書類〔村々所々田畑小作人調元帳、八田
宛の諸品代金・人足賃の請求書・受取書、酒札等々〕
天保一二年

※丑極月諸方配符書出し〔八田が諸村に持っている
土地の年貢・諸役受取手形が主体。その他、諸品
代金受取手形、岩村田小作米滞出入についての伝兵
衛の奉行所宛申上書等を綴る〕 天保一二年

※江府より来状〔岩村田出入一件落着につき小沢彦太
夫・中野左膳より八田嘉右衛門宛書状。八田嘉助が
所持の茶碗・水差等諸道具の薩州屋敷への売込みを
山田屋に依頼した件についての来状等〕 (天保)
嘉永

自作畑調覚書 (明治三年)

養蚕

蚕棚卸勘定書 和七 午十一月

金融

借入金・預り金

(金子拝借証文) 八田孫左衛門 竹内三太夫殿
明和五年七月 大堅紙

(金子預り手形)〔金十両〕 八田嘉右衛門内浦
野忠七 吉野殿 文化一四年二月 小切紙

(金子預り手形)〔金十両〕 八田嘉右衛門内浦
野忠七 寺町吉野殿 文政三年正月 横切紙

※(利金借用証文案) 八田鉄之助 糸方御会所(宛)
文政一二年正月 横切紙

(金子預り証文)〔金二十両〕 八田嘉右衛門
水野友作殿 天保九年二月 堅紙

(金子預り証文)〔金二百両〕 八田嘉右衛門
大嶋磯右衛門・吉沢十助・池田良右衛門殿 天保
一二年正月 堅紙

(金子借用証文)〔金二十両〕 八田嘉右衛門
堀内与一右衛門殿 天保一二年七月 堅切紙

(金子借用証文) 八田嘉右衛門 水井忠蔵殿
天保一二年二月 堅切紙

(金子内借証文)〔金二百両。No.三一九、三三五
綴〕 八田嘉助・八田喜兵衛 大嶋磯右衛門・吉沢
十助・池田良右衛門殿 天保一三年正月 堅紙

(金子借用証文)〔金三十両〕 八田喜右衛門
水野友作殿 天保一三年五月二日 堅切紙

(金子内借証文)〔金五十両〕 八田嘉右衛門・
八田嘉助 水井忠蔵殿 天保一三年七月 堅切紙

横切紙 一通 う 三九

<p>(金子借用証文) (金百両) 八田嘉右衛門 水野友作殿 天保一三年一〇月 堅切紙 一通 う三六</p>	<p>(金子借用証文) (金百両) 八田嘉右衛門 水野友作殿 天保一三年一〇月一四日 堅切紙 一通 う三一</p>	<p>(金子借用証文) (金百両) 八田嘉右衛門 水野友作殿 天保一三年一二月朔日 堅切紙 一通 う三〇</p>	<p>(金子内借証文) (金百九十両) 八田嘉助・八田喜兵衛 宮沢彦左衛門・小野左金太・渡辺承之助殿 天保一四年正月 堅紙 一通 う二七</p>	<p>(金子借用・預り証文綴) (九通) う三四</p>	<p>① (金子借用証文) (金三百両) 八田嘉右衛門 水野友作殿 天保一四年八月 堅紙 一通</p>	<p>② (金子預り証文) (金百二十両) 八田嘉助 水野友作殿 天保一四年九月三日 堅紙 一通</p>	<p>③ (金子借用証文) (金三百両) 八田嘉右衛門 金児丈助殿 天保一四年七月 堅紙 一通</p>	<p>④ (金子借用証文) (金五十両) 八田嘉右衛門・八田嘉助 片相重之助殿 弘化三年七月二日 堅紙 一通</p>	<p>⑤ (金子内借証文) (金二十五両) 八田嘉右衛門・八田嘉助 吉沢十助・池田良右衛門・入久左衛門・宮沢喜代治殿 弘化二年五月 堅紙 一通</p>	<p>⑥ (金子内借証文) (金五十両) 八田嘉右衛門・八田嘉助 吉沢十助・池田良右衛門・入久左衛門・宮沢喜代治殿 弘化二年五月 堅紙 一通</p>	<p>⑦ (金子内借証文) (金八十両) 八田嘉右衛門・八田嘉助 吉沢十助・池田良右衛門・入久左衛門・宮沢喜代治殿 弘化二年五月晦日 堅紙 一通</p>	<p>⑧ (金子借用証文) (金三百両) 八田嘉助・加判八田喜兵衛 金児丈助殿 嘉永二年一二月 堅紙 一通</p>	<p>⑨ (金子内借証文) (金百六十両) 八田嘉助 菊池彦助・水井忠藏殿 嘉永三年一二月九日 堅紙 一通</p>	<p>八田嘉助書状 (未年変異一弘化四年信州大地震以来商方手薄になつてゐるので、西木町屋敷を引当に落より二千両の拝借を願ひ出る) 水井忠藏様 (松代藩御勘定所元) (嘉永二、四年) 一、一月 横切紙 一通 う二四</p>	<p>(水井) 忠藏書状 (No. 一四の返書か。御向公様に御内談に及んではどうかともちかける) (八田) 嘉助様 (嘉永二、四年) 二、八月 横切紙 (貼封) 一通 う二五</p>	<p>(金子拝借証文) (金十両) 八田慎藏 関田莊助殿 文久二年二月 横切紙 一通 う七六</p>	<p>※拝借金証文 (絹紬仕入金差支ニ付御産物御助成金拝借証文) (五百両、端裏書「慶応三年四月七日帰ル」) 伊勢町拝借人伝兵衛、親類組合兼伝右衛門 御産物御助成金御掛御役所 (宛) 慶応元年八月 堅紙 一通 う四九</p>	<p>※添証文 (役代伝兵衛産物御助成金拝借ニ付添証文) (端裏書「慶応三年四月七日帰ル」) 八田慎藏 飯島彦兵衛殿 慶応元年八月 堅紙 一通 う四〇</p>	<p>※拝借金証文 (絹紬仕入金差支ニ付御産物御助成金拝借証文) (五百両) 伊勢町拝借人伝兵衛、受人伝右衛門 御産物助成金御掛御役所 (宛) 慶応元年一〇月 堅紙 一通 う四六</p>
--	---	--	--	------------------------------	---	--	---	--	---	--	--	---	---	--	---	--	--	---	---

○松代藩御達金預り運用

※御用達金差引其外利潤請印書（松代藩より御用達金を八田が預って運用し、利息を付けて返済。利息の受取手形。差引勘定書等の綴り。明細は「松代藩御用」の項に示す）

貸付金・預け金

懸合手紙并入用書面（渡辺武左衛門への貸付金返済をめぐって八田嘉右衛門と渡辺の名代が懸け合う）
文政二年正月

※（糸会所江御預ケ金請取手形）

八田喜兵衛・八田辰三郎 八田鉄之助殿 文政一三年四月

（御取立金之内式拾八両請取手形）（長岡の口入で諸方に貸付けた分を長岡が取り立てて八田に返済。No.三〇二、三〇三、三〇八綴） 八田嘉右衛門 長岡助右衛門殿 文政九年十二月二十九日

（御取立金之内四両請取手形） 八田嘉右衛門 長岡助右衛門殿 文政一〇年正月七日

（御取集金利分の内八両請取手形） 八田嘉右衛門 長岡助右衛門殿 文政一〇年十二月二日

（亥年利分之内拾五両請取手形） 八田嘉右衛門 長岡助右衛門殿 文政一〇年十二月一日

（亥年利分之内口両式分請取手形） 八田嘉右衛門 長岡助右衛門殿 文政一〇年十二月二六日

（御口入御取集金之内七両式分請取手形） 八田嘉右衛門 長岡助右衛門殿 文政一〇年十二月一三日

（当子之利分受取手形控）（銀七匁五分） 八田嘉右衛門 桜井利右衛門殿 文政一一年二月

一綴
（三三）通 う 六四

横切紙
横切紙
（二五）通 う 一

堅紙
一通 う 五七

小切紙
一通 う 三三

小切紙
一通 う 三三

小切紙
一通 う 三四

小切紙
一通 う 三五

小切紙
一通 う 三六

小切紙
一通 う 三七

小切紙
一通 う 三九

※（預ケ金利足受取手形控）（金十五両預け。受取利足金一両・銀十二匁） 伊勢町伝兵衛 糸方御会所（宛） 文政一一年二月

（八田嘉右衛門と飯山金談出入之儀ニ付郡方奥津権右衛門申上書）（八田の貸金をめぐる出入）（天保四年） 正月

※（金子預り手形）（産物会所預り） 八田喜兵衛・山崎久右衛門 八田嘉助殿 天保四年九月

主膳書状（無心承諾の礼状）（八田）嘉右衛門様 二月

（大嶋）磯右衛門書状（金子借用の儀について）（No.四〇八、四二七綴りのうち）（八田）嘉右衛門様 二月二日

大嶋磯右衛門書状（借入金返済通知。No.四〇八、四二七綴りのうち） 八田嘉右衛門様 八月五日

宮下善左衛門書状（念仏寺村利分の儀について。宮下は御蔵奉行。No.四〇八、四二七綴りのうち） 八田嘉右衛門様 十一月一日

某（宮下善左衛門カ）書状（借入金利足引下げの儀について。念仏寺村の借入金についてらしい。No.四〇八、四二七綴りのうち）（八田嘉右衛門宛） 十一月二八日

無 尽

（杭金平左衛門発起無尽出入覚書） 明和

（無尽掛金五兩余之内三兩余受取手形） 八田鉄之助 小山田重太郎殿 文政一〇年二月一日

（無尽掛金請取手形）（金五両） 八田鉄之助 森出助殿 文政一一年二月

小切紙
一通 う 三二

堅紙
一通 う 六三
（三葉綴）

堅紙
一通 う 六七

横切紙
一通 う 七三

横切紙
一通 う 四七

横切紙
一通 う 四〇

横切紙
一通 う 四八

横切紙
一通 う 四二

横切紙
一通 う 六七

横切紙
一通 う 三八

堅切紙
一通 う 三六

（無尽掛戻示談覚書） 与一右衛門 天保五年
 二月 豎紙 一通 う三七

（無尽金関係文書綴）
 （一通） 綴 う三三

①（無尽寄金請取手形） 八田嘉助 堀田覚
 兵衛殿 天保一四年二月 豎紙 一通

②（無尽加入金請取手形）（増田徳左衛門加入
 金堀田覚兵衛預り分） 八田嘉助 堀田覚兵
 衛殿 天保一五年二月二日 横切紙 一通

③（八田）嘉助書状（増田徳左衛門預り金の
 儀につき）（堀田）覚兵衛様（天保一五年）
 二月二日 横切紙 一通

（立田）栄水書状（私より受取の五両金を無尽金
 に繰り込まれるよう依頼）（八田）嘉助様（嘉永
 二〇四年）五月九日 横切紙 一通
 （切貼封）

儀 礼

献上・進物

御触之写（諸道具献上の際の作法について）
 横切紙 一通 う六九

座間百人書状（肴并徳利贈呈の礼状。No.四〇八）
 四二七綴りのうち） 八田嘉右衛門様 正月二日 横切紙 一通 う四二

渡辺紀六書状（名産を送ってもらったことへの礼
 状） 八田嘉右衛門様 横切紙 一通 う七三
 （封紙入）

到 来 物

（品物進上口上書） 吉野屋与兵衛 八田嘉右
 衛門様 九月二七日 横切紙 一通 う七三

月岡久栄書状（何村より新茶一箱届けてくれるよ
 う依頼があったので、発送したことを通知。月岡は
 茶道奥坊主組頭。No.四〇八〇四二七綴りのうち）
 八田嘉右衛門様 九月二六日 横切紙 一通 う四八

書 状（儀礼的書状）

源左衛門書状（深川へ転宅の通知）（八田）嘉右
 衛門様 閏七月六日 横切紙 一通 う七三

源左衛門書状（勤番中の状況について報告）（八
 田）孫左衛門・嘉右衛門様 一二月一四日 横切紙 一通 う七六

（望月）主水書状（籠が出来たので御目につけた
 い旨通知。主水は家老。No.四〇八〇四二七綴りのう
 ち）（八田）嘉右衛門様 一二月一〇日 小切紙 一通 う四六

泰治書状（時候挨拶。No.四〇八〇四二七綴りのう
 ち） 書鳩様 六月二二日 横切紙 一通 う四三

塩崎閣白鳥院主書状（地震大震災後他所へ行っ
 ていたが、漸く帰院したことを知らせる） 菊屋伝兵
 衛様（嘉永六年カ）一二月六日 横切紙 一通 う八五

※元治元丑歳二月中よりの来簡（八田慎蔵が諸方
 とやりとりした書簡。内容は種々だが、死亡、法事
 通知、年始挨拶等、儀礼的なものが主。一部産物会
 所に関するものあり） 元治元年二月〇日 横切紙 一通 う七
 （四五通）
 折紙

※慶応元丑歳九月〇之来簡（八田慎蔵が諸方とや
 りとりした書簡。内容は種々で、八田家の用件と産
 物会所の用件の双方にわたる） 慶応元年九月〇日 横切紙 一通 う二
 （五三通）
 横切紙

家財

武具・印章等注文

御武具見積書 甲冑師山下貞助 二月

美 一通 う 六九

(印章製作注文書并印影) (「田氏知則」「姓者藤原」「山長舎」の字を刻した三個の印章) 宮内

小切紙 二枚 う 七三

樂真 林谷明兄

(注文品雛形図) (品名不詳)

堅切紙 一枚 う 七四

茶道具等売払

※江府より来状 (岩村田出入一件落着につき小沢彦太夫・中野左膳より八田嘉右衛門宛書状。八田嘉助が所持の茶碗・水差等諸道具の薩州屋敷への売り込みを山田屋に依頼した件についての来状) (天保三嘉永)

横切紙 横切紙 (四一通) う 五

諸道具貸出

※堀田覚兵衛書状 (長国寺に京都西門跡并善光寺が焼香に来るため、接待用の道具借入を依頼。No.四〇八、四二七綴りのうち) 八田嘉右衛門様 八月一七日

横切紙 一通 う 四三

蔵書

発音録 (木版本。前欠) 大泉水元朗識 (須原屋新兵衛版元) 元文五年五月刊

半 一冊 う 六五

風雅聴書 (筆写本)

縦長本 一冊 う 六六

唐詩迂引書 (筆写本)

縦長本 一冊 う 六七

唐詩迂引書 (筆写本。破損大)

縦長本 一冊 う 六八

鉄炮伝来拔書

美 一冊 う 六〇

勅賜紫衣四海唱導 妙顯龍華樹院 御宝録 (木版)

半 一冊 う 六七

落穂集録 (筆写本。前・中欠)

半 一冊 う 六八

無礼平気楽陀嘶 (筆写本)

美 一冊 う 六九

秋田島沼 (筆写本。地誌)

美 仮一冊 う 七三

臨地会席規則 (木版本) 甲斐一宮浅間神社神官権祝古屋掃部 文政五年八月

半 一冊 う 七三

諸芸 (『蔵書』)

学芸 (『信心』)

御手本 (習字手本) (書状形式) 三輪

美大 一冊 う 六三

菊池孝助・矢野倉物之進差紙 (儒者講義素読通知。No.四〇八、四二七綴りのうち) 八田嘉右衛門様 四月九日

横切紙 (封紙) 一通 う 四九

管較与曹操論龍

縦紙 一通 う 七九

(伊勢物語拔書)

横切紙 一通 う 七九

愛菊説写 作者森十左衛門妻・多賀信濃娘 享保一七年

横切紙 一通 う 七五

(詠草入包紙) (包紙のみ) 菅磨点作

一枚 う 七五

詠草 薫胤

縦美半 一冊 う 六三

(詠草綴) 薫胤	折紙	(一綴) う 六五
(詠草) 薫胤	折紙	一通 う 六六
(詠草) 薫胤	折紙	一通 う 六七
(詠草) 薫胤	折紙	一通 う 六八
(詠草) 薫胤	折紙	一通 う 六九
(詠草) 薫胤	折紙	一通 う 七〇
詠草 薫胤	折紙	一通 う 七一
詠草 薫胤	折紙	一通 う 七二
詠草 薫胤	折紙	一通 う 七三
詠草 薫胤	折紙	一通 う 七四
詠草 薫胤	折紙	一通 う 七五
詠草 薫胤	折紙	一通 う 七六
詠草 薫胤	折紙	一通 う 七七
詠草 薫胤	折紙	一通 う 七八
詠草 薫胤	折紙	一通 う 七九
詠草 薫胤	折紙	一通 う 八〇
詠草 薫胤	折紙	一通 う 八一
詠草 薫胤	折紙	一通 う 八二
詠草 薫胤	折紙	一通 う 八三
詠草 薫胤	折紙	一通 う 八四
詠草 薫胤	折紙	一通 う 八五
詠草 薫胤	折紙	一通 う 八六
詠草 薫胤	折紙	一通 う 八七
詠草 薫胤	折紙	一通 う 八八
詠草 薫胤	折紙	一通 う 八九
詠草 薫胤	折紙	一通 う 九〇
詠草 薫胤	折紙	一通 う 九一
詠草 薫胤	折紙	一通 う 九二
詠草 薫胤	折紙	一通 う 九三
詠草 薫胤	折紙	一通 う 九四
詠草 薫胤	折紙	一通 う 九五
詠草 薫胤	折紙	一通 う 九六
詠草 薫胤	折紙	一通 う 九七
詠草 薫胤	折紙	一通 う 九八
詠草 薫胤	折紙	一通 う 九九
詠草 薫胤	折紙	一通 う 一〇〇

③ (神道大意認書写) 守始齋誌 (八田孫左衛門写) 天明二年九月

横長美 一冊

④ (神道大意認書) (天明二年)

折紙 一通

(道歌) (吉川惟足翁の教の歌を印刷)

小切紙 一枚 三六

(道歌) 素弓

横切紙 一通 三八

(神社考拔書) (卜部兼直歌)

横切紙 一通 四四

三社詠歌ノ託宣 (八幡大菩薩・天照大神・春日大明神)

小切紙 一通 五二

(山田大明神・多賀大明神・日向大明神詠歌託宣)

横切紙 一通 五三

秀吉公製作加減関白丹藥法写 (藥法に仮託して教訓を述べたもの)

横切紙 一通 五三

(教訓歌写)

横切紙 一通 五五

山本氏碑文并銘 (包紙上書き「紫木村阿弥陀堂前山本勘助道鬼入道新三石碑相建候付銘同邑安貞法師写與ス」) 寒松山僧補嶋兒誌 天文四年一二月三日

横切紙 (包紙入) 一通 五五

(更級郡八幡村武水別神社八幡大神宮正殿再造落成之節献上物旧記按文) 寛政三年

堅紙 一通 八三

○

(新古廻去帳二冊請取手形) 田院様 閏二月二十九日

万竜寺留居 慈

小切紙 一通 六三

見聞・風説書

京都御町奉行松平伊勢守様方御嫡子左金吾様江御到来之御直書御紙面写 (京都大地震について) 文政二年七月

半 一冊 六二

肥前国島原大変一件 (肥前島原普賢山噴火についての島原城主松平主殿頭より御用番島居丹波守宛書等の写) (寛政四年)

美 一冊 六四

翻訳鴉片始末 (アヘン戦争について)

鎌原貴政

美 一冊 六五

嘉永癸丑六月華盛頓入船聞書 (ペリー浦賀来航についての諸方よりの聞書)

美 一冊 六五

亜美利駕州之内華盛頓国書和解 (アメリカ合衆国大統領の国書についての幕府の諸大名宛廻状の写) 嘉永六年

美 一冊 六六

補漏 (幕末期の某書状の写)

美 一冊 六五

美濃国大柿 (垣) 領大風雨御届之写

美 一冊 六五

諸方交事風説聞書其外種々不用之品小書付入袋 (No.六八五~七七の文書を入れてあった。ただし、この項には風説聞書の類いのみを配列し、他はそれぞれの該当項目に入れた。)

一袋 六四

(大坂市中打ち毀し騒動一件為知状) (家質奥印差配所に反対した騒動) (明和五年)

横切紙 (巻紙) 一通 六九

上州高崎御城主松平右京亮様御届之写 (上州妙義下河原へ他領の下仁田・富岡・松井田辺の百姓が大勢集まり、安中城下その他の米買占商人の家を打ちこわした一件について) (天明三年)

折紙 一通 七三

(名前書) (No.七三二の騒動で打ちこわされた者たちの名前らしい) (天明三年)

小切紙 一通 七〇

(潰シ・焼払家々聞書) (No.七二二)の騒動で打ちこわされたり、焼き払われた家らしい) (天明三年)	小切紙	一通う七二
浅間山大焼上州 我妻 両郡亡損村方絵図 天明三年	8×8	一鋪う七七
(佐野善左衛門江仕置仰付書写) (佐野善左衛門が殿中にて田沼意知を殺傷した一件) (天明四年四月)	横切紙	一通う七三
(於江戸城御前用碁棋譜写) (本因坊列元対安井仙知 元丈対井上春策) 寛政二年十一月	堅紙	一枚う七四
(御行列帳写進呈添状) 野中八右衛門 八田孫左衛門様 一〇月二八日	小切紙	一通う七三
(箱館奉行任免仰付書并松平金之助江蝦夷地警固仰付書写) (エトロフ島にロシア船が来航した時のもの) (文化一四年)	横切紙	一通う七〇
(老中御書付写) (蝦夷地警固について、老中松平伊豆守信明より書付を以て南部大膳大夫と松平金之助に申し付けらる) (文化)	横切紙	一通う七五
(夷国境取締仰付書写) 御書院番頭松平信濃守以下五名	横切紙	一通う七九
(老中御書付写) (蝦夷地警固の面々に対する慰労の上意。老中松平伊豆守信明より渡さる) (文化)	小切紙	一通う七三
大村上総介留守居方之奉札并御用番土井大炊頭様江鍋嶋家御届書写) (長崎に英艦来航の件について) 文化五年	折紙	一通う七七
運氣考写 (文化六年の氣象について御先手大野勘左衛門が考えを記し公儀へ上呈)	横切紙	一通う七五
(武衛流棒火午炮機竿火之次第写) 神戸源左衛門 (大筒役) 文化七年九月	横切紙	一通う七〇
(親鸞上人五百五十回忌ニ付大師号願出之儀所司代申渡書写) 東西本願寺・奥正寺・其外共(宛) (文化九年カ)	横切紙	一通う七六
九月朔日於上野山内流鏑馬射手方順 文化一二年	横切紙	一通う七〇
片岡半蔵書状 (阿蘭陀人が寺社方に行った時の装束、風貌、および献上物について通知) 八田嘉右衛門様 三月朔日	横切紙	一通う七九
仙石越前守様為御知状写 (但馬国并丹後国領分の風水害の被害状況について幕府御用番に届ける) 八月	堅切紙	一通う七五
酒井雅楽頭様為御知状写 (播州姫路大風雨の被害状況について幕府御用番に届ける。No.七〇五と同じ災害) 八月二一日	堅切紙	一通う七六
(深川火事現場略図)	16×13.5	一枚う七三
某書状 (江戸両国・浅草辺大火について通知)	横切紙	一通う七三
(無宿三拾人佐州江相越候ニ付道中奉行触写)	小切紙	一通う七六
(為知状) (旗本大井新右衛門が妻と養子を密通の廉で手討ちにした事件と、谷町出火の件について八田に知らせる) いせ町様 一〇月八日	横切紙	一通う七二
(為知状) (旗本大井新右衛門が妻と養子を密通の廉で手討ちにした事件について)	横切紙	一通う七七
(為知状) (No.七〇二・七〇七と同じ事件に関して)	横切紙	一通う七三
(晒首立札写) (上総国本郷村百姓長七の召使幸助が殺人の罪で晒首にされた時の立札を書き写し、状況を図示)	横切紙	一通う七四
(深川南塗師町山崎彦作後家・娘夫敵討始末書留) 深川元町月行事平治郎 (巻紙)	横切紙	一通う七三

(勅使江戸登城之式次第写)

(公方様・大納言様江献上品目録写)〔No.七〇八と関連カ〕

(公方様・大納言様方禁裏・女院・親王・准后江献上品目録写)〔No.七〇八と関連〕

三月廿八日御膳御下被下候御料理御献立〔禁裏にて諸大名が接待された時のもの〕

(勅使・院使江戸登城之次第書留)

松木書状〔京都よりの進物ならびに公家衆へ下され物、および小普請取扱早水甚太郎方より御守に出る件について通知〕 八田様 九月五日

(上杉弾正大弼様御国許百姓方申出ニ御取捌被成候一件聞書)

(小笠原大膳大夫家来共取締不宣ニ付逼塞仰付書写) 大目付有田播磨守、御目付内藤隼人正小笠原大膳大夫名代小笠原主殿頭(宛)

評定所之図

(仙波宮修履鹿末之致方ニ付作事奉行以下仕置仰付書写)〔仙波宮は川越城下近辺所在〕

殿様御代り大手御番所松平甲斐守様被仰付候川後御普請御用懸り名前書

(西二月朔日於薩州江戸屋敷南雲新右衛門茶会席目録)〔道具、会席献立〕

大銃隊布列之図 (維新时期カ)

(伍長人別覚書)〔No.六七六と関連カ〕

横切綴紙 一通 う 七六

小横切紙 一通 う 七二

横切綴紙 一通 う 七四

横切綴紙 一通 う 七五

横長半 仮一冊 う 七七

横切綴紙 一通 う 七六

横切紙 一通 う 七三

横切綴紙 一通 う 七四

8×8 一枚 う 七五

横切綴紙 一通 う 七三

横切紙 一通 う 七六

折紙 一通 う 七五

11×24 一鋪 う 七六

横長半 仮一冊 う 六二

学 校

試験問題

(地理試験問題) (明治)

(論説項目覚書) (明治)

堅紙 一通 う 七六

堅算紙 八通 う 七七

店 方

八田家の「店方」は営業の種類に応じて専門分化し、酒蔵方(酒蔵・酒店)・呉服店・油店・醤油店(松井店)・質店・陶器方が設けられ、各店ごとに営業帳簿が作成されている。酒店は時期によって油・味噌・醤油も扱っているが、帳簿上は酒と一緒に記され、別帳仕立てにはなっていない。独自の店として分立することによって、はじめて帳簿も別個に作成されることになる。つまり、組織と帳簿はあくまで一体化しているのである。なお、各店の帳簿は、いわゆる当座帳の類いはあまり残存しておらず、一定期間ごとに営業の諸事項を取り調べた帳簿と「棚卸勘定目録」が大半を占めている。両者とも内方に提出され、永久保管された帳簿である。八田家の帳簿は紙背を使用したものが多いので、当座帳は勘定が済んで現用機能を喪失した段階で解体され、紙背を用いて新たな帳簿に仕立て直されたものと推測される。

営業の中心は酒造業と呉服商であり、酒造方・呉服店は早くから設けられていたようである。酒造方は酒造部門の酒蔵と販売部門の酒店に分かれ、酒店はさらに本店と出店(紺屋町店)に分化していた。営業成績の上では酒造方が八田家の営業の中心であった。なお酒店は、時期によって油・味噌・醤油も扱っている。呉服店は京都・伊勢・大

坂より呉服太物類を購入して松代およびその周辺に売り捌き、逆に信州の特産物である紬・生糸・繰綿等を上方や江戸に出荷しており、本店と出店（紺屋町店と中町店）に分かれていた。しかし、営業成績は不振であった。呉服店の「棚卸勘定目録」は文化六年（一八〇九）春改めのもの（同五年分）から天保九年（一八三八）正月改めのもの（同八年分）まで空白があるが、これは目録が残らなかったというより、他の史料もこの間見られず、内方の記録にも現れないことからして、閉店していたためと推測される。

油店の確かな開設時期は不明であるが、寛保三年（一七四三）（安永一〇年（一七八一））の間の棚卸勘定帳が残っているので、一八世紀中期にはすでに設けられ営業を続けていたことが知られる。しかし、経営規模は酒造店や呉服店に比べるとるかに小さく、特に安永期には極端に規模が縮小され、全く存在意義を失うに至っている。史料の残存のありようからみて、天明初年には閉店され、天保期に再開されたようである。

一八世紀中期には味噌・醤油の醸造も行っていたが、未だ独立の店を開設するに至っておらず、鏡屋町店・紺屋町店・伊勢店などで酒や呉服類と一緒に販売されていた。しかし、一八世紀後期には中止されたようである。その後、文政初年に醤油店が中町と錦町に開設されている。この両店は松井店とも称しているが、おそらく松井姓の者に経営を請け負わせていたためと考えられる。松井店では陶器・塗物・紙なども扱っていた。なお、文政初年に同じく松井店の名で越後赤倉にも出店しており、ここでは穀店と温泉宿を営んでいた。

質店は寛政期に開設されている。八田家は早くから利貸を行っており、この機能が拡大して独立の店を設けるに至ったものである。ただ、質店開設後も内方でも貸付を行っており、八田家の貸付機能のすべてが質店に集中されたわけではない。しかしながら、質店と内方の貸付

機能の関係については明らかではない。

陶器竈は荒神町に設けられており、製品は松井陶器店で販売された。以上の各店には責任者として支配役が配置され、一応独立した経営を行っていた。そして内方（「家」）が各店を統轄した。内方は各店に資金を援助し、逆に各店は利益の一部を内方に上納しており、この上納金および家賃・小作料収入等をもって八田の家計が賄われていた。営業を統轄するということは、とりもなおさず営業にかかわる記録を管理することにほかならない。各店は別個に営業帳簿を作成していたが、一定期間ごとに営業の諸事項についての取調帳と、それに基づく「棚卸勘定目録」を作成して内方に提出し、内方ではこれを点検したうえで店方と内方とを合わせた「棚卸勘定目録」を作成して、八田家全体の資産の増減を確認した。つまり、八田家では「家」と「店」の分化が進んでいたのがあるが、最終的には「店」は「家」に統轄されたのである。これは、営業が「家業」として行われていた近世においては一般的な営業システムのあり方であり、近代的な企業経営への前段階に位置する。

八田家の屋号は「菊屋」であるが、「角喜」という通称も用いられており、史料では圖と標示されている例もある。符牒は表示の通りである。

八田家の符牒

符牒	解読
信州朱城富所守尼順意秋春代此今	両分朱百拾九八七六五四三二一

なお、店方の営業関係の帳簿はすでに八田家文書目録（その一）と（その二）に収められており、本目録では酒造方・醤油店・陶器方の書付類若干を収めているにすぎない。

酒造高

（大嶋）磯右衛門書狀（御近領酒造高の儀について。No.四〇八、四二七綴りのうち）（八田）嘉右衛門様 一〇月四日 横切縫紙 一通 う四〇

壳
渡

※(酒代金覚書)(No.五七二六)一四綴りのうち。
産物会所へ売った酒代。 菊屋伝兵衛 御役所(産物 横切紙
会所宛) 未(天保六年)二月二十七日 一通 う六〇〇

醬油店（松井店）

店立て直し

帳
天保四年中町醬油店喜助取調方不都束ニ付親類共立入懸方取集之手段同書并受書改有物調
綴
（二七通）う 三

- ① (巳春⁵十月迄暮方入料書上) 中町松井
店巳 (天保四年) 一〇月 小切紙 一通
- ② (売掛金取調覚書) (天保四年) 横切継紙 一通
- ③ (御上納金辻書上) 中町松井店 午 (天保五年) 横切紙 一通
- ④ (去巳年分諸入用割合積書) (天保五年) 横切継紙 一通
- ⑤ (御上納金辻書上) 中町松井店 未 (天明六年) 二月 横切継紙 一通
- ⑥ (棚卸勘定覚書) (天保五年) 横切紙 一通

八田家文書目録（その三）
店方 酒造方、醬油店

- | | | | |
|---|---|------|----|
| ⑦ | (御内方・御下屋敷江売掛金并正有金取調覚書) | 小切紙 | 一通 |
| ⑧ | (已二月 ⁵ 上納金辻書上) (天保四年) 一月 | 小切紙 | 一通 |
| ⑨ | (中町醬油店取続方ニ付申上書) (これまでの不埒を詫ひ、今後は万事現金売にし、貸売はしないようにして、取続をはかることを内方に上申) 和七 二月 | 横切繼紙 | 一通 |
| ⑩ | (諸代金仕切状) 和吉 松井平兵衛様 午(天保五年) 二月二七日 | 横切繼紙 | 一通 |
| ⑪ | ※(御用酒之儀ニ付願書案) (御用達の御酒払底につき、御用酒差上手段もないので、御酒を差し上げたい旨願う) (天保) | 横切繼紙 | 一通 |
| ⑫ | (上納金之儀ニ付申上書) | 折紙 | 一通 |
| ⑬ | (商売方取計存寄書) (中町店追年不勘定につき) | 横切繼紙 | 一通 |
| ⑭ | (棚卸勘定書上) 中町松井店 | 横切繼紙 | 一通 |
| ⑮ | 松井店取調之書類 (目録) | 堅切紙 | 一通 |
| ⑯ | 差上申一札 (中町醬油店喜助不埒詫証文) (喜助が気鬱症になり、店の経営を悪化させたことを詫ひ、弟勇右衛門が残掛金を取り調べて回収し、店を立て直す事を誓う) 中町喜助・親類勇右衛門・同断戸佐久 伊勢町伝兵衛様 天保四年二月 | 大堅繼紙 | 一通 |
| ⑰ | 御内借金証文 (商売方仕入差支につき三五兩借用) 中町喜助 浦野忠七(宛) 天保三年十一月 | 大堅繼紙 | 一通 |

藩御用酒

※（御用酒之儀ニ付願書案）（御用達の御酒払底つき、御用酒差上の手段もないので、御用酒を差し上げたい旨願う）（天保）
横切継紙
一通 う 三三

陶器方

（荒神町陶器場竈・諸道具借用証文） いせ町清吉 西木町喜惣治、東寺尾弥兵衛 菊屋伝兵衛殿
文政八年六月
（包紙）
一通 う 三三

差上申一札之事（陶器竈場渡世人江貨渡ニ付差上一札写） 伊勢町伝兵衛 抱屋敷役代善八 名主徳右衛門殿、長町人佐吉殿、五人組衆中 文政八年九月
横切継紙
一通 う 四六

（金子借用証文）（陶器方仕入金差詰りにつき）
西木町喜惣治 浦野忠七様 文政一年五月
堅紙
一通 う 三六

○

※（伊勢町伝兵衛取扱荒神町陶器竈場之儀ニ付同書案）（従来、伝兵衛に貸して製造させていたが、職人等の締め付けかねる故、会所取扱にしてほしい旨願い出た件について）
折紙
一通 う 八三

※陶器方一件ニ付申上書案（荒神町陶器竈場をすべて産物方の取扱にしてほしい旨、伊勢町伝兵衛が願い出た件について） 産物会所懸り
横切継紙
一通 う 四六

※（荒神町陶器竈渡世人増員願廻章）（宛名の下に回答を記して嘉助に返す。No.六一八〜六四二綴りのうち）（八田）嘉助（水井）忠藏（春日）儀左衛門・（八田）喜兵衛・（八田）辰三郎・（松本）嘉十郎様（産物会所懸） 三月朔日
横切継紙
一通 う 三三

※（作恐以書付奉願候（拝借仕罷在候陶器すやき竈地震ニ而大崩ニ付繕普請願書） 荒神町伝兵衛 御産物方御会所（宛） 嘉永六年正月
堅紙
一通 う 四三

※（すやき竈繕普請入用書上） 荒神町伝兵衛 御産物方御会所（宛） 嘉永六年正月
美
仮一冊 う 四六

※（繕普請入料の内古竹杭等返上願書） 荒神町伝兵衛 御産物方御会所（宛） 嘉永六年二月二十九日
美
仮一冊 う 四三

※（乍恐以書付奉願候（竈破損ニ付普請願書） 荒神町伝兵衛 御産物方御会所（宛） 嘉永八年六月
堅紙
一通 う 四三

町方

伊勢町八田家初代孫左衛門が宝永六年（一七〇九）に町年寄に就任して以来、当主は代々その職を勤めた。

松代城下の町人町には馬喰町・紙屋町・紺屋町の「上三町」、伊勢町・中町・荒神町の「本町三町」、肴町・鍛冶町の「脇二町」が存在し、「町八町」と総称された。このうち伊勢町には枝町として木町と鏡屋町が属していた。町八町にはそれぞれ肝煎が置かれ、これらの統轄機関として町年寄四名と検断一名が置かれていた。そして、各町よりの願書・訴状は町年寄・検断を通じて各町の肝煎に廻達せられ、逆に藩よりの触・達は町年寄の職務として、あるいは町の一成員として作成ないし受理して八田家に伝来した文書を収める。ただ、今回の目録ではその数量は少ない。

触書写控

(殿様卒去ニ付忌中嶋物・殺生・普請停止触書写) 横切紙 一通 う七〇

(従公儀宿場并往還之旅人江被仰出触書写) 小切紙 一通 う六六
(不法の禁止) 閏六月

軋切支丹類族改

類族不出筈之男女帳面除候覚(破損大) 彦坂 美 一冊 う六七
壹岐守・建部志摩守殿 享保九年二月二日

殿様御入

河原理助用状(殿様田町御抱屋敷御入延引通知 横切紙 一通 う四九
河原は御側役。No.四〇八〇四二七綴りのうち) 八
田嘉右衛門様 四月九日

飢饉時米調達

上柴町方書状(違作中米調達の件につき。天保飢 横切紙 一通 う二〇
饉時の米調達か) いせ町様 (天保カ) 九月二七
(切貼封)

松代藩御用

伊勢町八田家の当主およびその役代伝兵衛は、年貢諸役取立の請負、御用米金の調達・運用、御勝手御用役、産物御用掛、産物売捌方問屋、川船運送方御用等々、松代藩の種々の御用を勤めていた。この項目にはそうした松代藩の御用にかかわる文書を収め、その内部は御用の種類ごとに分けた。

なお、糸会所・産物会所・商法社の役職勤務も松代藩の御用の一種ではあるが、それらについては別個に大項目を立てて関係文書を収めた。

御用達金預り運用

※御用達金差引其外利潤請印書(松代藩より御用達金を八田が預かって運用し、利金を付けて返済、利金の受取手形、差引勘定書等の綴り) (一綴 う四四
(二三通))

①(御用達金已利金請取手形) 徳高甚蔵 横切紙 一通

②(御用達金午利金請取手形) 徳高甚蔵 横切紙 一通

③(御用達金未利金請取手形) 徳高甚蔵 横切紙 一通

④(御用達金申利金請取手形) 徳高甚蔵・ 横切紙 一通

⑤(御用達金西利金請取手形) 徳高甚蔵・ 横切紙 一通

⑥(御用達金戌利金請取手形) 関田庄助 横切紙 一通

⑦(御預ケ金亥利金請取手形) 大嶋武左衛門・斎藤善九郎 横切紙 一通

⑧(御預ケ金子御礼金請取手形) 大嶋武左衛門・斎藤善九郎 小切紙 一通

⑨(御預ケ金子月掛御礼金請取手形) 大嶋武左衛門・斎藤善九郎 小切紙 一通

文化一三年二月二日 八田嘉右衛門殿 文 一通

- ⑩（御預ケ金子月掛御礼金請取手形） 大嶋武左衛門・斎藤善九郎 八田嘉右衛門殿 文 小切紙 一通
化一三年二月二日
- ⑪（御預ケ金子御礼金請取手形） 大嶋武左衛門・斎藤善九郎 八田嘉右衛門殿 文化一三年二月二日 小切紙 一通
- ⑫（御預ケ金丑御礼金請取手形） 大嶋武左衛門・斎藤善九郎 八田嘉右衛門殿 文化一四年二月 横切紙 一通
- ⑬御預り金利分上納受取御用達金御預り金調書（八田嘉右衛門） 文化一四年二月九日 横切紙 一通
- ⑭（御預り金差引勘定書）（「若殿様御繰廻金」や「御勝方御用御繰廻金」等を預る）（八田嘉右衛門）（文政二年） 横切紙 一通
- ⑮（御預ケ金辰御礼金請取手形） 大嶋武左衛門・菊池孝助 八田嘉右衛門殿 文政三年 横切紙 一通
- ⑯（預り金高取調書）（文政三年） 小切紙 一通
- ⑰（御預ケ金辰御礼金請取手形） 大嶋武左衛門・菊池孝助 八田嘉右衛門殿 文政三年 横切紙 一通
- ⑱（御預ケ金巳御礼金請取手形） 大嶋武左衛門・菊池孝助 八田嘉右衛門殿 文政四年 横切紙 一通
- ⑲（御預ケ金午御礼足請取手形） 大嶋武左衛門・菊池孝助 八田嘉右衛門殿 文政五年 小切紙 一通
- ⑳御蔵御用之方差引入用書（八田嘉左衛門） 文政五年三月 横切紙 一通

- ㉑（献上金之内預り金覚書）（国産御用、産物方御用、御勝手方御用繰廻のため預かる） 八田嘉右衛門（文政六年） 横切紙 一通
- ㉒（御預ケ金午利分請取手形） 大嶋武左衛門・菊池孝助 八田嘉右衛門殿 文政五年一月 横切紙 一通
- ㉓（御内備金午御礼金受取手形） 大嶋武左衛門・菊池孝助 八田嘉右衛門殿 文政五年十一月 小切紙 一通
- ㉔（御内備金午御礼金受取手形） 大嶋武左衛門・菊池孝助 八田嘉右衛門殿 文政五年十一月 小切紙 一通
- ㉕（御内備金午御礼金受取手形） 大嶋武左衛門・菊池孝助 八田嘉右衛門殿 文政五年十一月 小切紙 一通
- ㉖（御預り金差引勘定書）（八田嘉右衛門） 未（文政六年）二月 横切紙 一通
- ㉗（御預ケ金差引勘定書）（大嶋武左衛門・菊池孝助）（文政六年） 小切紙 一通
- ㉘（御預ケ金未御礼金請取手形） 大嶋武左衛門・菊池孝助 八田嘉右衛門殿 文政六年二月三日 横切紙 一通
- ㉙（御預り金差引勘定書）（八田嘉右衛門）（文政五年） 横切紙 一通
- ㉚（御預ケ金未利分請取手形） 大嶋武左衛門・菊池孝助 八田嘉右衛門殿 文政六年 横切紙 一通
- ㉛（御預ケ金西御礼足受取手形） 大嶋武右衛門・入安兵衛 八田嘉右衛門殿 文政八年 横切紙 一通

③② (御預ケ金戔利分請取手形) 大嶋磯右衛門・入安兵衛 八田嘉右衛門殿 文政九年一月 横切継紙

③③ (御預ケ金戔利分受取手形) 大嶋磯右衛門 八田嘉右衛門殿 文政九年二月 横切継紙

御勝手方御用役

(御家御静謐君臣之大儀ニ付口上書写) (近年家中の綱紀が緩んでいるので、その対策についての意見書。御勝手御用役を勤めていたため写したか) 坂巻岩人 樋口民衛殿 享和二年 横切継紙

矢野倉惣之進書状 (願書内見の次第を報ず。矢野倉は勘定所元。No.四〇八、No.四二七綴りのうち) 八田嘉右衛門様 横切継紙

某書状 (金子借用証文下案拝見につき返書) (水井) 忠藏様 (御勘定所元) (八田) 慎藏様 (嘉永) 一二月二七日 横切紙 (切貼封)

某書状 (金子借用証文加判の儀承知につき。No.一八と同人物の書状) (水井) 忠藏様、(八田) 嘉助様 (嘉永) 一二月二七日 横切紙 (貼封)

産物御用掛

産物御用掛任命

産物御用掛被仰付候御書付 (包紙の表題) 八田嘉右衛門 (宛) 文化一三年五月十一日 横切紙 (包紙入)

藩方拝借金

(国産御用金中借証文) 八田嘉右衛門 大嶋武左衛門・斎藤善九郎殿 文化二年五月二七日 大横紙 一通 う三七

(産物方御内御用金中借証文控) (文政二年中借分の証文引替を仰せ渡されたので差し出す) 八田嘉右衛門 大嶋武左衛門・菊池孝助殿 文政五年十一月 縦紙 一通 う五四

産物無尽

御請并申上書控 (産物無尽について。No.四〇八、No.四二七綴りのうち) (八田カ) 横切継紙 一通 う四三

産物売捌方問屋

褒賞

(褒賜状) (菊屋伝兵衛に産物木具類売捌方問屋を申し付けたところ、国産取立の趣意を弁え、出精したので褒美として酒代金三百足を下賜す) 菊屋伝兵衛 (宛) (八田家役代) 文政三年 横切継紙 (包紙入) 一通 う五九

(褒賞状) (産物類売捌問屋出精につき金三百足下賜) 一二月二日 横切継紙 一通 う五二

川船会所

通船免許

（通船差障無御座段請書写）（信州水内郡大瀧村太左衛門が千曲川犀川筋通船を願ひ出たので、通船したても川筋の村方に差障がないか役所より尋ねられたのに対し、差障のない旨請書を差し出す）堀内蔵頭領分二ヶ町村、本多豊後守領分一四ヶ町村各名主・組頭・百姓代 守尾弥惣右衛門様御役所（宛）天明八年一〇月

堅紙

一通 う 四八三

通船御触書写（信州水内郡大瀧村太左衛門に大瀧村より高井郡福嶋村までの通船を許可した旨、川筋の村々に触れる）野村八藏中之条役所 東福嶋村五七ヶ巻村迄、西布野村五西大瀧村迄三拾ヶ村（宛）寛政二年八月三日、九月二七日

堅紙

一通 う 四八三

松代江御願申上候書面（大瀧村吉左衛門が千曲川通船を免許してもらったが、不勝手につき松代領よりも通船相仕立たき旨願ひ出た書取）（文政二年）閏四月

美

仮一冊 う 四四五

通船貸下

借用申通船規定書（通船借用にあたって規定取極）紙屋町戸佐久、西寺尾村受人徳右衛門 御免通船元（宛）天保一〇年二月

堅紙
（包紙）

一通 う 四六四

通船取締

※左忍以書付奉願上候（新潟五松代迄通船取締之儀ニ付願書案）（大坂交易と関係カ）松代船老伝兵衛 通船御掛役所（宛）戊（嘉永三年）八月

半

仮一冊 う 七五

会所世話料

以口上書奉願候（通舟御会所世話料滞ニ付無尽発起願書）西寺尾村徳右衛門・健左衛門 安政四年五月

美

一綴
（二通） う 四八二

金子・田畑屋敷貸下

（川船方会所宛質地証文并小作証文雛形案）

横切紙

一通 う 四四二

質入申証文（屋敷地質入証文写）（産物仕入金を川船会所下ヶ金の内を以て借用）中町五郎作、組合喜八・新三郎 川船御会所（宛）文政二年一二月

堅紙

一通 う 四四四

家屋鋪御預り証文（質入家屋鋪借用証文写）中町五郎作、組合喜八・新三郎（名主忠三郎奥書）川船御会所（宛）文政二年一二月

堅紙

一通 う 四四三

差上申日延書之事（御船方御廻金拝借返納日延書）高井郡中野村質地渡人彦之丞、同彦兵衛、名主・組頭・百姓代各一名 松代御城内中嶋三右衛門様 文政七年九月

堅紙

一通 う 四四九

日延証文（川船会所所方預り地所小作粉上納日延証文）高井郡中野村広右衛門以下五名 中嶋三右衛門様 文政八年三月

堅紙

一通 う 四四二

留書記（荒神町喜左衛門金子出入の出訴のため江戸へのばった際の日記）

半

一冊 う 六〇〇

冥加金

以書付奉願候（積荷半減難波ニ付船敷冥加金減免願書）福嶋村栄八（川船元）松代船元和七様（八田の手代）

堅紙

一通 う 四四〇

接待用諸道具貸出

※堀田覚兵衛書状（長国寺に京都西門跡并善光寺が焼香に来るため、接待用の道具借入れを依頼。No.四〇八、No.四二七綴りのうち）
八田嘉右衛門様 八
月一七日

横切紙

一通 四二三

糸会 所

松代藩領では文化期以降、養蚕製糸業が発展し、この時期、松代城下には糸市が開かれ、市場世話人が任命されて市の運営に当たっていた。そして文政九年（一八二六）には、領内製紙業の育成と統制のために糸会所が設立された。取締役には文化一三年（一八一六）年より産物御用掛を勤めていた伊勢町の八田嘉右衛門（四代当主）が任命され、さらに惣元方にも一族（別家）の八田喜兵衛・同辰三郎が就任している。

糸会所は藩よりの拝借金と商人たちからの借入金・預り金を資金として運営された。会所の建物は惣元方八田喜兵衛役代惣兵衛の屋敷の一部を家賃八両で借り受けたものであり、後の産物会所もこの建物を使用している。当時、製糸は糸元師の支配下で挽子が行っており、文政二年には糸元師仲間が結成され、翌三年から一人六匁ずつの冥加金を上納していた。会所は、挽子の生産意欲を高めて品質を向上させるために、挽子を糸元師から独立させる方針をとり、挽子に対し糸挽道具や原料繭・資金などを貸与した。しかし、現実には糸元師に所属したままの挽子が多く、そのため会所は、文政九年にいったん廃止した糸元師冥加金を同一三年に復活し、しかも挽子人数に応じて賦課した。

この措置は、糸元師が挽子を多く持つだけ冥加金負担を重くすることにより、彼らを圧迫せんとしたものである。糸元師仲間は天保四年（二八三三）には解散させられている。

一方、文政一〇年、繭仲買人仲間が結成され、仲買人の買い取った繭は必ず繭市に出されることになり、養蚕農家→繭仲買人→繭市という原料集荷システムの確立をみている。また同年、繭市での取引の円滑化を図るために、糸会所役人の発案で松代の伊勢町・中町・荒神町に繭売買所が設立されている。売買所は糸元師や挽子に買入資金を援助しているが、この資金は糸会所を通じて藩が貸し下げている。繭は糸元師・挽子のもとで糸に挽かれて松代の糸市で売り捌かれた。糸市での取引に際し、糸世話人は一〇〇両につき二分ずつ冥加金を糸買人より取り立てている。天保四年には、新町村・笹平村・倉科村・森村にも新たに糸市が開設された。なお、糸会所は天保四年、産物会所に拡充改組されている。

糸会所の構成

	氏 名	
	氏	名
役 門	衛	郎
取締元方	八 田	嘉 右
〃	八 田	喜 兵
〃	八 田	辰 三
〃	増 田	孫 兵
元 締	間 嶺	五 右
元 締助	中 町	喜 左
吟 味方	伊勢町	周 兵
〃	伊勢町	× 弥 兵
世 話 人	中 町	× 唯 十
〃	〃	× 仁 兵
〃	〃	× 吉 左
〃	〃	× 武 石
〃	荒神町	治 助
〃	馬喰町	× 印 発
〃	〃	× 端 世

・文政一三年に宿年寄西井七郎太、横谷惣右衛門の二人が糸会所吟味方兼帯を命ぜられている。中町喜代八も町名主で同じく兼帯を命ぜられている。
・糸会所成立以前にも糸市が立ち、世話人が任命されているが、これについては「信濃蚕糸業史」下巻一〇〇頁参照。
・吉永昭氏「製紙業の発展と糸会所の機能」（『史学雑誌』六編二号）第四表所引。

糸会所締掛任命

（糸会所締掛り兼仰付書） 八田嘉右衛門（宛）
文政九年九月一〇日

横切紙
（包紙）

一通 う 四六

藩方拝借金

（金子借用証文） 八田喜兵衛・八田辰三郎（八田嘉右衛門奥書印形） 真田勘解由殿 文政一〇年
二月

縦紙

一通 う 四六

（糸会所御貸下金請取証文） 八田辰三郎・八田喜兵衛（八田嘉右衛門奥書印形） 大嶋磯右衛門・入安兵衛殿 文政一一年一二月

大縦紙

一通 う 三五

諸方々預り金

（金子預り証文） 八田喜兵衛・八田辰三郎 荒木吉右衛門殿 文政一一年七月

縦紙

一通 う 四六

（御預け金之内百兩請取仮手形） 八田嘉右衛門 大嶋磯右衛門・入安兵衛殿 文政一一年一二月二七日

縦紙

一通 う 三三

（御預け金四百五十拾兩之内百兩請取仮手形） 八田喜兵衛 大嶋磯右衛門・入安兵衛殿 文政一一年一二月二八日

縦紙

一通 う 三四

（金子預り証文）（No.三三三、三三四の本証文。預り金の全額四百五十兩を受け取った段階で本証文を渡す） 八田辰三郎・八田喜兵衛・八田嘉右衛門 大嶋磯右衛門・入安兵衛殿 文政一一年一月

大縦紙

一通 う 三八

※（預け金利足受取手形） 伊勢町伝兵衛 糸方御会所（宛） 文政一一年二月

小切紙

一通 う 三一

※（糸会所江御預け金請取手形） 八田喜兵衛・八田辰三郎 八田鉄之助殿 文政一三年四月

縦紙

一通 う 五七

（金子預り手形）

二通 継 う 三六

①（金子預り手形）（糸方預り） 八田辰三郎・八田喜兵衛 徳田五百人殿 文政一三年一月

縦紙

一通

②（預り金糸会所江指出手形） 徳田五百人 岡嶋莊藏様 文政一三年二月

縦切紙

一通

会所貸下金

（金子拝借証文） 世話人御拝借人武左衛門、同伝兵衛（吟味方善左衛門奥書印形） 糸御会所御元方様 文政一〇年一二月四日

縦切紙

一通 う 五五

※（利金借用証文案） 八田鉄之助 糸方御会所（宛） 文政二二年正月

横切縦紙

一通 う 四七

糸元師

（糸元師江触書控）（近年糸元師仲間が不埒の申し合いをし、蚕飼元并挽子を難渋させていることを理由に、糸元師名目を差し留め、鑑札引き上げを申し付ける。糸元師仲間解散令）（天保四年）

縦紙

一通 う 四四

乍恐以書付御受申上候（糸元師共市場世話役江無届ニ而居売之儀託状写） 紺屋町友吉 組合喜兵衛 新馬喰町草助 下田町重助（紺屋町名主、新馬喰町名主・組頭、下田町肝煎奥書） 御産物御懸り御奉行所（宛）

縦紙

一通 う 五四

紬類売捌

(紬斜子代金受取手形他関係文書綴) 天保 小切紙 一綴 う 五元
三年二月

産物会所

産物会所は、天保四年(一八三三)、糸会所の機構が拡充されて設立されたものである。取締役に八田嘉右衛門が、元方に別家の八田喜兵衛・同辰三郎が任命されているのは、糸会所の時と同じである。その後、嘉右衛門の倅嘉助(五代当主)、さらに嘉助の倅慎蔵(六代当主)も産物会所掛りになっている。産物会所の機能は大別して領内産業の育成と統制であり、産物助成金を貸し下げる一方、鑑札制度を広く実施して冥加金を取り立てていた。また、取引をめぐる出入の調停機能も果たしていた。ただ、統制の主たる対象となった産物、統制の内実には時期によって変化がある。会所の運営資金は藩よりの拝借金(文書では「中借金」と表現)と諸方よりの預り金でもって賄われた。

幕末期には、会所組織が領内村々にまで拡大され、鑑札制度も拡大再編されて領内産業に対する統制が強化されている。慶応元年(一八六五)、領内の二三カ村に産物会所(産物改所とも称す)が設置され、それぞれ取締役・世話役各数名が任命された。これら会所役人はいずれも村落支配者層に属していた。慶応三年、明治二年(一八六九)にはさらに増設されている。他方、鑑札制度も安政期・慶応期に大幅に拡大され、松代藩領内のみならず領外にもわたって種々の職人・商人たちが網羅的に鑑札制度の網の中に組み込まれている。村々に置かれ

た産物会所(産物改所)は、その周辺地域での生産物を改め、改冥加金を徴収した。会所の改めを受けることなく売り捌くことは厳禁されており、会所の未設置の地方には松代の産物会所の役人が出張して改めていた。統制の主たる対象となったのは、横浜開港によって輸出品として需要が飛躍的に増大していた生糸・蚕種であった。産物会所は明治四年まで存続して産物統制機能を果たしており、この機能の上に立って明治二年に松代商法社が設立されている。

産物会所役人表(天保4)

	氏 名
産物会所取締役	八田嘉右衛門
産物会所元方	八田喜兵衛、八田辰三郎
産物会所掛り役人*	松本嘉十郎、山崎久右衛門、松本源八、奥津権右衛門、石倉源右衛門、佐竹周蔵、堀内與右衛門、春日儀左衛門
紬方掛り	高井善右衛門
御用達	専助、治助、彦兵衛
会所詰	周兵衛、保平、善左衛門、源左衛門、彌十郎
松代市場世話役	吉左衛門、武左衛門、仁兵衛、保平
新町村糸締掛	音吉、源之丞
森村糸締掛	民左衛門
倉科村糸締掛	吉左衛門
笹平村糸締掛**	勇吉、孝蔵
買次人	重郎治、友吉、祖兵衛、亀吉、伊左衛門、藤吉、清十
会所番人	相澤藤吾、庫之助、武左衛門、惣七

* 武士団の内から会所掛りとして任命されたものを一応書き加えた。本来は武士身分なので別に取扱うべきかも知れないが、会所に關係の深いものとしてここにあげた。
** 糸締掛は、例えば新町村の場合は、天保九年の記録では市場世話役と改称されている。

藩に拝借金（藩よりの拝借は文書では「中借」と表現）

慶応元年設置	慶応3年設置	明治2年設置
後町 内川 三輪 南長池 新町 吉田 大塚 若宮 桑原 中御所 福島 上山田 鼠宿 原 網掛 羽尾 上五明 矢代 力石 上平 湯田中 佐野 沓野	新山 郡 倉科 雨宮 布施高田 上徳間 向八幡 上船山 千本柳 生萱 栗佐 志川	中牧 小島 鬼無里

[illegible]

（産物会所ニ而心得方并取計方条々写）（天保四年）
半
仮一冊う^六

<p>〔御貸下金中借証文〕 八田辰三郎・八田喜兵衛 〔八田嘉右衛門奥書印形〕 小林三左衛門・吉沢十 助・宮沢彦左衛門・池田良右衛門・竹内藤助殿 天 保四年正月</p>	<p>〔中借金請取仮手形〕 〔産物江戸表へ荷出しの駄 賃并上包入料〕 八田嘉右衛門・八田喜兵衛・八田 辰三郎 〔興津権左衛門奥書印形〕 関口又十郎・長 井主計・祢津綾之介・小崎孝作殿 天保四年四月</p>	<p>〔真綿繰合金中借証文〕 八田辰三郎・八田喜兵 衛 〔八田嘉右衛門奥書印形〕 大嶋磯右衛門・西村 源藏殿 天保四年六月</p>	<p>〔御貸金中借証文〕 八田辰三郎・八田喜兵衛 〔八田嘉右衛門奥書印形〕 小林三左衛門・吉沢十 助・宮沢彦左衛門・池田良右衛門・竹内藤助殿 天 保四年八月</p>	<p>〔産物会所繰合金中借証文〕 八田辰三郎・八 田喜兵衛 〔八田嘉右衛門奥書印形〕 大嶋磯右衛門・ 西村源藏殿 天保四年九月二日</p>	<p>〔産物会所繰合金中借証文〕 八田辰三郎・八 田喜兵衛 〔八田嘉右衛門奥書印形〕 大嶋磯右衛門・ 西村源藏殿 天保四年一〇月</p>	<p>〔御礼金時借証文〕 八田喜兵衛・八田辰三郎 〔八田嘉右衛門奥書印形〕 大嶋磯右衛門・西村源 藏殿 〔大嶋は御蔵奉行〕 西村は弘方御金奉行〕 天 保四年一二月</p>
堅紙	堅紙	堅紙	堅紙	堅紙	堅紙	堅紙
一通 う二九	一通 う四七	一通 う二〇	一通 う二一	一通 う三〇	一通 う二二	一通 う五三

(御産物方細代金中借証文) (細買占資金を藩より会所が拝借) 八田辰三郎・八田喜兵衛(八田嘉右衛門奥書印形) 小林三左衛門・吉沢十助・池田良右衛門・宮沢彦左衛門・竹内藤助殿 天保五年三月 豎紙

(御産物細代金中借証文控) 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛(八田嘉右衛門奥書) 小林三左衛門・吉沢十助・池田良右衛門・竹内藤助殿 天保五年五月 豎紙

(御産物細代金中借証文) 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛(八田嘉右衛門奥書印形) 小林三左衛門・吉沢十助・池田良右衛門・竹内藤助殿 (天保五年力) 豎紙

(御産物細代金中借証文) 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛(八田嘉右衛門奥書) 小林三左衛門・吉沢十助・池田良右衛門・宮沢彦左衛門・竹内藤助殿 天保六年三月 豎紙

(御産物細代金中借証文) 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛(八田嘉右衛門奥書) 小林三左衛門・吉沢十助・池田良右衛門・宮沢彦左衛門・竹内藤助殿 天保六年閏七月 豎紙

(金子中借証文) (三井店細仕入代金差支につき) 八田嘉兵衛・八田辰三郎・八田嘉助(八田嘉右衛門奥書印形) 小林三左衛門・吉沢十助・池田良右衛門・宮沢彦左衛門・竹内藤助殿 天保七年十一月 豎紙

(御産物細代金中借証文) 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛(八田嘉右衛門奥書印形) 小林三左衛門・吉沢十助・池田良右衛門・宮沢彦左衛門・竹内藤助殿 天保七年十二月 豎紙

(御産物細代金中借証文) 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛(八田嘉右衛門奥書) 小林三左衛門・吉沢十助・池田良右衛門・宮沢彦左衛門殿 天保八年正月 豎紙

(御産物細代金中借証文) 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛(八田嘉右衛門奥書) 小林三左衛門・吉沢十助・池田良右衛門・宮沢彦左衛門殿 天保八年二月 豎紙

(御産物細代金中借証文綴) 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛(八田嘉右衛門奥書印形) 小林三左衛門・吉沢十助・池田良右衛門・宮沢彦左衛門殿 天保八年正月一〇月 豎紙

細方御中借覽書 (天保)

(御産物木綿方御貸下金中借証文) 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛(八田嘉右衛門奥書印形) 大嶋磯右衛門・西村源藏殿 天保五年九月 豎紙

(木綿方繰合金中借証文) 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛(八田嘉右衛門奥書印形) 大嶋磯右衛門・西村源藏殿 天保五年二月十九日 豎紙

(木綿方繰合金中借証文) 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛(八田嘉右衛門奥書印形) 大嶋磯右衛門・西村源藏殿 天保五年二月 豎紙

(木綿方繰合金中借証文) 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛(八田嘉右衛門奥書印形) 大嶋磯右衛門・西村源藏殿 天保五年二月 豎紙

(木綿方繰合金中借証文控) 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛(八田嘉右衛門奥書) 大嶋磯右衛門・西村源藏殿 天保六年正月 豎紙

(木綿方繰合金中借証文控) 八田喜兵衛・八田辰三郎・八田嘉助(八田嘉右衛門奥書) 大嶋磯右衛門・西村源藏殿 (天保力) 豎紙

(産物会所御下金中借証文) 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛(八田嘉右衛門奥書印形) 小林三左衛門・吉沢十助・池田良右衛門・宮沢彦左衛門・竹内藤助殿 天保七年十一月 豎紙

一通 う 三〇

一綴 (三三) う 四〇

一通 う 五三

一通 う 五七

一通 う 五八

一通 う 五九

一通 う 六〇

一通 う 六一

一通 う 六六

一通 う 三八

（産物会所御貸下金中借証文控） 八田喜兵衛・八田辰三郎・八田嘉助（八田嘉右衛門奥書印形）
池田良右衛門・宮沢彦左衛門・草川吉右衛門殿 天
保一〇年正月 縦紙 一通 う 五三

（産物方拝借金御下ケ金覚書） 子（天保一一年カ）一二月 縦紙 一通 う 三六

（産物会所御貸下金中借証文） 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛（八田嘉右衛門奥書印形）
宮沢彦左衛門・小野左金太・渡辺承之助殿 天保一四年正月 縦紙 一通 う 六六

（産物会所御貸下金中借証文） 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛（八田嘉右衛門奥書印形）
宮沢彦左衛門・小野左金太・渡辺承之助殿 天保一四年正月 縦紙 一通 う 六五

（産物会所御貸下金中借証文） 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛（八田嘉右衛門奥書印形）
宮沢彦左衛門・小野左金太・渡辺承之助殿 天保一四年正月 縦紙 一通 う 六四

（産物会所御貸下金中借証文） 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛（八田嘉右衛門奥書印形）
宮沢彦左衛門・小野左金太・渡辺承之助殿 天保一四年正月 縦紙 一通 う 六三

（真綿繰合金中借証文） 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛（八田嘉右衛門奥書印形）
左衛門・小野左金太・渡辺承之助殿 天保一四年正月 縦紙 一通 う 六三

（産物会所御貸下金中借証文） 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛（八田嘉右衛門奥書印形）
宮沢彦左衛門・小野左金太・渡辺承之助殿 天保一四年閏九月 縦紙 一通 う 二六

（産物会所御貸下金中借証文） 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛（八田嘉右衛門奥書印形）
宮沢彦左衛門・小野左金太・渡辺承之助・海沼龍輔殿 天保一四年十一月 縦紙 一通 う 二九

（借用金高覚書）（No.六一八）No.六四二綴りのうち（天保カ） 横切紙 一通 う 四〇

（中借并預り金差引勘定覚書） 折紙 一通 う 六〇

入安兵衛・大嶋磯右衛門書状（中借金百両の三ヶ年賦返済分の上納がないので問い合わせる。No.四〇八）No.四二七綴りのうち） 八田嘉右衛門様 正 小切紙 一通 う 四五

※（炭屋彦五郎江利足渡分御下ケ金請取手形案）
（大坂交易と関係）伊勢町伝兵衛 水井忠藏・松本嘉十郎様 嘉永四年七月 縦紙 一通 う 八六

※（大坂炭屋彦五郎江利足渡ニ付会所御下ケ金請取手形写）（No.四四七と綴り。大坂交易関係）炭屋彦五郎 水井忠藏・松本嘉十郎様 嘉永四年七月 縦紙 一通 う 四六

※（利足金菊屋伝兵衛方受取手形写）伊勢町伝兵衛 水井忠藏・松本嘉十郎様 嘉永四年七月 縦紙 一通 う 四七

※（大坂炭屋彦五郎江利足ニ付下ケ金請取手形控并利足請取手形写）（大坂交易と関係） 綴（三通） 一通 う 六三

①（大坂炭屋彦五郎江利足ニ付会所御下ケ金請取手形）伊勢町伝兵衛 水井忠藏・松本嘉十郎殿 嘉永四年七月 縦紙 一通

②（利足銀菊屋伝兵衛殿方請取手形写）炭屋彦五郎 水井忠藏・松本嘉十郎殿 嘉永四年七月 縦切紙 一通

③（利足銀菊屋伝兵衛殿方請取手形写）炭屋彦五郎 水井忠藏・松本嘉十郎殿 嘉永四年七月 縦切紙 一通

藩立替

(品々御取替代金返上約束手形) (藩が立替)
八田嘉助 松沢文右衛門殿 (御勘定所) 天保一
年一〇月二四日

小切紙

一通 う 五三

藩江献上金

(蚕種商売人共御本丸御普請御用途金献上願
書案) (御国恩に報いるため献金を願ひ出る)

半

仮一冊 う 五三

藩入用品調達

佐藤左金吾用状 (年始礼錢を明日中に上納するよ
う命じる。佐藤は元方御金奉行。No.五七二、No.六一
四綴りのうち) 八田辰三郎様 (天保) 一二月三
日

小切紙

一通 う 五二

(呉服買入代金覚書) (太織上下地、繭縞野、真
綿等。藩の入用のためらしい。No.五七二、No.六一四
綴りのうち) (天保)

折紙

一通 う 六四

(八田嘉助江送り金受取手形) (No.六一八、No.六
四二綴りのうち) 才領組安川岩之丞 大塚孝三郎
殿 (御台所元ノ頭取) 亥 (天保一〇年) 三月二〇
日

小切紙

一通 う 六元

諸方々預り金

※ (金子預り手形) 八田喜兵衛・山崎久右衛門
八田嘉助殿 天保四年九月

堅紙

一通 う 三七

(金子預り手形) 産物方会所 (春日儀左衛門・
佐竹周蔵・八田嘉助奥書印形) 小諸町布屋七郎右
衛門・大和屋利兵衛・布屋政太郎殿 天保五年九月
二七日

堅紙

一通 う 七六

(産物方江御預ケ金請取仮手形) 八田嘉助・
八田辰三郎・八田喜兵衛 徳田五百人殿 天保六年
正月

堅紙

一通 う 三七

(金子預り証文) 八田嘉助・八田辰三郎・八田
喜兵衛・八田嘉右衛門 中村与三左衛門殿 天保一
年一二月

堅紙

一通 う 三三

(金子預り証文) 八田嘉助・八田辰三郎・八田
喜兵衛・八田嘉右衛門 中村与惣左衛門殿 天保一
年一二月

堅紙

一通 う 三三

(柳八右預り金差引覚書) (No.五七二、No.六一四
綴りのうち) (天保)

折紙

一通 う 五五

※ (産物会所文書綴) (杏仁売買、絹紬江戸荷出、
鑑札冥加上納、会所預り金、金所貸下ケ金等々、諸
般にわたる種々の文書の綴) (安政ノ慶応)

横切紙
横切紙

一綴 (二八通) う 四二

預り金利足渡覚

横長半

仮一冊 う 四六五

(産物会所江差出才覚金請取手形) 富岡良右
衛門・小野唯之進・八田慎蔵・幡場潤蔵 坂本嘉助・
坂本寛助殿 明治二年正月

堅紙

一通 う 四九三

会所貸下金

(杏仁買上資金の仲買への貸下関係)

文書は『大坂交易』―「安政期杏仁大坂売捌仕法」の項に入れる

御拝借仕金子証文 山田村拝借人左重 産物御会
所(宛) 天保四年三月五日

堅紙

一通 う 四三

御拝借証文(真綿代金拝借証文) 内川村御借主重郎次、名主・組頭・長百姓各一名 御産物御会所(宛) 天保五年正月二日 堅紙 一通 う 四三	御拝借証文(真綿代金拝借証文) 上徳間村名主御借主龜三郎、組頭・長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 天保五年正月 堅紙 一通 う 四四	乍恐以書付奉願候(金子貸下願書) 内川村願人柳八 御産物御会所御元方旦那様 天保八年六月 堅紙 一通 う 四三	御尋ニ付御答奉申上候(産物売買之儀御尋ニ付返答書) (金子を遣わさず難渋しているか否かの尋問に対し、御産物を買い取っているが、払方には難渋していない旨返答) 天保一〇年四月 堅紙 一通 う 四九	(絹紬買次問屋江貸下金覚書) (天保) 小切紙 一綴 う 四七五 (二通)	(絹紬買次問屋江貸下金残金覚書) (天保) 横切紙 一通 う 四七	(養蚕・機織衰微ニ付金子拝借願書) (文化年中以来の松代の養蚕・機織業の由来についても記す) 松井和七 天保二三年二月 堅紙 一通 う 四三	(紬織元真綿繰合金拝借之儀ニ付会所懸り伺書并奥津権右衛門添伺書写) (紬織元に真綿繰合金を会所より貸し下げた場合の利足について何う) (天保) 半 仮一冊 う 三三	(利足金下渡受取手形) (No.六一八、No.六四二綴りのうち) (天保) 大晦日 小切紙 一通 う 三三	乍恐以書付御内々奉歎願候(天秤振商売鑑札冥加銀之内式割方下渡願書写) (鑑札渡所孫兵衛宅が変災で大破し、修復等に入用がかかったので、冥加金の二割の下げ渡しを願う) 増田孫兵衛・轟弥兵衛・仲間取締役惣代 御産物方御会所(宛) 万延二年二月 半 仮一冊 う 四七	
※拝借金証文(絹紬仕入金差支ニ付御産物御助成金拝借証文) (五百両) 伊勢町拝借人伝兵衛、受人伝右衛門 御産物御助成金御掛御役所(宛) 慶応元年一〇月 堅紙 一通 う 四六	※拝借金証文(絹紬仕入金差支ニ付御産物御助成金拝借証文) (五百両) 端裏書「慶応三年四月七日帰ル」 伊勢町拝借人伝兵衛、親類組合兼伝右衛門 御産物御助成金御掛御役所(宛) 慶応元年八月 堅紙 一通 う 四九	※添証文(役代伝兵衛産物御助成金拝借ニ付添証文) (端裏書「慶応三年四月七日帰ル」) 八田慎蔵 飯島彦兵衛殿 慶応元年八月 堅紙 一通 う 四六	※(産物会所文書綴) (杏仁売買、絹紬江戸荷出、鑑札冥加上納、会所預り金、金所貸下げ金等々、諸般にわたる種々の文書の綴) (安政、慶応) 横切紙 一綴 う 四二 (二八通)	(御産物方為替金内借証文) 才領組岩之丞 水井忠蔵・山崎久右衛門様 午(明治三年) 九月二日 堅紙 一通 う 三六	拝借金証文 福島村平野要左衛門 御産物御役所(宛) 明治三年閏一〇月、一二月 堅紙 一綴 う 四〇 (二通)	※産物方用書(産物会所諸人用払の受取手形、会所貸下げ金の受取手形が主) 明治三年 横切紙 一綴 う 四九 (三一通)	産業統制	市役金・店口銭	○糸市役金	(新町村・笹平村・森村・倉科村糸市役金取立覚書) (天保四年に松代城下の他に上記四ヶ村にも糸市が開設されている) (天保) 横長美 仮一冊 う 五七

○店口銭

店の口銭之儀ニ付伺書控（袖仕入のために罷り下る店々の場造口銭について、以後は大丸店の申し立て通り、口銭を半分ずつ買次と宿に差し出すようにしたい旨伺う。No.六一八、No.六四二綴りのうち）
（天保）一二月

横切綴紙

一通 う 三三

絹紬・木綿布・麻布等他製品商売禁制

御触示案（絹紬・木綿布・麻布等他製品商売禁制触示案）

豎紙

一通 う 五五

（絹紬木綿布売買ニ付触書案）（所産の品を売買し、他製の品を売買するときは届けるよう命ず）

横切綴紙

一通 う 六六

諸国より城下入込商人改

乍恐以書取御内々奉伺候（諸国方城下入込候御商人改之儀ニ付伺書写）中町相之助 御産物方御役所（宛）
嘉永三年一月

美

仮一冊 う 五九

行司

布中買行支願書（各村の名主・組頭・長百姓が木綿布中買取締行司の候補者名をあげ、任命を会所に願ひ出る）
布施五明村・上山田村・四ッ屋他村々名主・組頭・長百姓 御産物方御会所（宛）
天保 一二年

美

一綴（一通） う 二五

布中買行司願書 大豆嶋村・北堀村・上真嶋村各名主・組頭・長百姓 御産物方御会所（宛）
天保 一三年

美

一綴（一通） う 二六

木綿行事願書 大豆嶋村・南長池村・小松原村・松岡新田村・押鐘村・下宇木村・真嶋村・川合村・三輪村各木綿師惣代・名主・組頭・長百姓 御産物方御会所（宛）
天保 一三年

美

一綴（一通） う 二七

※木綿行司増之儀伺書（木綿改所新設のため。No.五七二、No.六一四綴りのうち）
（天保 七二）
産物会所懸（天保 七二）

横切綴紙

一通 う 五九

（下宇木村木綿師行司世話役任命之儀ニ付申上書）（以後、一人にて勤めることになった旨を上申）
（天保 七二）

横切綴紙

一通 う 四三

（産物会所懸り伺書）（下宇木村にも木綿師が出てきたので、取締行司を立てよう三輪・返目両村木綿師が願ひ出た件について）
（天保 七二）

半

仮一冊 う 五二

（絹紬中買行司名前書力）（No.六一八、No.六四二綴りのうち）
（天保 七二）

横切綴紙

一通 う 六〇

※杏干仁鑑札願書・木綿布願書類（杏干仁商売鑑札下付願書綴に木綿布中買取締行司役相勤願書と糸商売願書を挿入）
布施五明村・小松原村・新町村他村々願人又は請人 御産物方御会所（宛）
天保 一二年四、六月

美

一綴（一通） う 八六

乍恐以書付奉歎願候（森村榮左衛門が未だ杏仁古干大行司役を仰せ付かっていないのに、大行司の心得にて不埒な行為をした件についての詫状）
森村榮左衛門、名主・組頭・長百姓各二明、紺屋町酒井弥左衛門名代郷宿誂之助 御産物方御会所（宛）
安政 四年六月

美

仮一冊 う 三七

（杏干仁仲買仲間大行司任命願書綴）（無鑑札の小商人共が村々へ入り込みセリ買をしているのを取り締まるため。No.九二〇、No.九三七袋入）
上徳間村願人庄助、布施高田村願人弥兵衛、石川村下組願人藤右衛門、小森村願主新助 御産物方御会所（宛）
万延 元年六月

美

一綴（四通） う 三〇

以書付奉願候（大行司任命願書）（候補者の名を列記して世話役が願ひ出る）
御産物方世話役中村市三郎・堀内介右衛門・関新右衛門 御産物方御会所（宛）
万延 元年六月

美

一通 う 八五

産物改（蚕種・生糸改は『蚕種・生糸改并外国貿易』の項に入れる）

○木綿改所

（木綿改場所替の儀ニ付伺書）（No.五七二）No. 横切繼紙
六一四綴りのうち 産物会所掛り（天保）二月 一通 う 五七四

※木綿行司増之儀伺書（木綿改所新設のため。No.五
七二）No.六一四綴りのうち 産物会所懸（天保 横切紙
カ） 一通 う 五七六

○縮緬改

（縮緬改并緒方之儀ニ付伺書控）（No.六一八）No. 横切繼紙
六四二綴りのうち（産物会所懸） 一通 う 六〇〇

○産物改所并取締役

（産物改所并取締役退役願書・跡役願書綴） 美
一通 う 二七四

①乍恐以書付奉願候（老衰ニ付御産物御改
所并取締役退役願書）上山田村御改所并取
締役宮原喜右衛門、取締役惣代小平甚左衛門、
世話役惣代篠原新十郎 商法方御役所（宛） 一通

②乍恐以書付奉願（御産物方御改所并取締
役跡役ニ喜右衛門、伴喜野作被仰付度願書）
上山田村取締役惣代宮原治左衛門、世話役
惣代篠原新十郎 商法方御役所（宛） 明治四
年四月 一通

鑑 札

○領産取締

（御領産取扱之儀ニ付内慮伺書案）（無冥加の
分もあるため尋問されたのに対し、評議のうえ同う。
絹袖売買所設置以降の産物全般の取り締まり状況に
ついて述べる） 産物会所掛 半
一冊 う 二七七

○絹袖仲買鑑札

（袖中買取締之儀ニ付口上認取）

清右衛門書状（袖中買人共鑑札下ケ渡シ願の取り
扱い方について。No.四〇八）No.四二七綴りのうち
（八田）慎蔵様 一月六日 横切繼紙
半 仮一冊 う 三〇

乍恐以書付奉願候（絹袖中買鑑札下付願書）内
川村願人辰蔵、名主・組頭・長百姓各一名 御産物
方御会所（宛） 嘉永二年八月 美 仮一冊 う 二七〇

乍恐以書付奉願候（内川村久兵衛・大助・正吉
病身ニ付絹袖中買鑑札返上願書）内川村名主
治郎左衛門、組頭・長百姓各一名 御産物方御会所
（宛） 嘉永六年二月 美 一通 う 二七三

乍恐以書付奉願上候（病身ニ付絹袖商売鑑札返
上願書）上五明村浪吉・重良次、出役善右衛門、
御産物方御会所（宛） 嘉永五年八月 美 一通 う 二七二

絹袖鑑札願書（絹袖中買鑑札下付願書） 若宮
村・内川村・向八幡村・千本柳村・上平村・上徳間
村各願人ノ力石村受合ノ若宮村行司ノ力石村行司
御産物方御会所（宛） 安政五年二月 美 一通 う 二七三

乍恐以書付奉願候（無鑑札ニ而絹袖買取候儀
託状）若宮村芝原組新吉、名主・長百姓各一名
御産物方御会所（宛） 万延元年一〇月 美 一通 う 二七五

口上覚（内川村善之助・若宮村吉左衛門・荒
山村富作無鑑札ニ而絹袖中買仕候儀託状）若
宮村芝原組絹袖中買行司新左衛門、上平村同定兵衛
内川村同梅七 絹袖売買所衆中 美 一通 う 二七六

○繭仲買・蚕種商売・糸繭買・唐糸師等の鑑札

（繭中買鑑札受証文案）

美 一通 う 二七九

<p>(繭中買并蚕種商売仕候者共取締之儀ニ付申上書案) (鑑札を渡して取り締まることにしたが、勝手買取をする者もいるので、会所懸りが対策を評議して上申。No.六一八〜No.六四二綴りのうち)</p> <p>(繭中買鑑札下付願書) 大英寺地中安五郎・喜作・与左衛門 御産物方御会所(宛)</p> <p>乍恐以書付奉願候(唐糸師鑑札下付願書) 下宇木村喜代藏・名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 弘化二年三月</p> <p>乍恐以書付奉願候(繭中買鑑札下付願書) 網掛村願人市左衛門・同多助 御産物方御会所(宛) 弘化二年四月</p> <p>(繭中買・糸繭買鑑札下付願書) 田中村・寺町・伊勢町他諸町村願人又は請人 御産物方御会所(宛) 弘化三年四月〜七月</p> <p>乍恐以書付御許申上候(大地震ニ而唐糸師鑑札焼失ニ付休業願書) 三輪村惣左衛門・名主・組頭・長百姓 御産物方御会所(宛) 弘化四年六月</p> <p>(蚕種商売・繭中買・糸繭買鑑札下付願書) 荒神町・木町・田村他諸町村願人又は請人 御産物方御会所(宛) 弘化四年</p> <p>(蚕種商売・繭中買・糸繭買鑑札下付願書) 瀬脇村・上小嶋田村・上塩尻村他諸町村願人又は請人 御産物方御会所(宛) 嘉永元年四月〜六月</p> <p>(蚕種商売・繭中買・糸繭買鑑札下付願書) 福島村・瀬原村・森村他諸町村願人又は請人 御産物方御会所(宛) 嘉永二年四月、五月</p> <p>乍恐以書付奉願候(唐糸師鑑札下付願書) 三輪村願人伊助・名主富左衛門・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 嘉永二年五月</p>	横切紙	一通	う	六六	<p>乍恐以書付奉願候(繭中買鑑札返上願書) 内川村名主三郎右衛門・組頭・長百姓各一名 産物方御会所(宛) 嘉永二年八月</p> <p>(蚕種商売・繭中買・糸繭買鑑札下付願書) 矢代村・上山田村・清野村・原村各願人 御産物方御会所(宛) 嘉永三年三月</p> <p>乍恐以書付奉願候(糸繭買鑑札下付願書) 矢代村米吉以下五名・名主・組頭各二名・長百姓一名 御産物方御会所(宛) 嘉永三年四月</p> <p>乍恐以書付奉願候(繭中買鑑札下付願書) 羽上組願人孝三・肝煎元治 御産物方御会所(宛) 嘉永三年四月</p> <p>乍恐以書付奉願候(繭中買鑑札下付願書) 坂村願人与右衛門以下三名・名主一名・長百姓二名 御産物方御会所(宛) 嘉永三年四月</p> <p>乍恐以書付奉願候(繭中買鑑札下付願書) 御平川村願人佐吉以下三名・名主一名・組頭・長百姓各二名 御産物方御会所(宛) 嘉永三年四月</p> <p>乍恐以書付奉願候(上田領中氷鉋村染之助糸繭買鑑札返上願書) 荒神町受人松三郎 御産物方御会所(宛) 嘉永三年八月</p> <p>乍恐以書付奉願候(蚕種商売鑑札下付願書) 小船山村願人物吉・同平治・名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 嘉永四年二月</p> <p>(蚕種商売・繭中買・糸繭買鑑札下付願書) 若宮村・瀬脇村・杵淵村他諸町村願人又は請人 御産物方御会所(宛) 嘉永四年四月〜六月</p> <p>(蚕種商売・種繭買鑑札下付願書) 荒神町宿請人又は願人 御産物方御会所(宛) 嘉永五年五月</p>	堅紙	一通	う	一七	<p>一通</p>	う	一八	<p>一通</p>	う	一九	<p>一通</p>	う	二〇	<p>一通</p>	う	二一	<p>一通</p>	う	二二	<p>一通</p>	う	二三	<p>一通</p>	う	二四	<p>一通</p>	う	二五	<p>一通</p>	う	二六	<p>一通</p>	う	二七	<p>一通</p>	う	二八	<p>一通</p>	う	二九	<p>一通</p>	う	三〇	<p>一通</p>	う	三一	<p>一通</p>	う	三二	<p>一通</p>	う	三三	<p>一通</p>	う	三四	<p>一通</p>	う	三五	<p>一通</p>	う	三六	<p>一通</p>	う	三七	<p>一通</p>	う	三八	<p>一通</p>	う	三九	<p>一通</p>	う	四〇	<p>一通</p>	う	四一	<p>一通</p>	う	四二	<p>一通</p>	う	四三	<p>一通</p>	う	四四	<p>一通</p>	う	四五	<p>一通</p>	う	四六	<p>一通</p>	う	四七	<p>一通</p>	う	四八	<p>一通</p>	う	四九	<p>一通</p>	う	五〇	<p>一通</p>	う	五一	<p>一通</p>	う	五二	<p>一通</p>	う	五三	<p>一通</p>	う	五四	<p>一通</p>	う	五五	<p>一通</p>	う	五六	<p>一通</p>	う	五七	<p>一通</p>	う	五八	<p>一通</p>	う	五九	<p>一通</p>	う	六〇	<p>一通</p>	う	六一	<p>一通</p>	う	六二	<p>一通</p>	う	六三	<p>一通</p>	う	六四	<p>一通</p>	う	六五	<p>一通</p>	う	六六	<p>一通</p>	う	六七	<p>一通</p>	う	六八	<p>一通</p>	う	六九	<p>一通</p>	う	七〇	<p>一通</p>	う	七一	<p>一通</p>	う	七二	<p>一通</p>	う	七三	<p>一通</p>	う	七四	<p>一通</p>	う	七五	<p>一通</p>	う	七六	<p>一通</p>	う	七七	<p>一通</p>	う	七八	<p>一通</p>	う	七九	<p>一通</p>	う	八〇	<p>一通</p>	う	八一	<p>一通</p>	う	八二	<p>一通</p>	う	八三	<p>一通</p>	う	八四	<p>一通</p>	う	八五	<p>一通</p>	う	八六	<p>一通</p>	う	八七	<p>一通</p>	う	八八	<p>一通</p>	う	八九	<p>一通</p>	う	九〇	<p>一通</p>	う	九一	<p>一通</p>	う	九二	<p>一通</p>	う	九三	<p>一通</p>	う	九四	<p>一通</p>	う	九五	<p>一通</p>	う	九六	<p>一通</p>	う	九七	<p>一通</p>	う	九八	<p>一通</p>	う	九九	<p>一通</p>	う	一〇〇
--	-----	----	---	----	---	----	----	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	----	-----------	---	-----

（蚕種商売・繭中買・糸繭買鑑札下付願書） 伊勢町・田中村・十人町他諸町村願人又は請人 御産物方御会所（宛） 嘉永五年四月（六）月		美	一綴 （二二通）	う 一九三
（蚕種商売・繭中買・糸繭買鑑札下付願書） 保科村・長沼栗田町・小嶋村他諸町村願人又は請人 御産物方御会所（宛） 嘉永六年四月（七）月		美	一綴 （九七通）	う 一九四
（蚕種商売・繭中買・種繭買・糸繭買鑑札下付願書） 紙屋町・福嶋村・紺屋町他諸町村願人又は請人 御産物方御会所（宛） 嘉永七年五月（七）月		美	一綴 （二五通）	う 一九五
乍恐以書付奉願候（蚕種商売鑑札下付願書） 下宇木村願人孫左衛門・名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 嘉永七年五月		美	仮一冊 う 二六四	
（蚕種商売・繭中買・種繭買・糸繭買鑑札下付願書） 伊勢町・上五明村・下真嶋村他諸町村願人又は請人 御産物方御会所（宛） 安政二年四月（六）月		美	一綴 （三三通）	う 一九六
乍恐以書付奉願候（親看病ニ付繭中買鑑札返上願書） 中町吉兵衛 御産物方御会所（宛） 安政二年二月		豎紙	一通 う 一九七	
（蚕種商売・繭中買・種繭買・糸繭買鑑札下付願書） 笹平村・石川村・下横田村他諸町村願人又は請人 御産物方御会所（宛） 安政三年五月（六）月		美	一綴 （二〇六通）	う 一九八
乍恐以書付奉願候（唐糸師鑑札下付願書） 下宇木村源左衛門・名主・組頭・長百姓各一名、役人代頭立孫左衛門 御産物方御会所（宛） 安政五年四月		豎紙	一通 う 一九九	
（蚕種商売・繭中買・糸繭買鑑札下付願書） 瀬脇村・力石村・下小嶋田村他諸町村願人又は請人 御産物方御会所（宛） 安政四年五月、閏五、六月		美	一綴 （四八通）	う 二〇〇
（蚕種商売・繭中買・糸繭買鑑札下付願書） 上真嶋村・荒神町・紙屋町他諸町村願人又は請人 御産物方御会所（宛） 安政四年五月、閏五月		美	一綴 （六三通）	う 二〇〇
繭中鑑札願書（蚕種商売・繭中買・種繭買・糸繭買鑑札下付願書） 福嶋村・会村・北徳間村他諸町村願人又は請人 御産物方御会所（宛） 安政五年四月、五月		美	一綴 （二〇八通）	う 二〇一
（繭中買鑑札願之儀ニ付被仰渡請書案）（これは所役人連印を以て願出していたが、今後は行司連印を以て願出することに改める） （蚕種商売・繭中買・種繭買・糸繭買・唐糸師鑑札下付願書） 伊勢町・紺屋町・新小越町他諸町村願人又は請人 御産物方御会所（宛） 安政六年五月（七）月		豎紙	一通 う 二〇三	
（蚕種商売・繭中買・種繭買・糸繭買・唐糸師鑑札下付願書） 伊勢町・上五明村・下真嶋村他諸町村願人又は請人 御産物方御会所（宛） 安政六年五月（七）月		美	一綴 （二〇二通）	う 二〇三
*乍恐以書付御総り奉願候（下水鉋村惣左衛門無鑑札ニ而繭中買并否仁中買仕候段誤証文） 水鉋村喜惣治請合判惣左衛門・名主二名、長百姓 御産物方御会所（宛） 安政		豎紙	一通 う 二〇六	
乍恐以書付御総り奉申上（無鑑札ニ而繭仲買仕候段赦免願書）（No.九二〇）（No.九三七袋入） 小嶋田村願人喜兵衛、同断行司立入半蔵 御産物方御会所（宛） 万延元年閏三月		美	仮一冊 う 二〇九	
（繭中買鑑札願書）（蚕種商売・繭中買・種繭買・唐糸師鑑札下付願書） 押鐘村・小嶋村・赤沼村他諸町村願人又は請人 御産物方御会所（宛） 万延元年四月（八）月		美	一綴 （二四一通）	う 二〇四
乍恐以書付奉願候（糸繭買鑑札下付願書） 山同心町願人政治郎、肝煎新作 御産物方御会所（宛） 万延元年四月		豎紙	一通 う 二〇五	
乍恐以書付奉願候（糸繭買鑑札下付願書） 勢町願人伊兵衛、受人良吉 御産物方御会所（宛） 万延元年四月		豎紙	一通 う 二〇六	

乍恐以書付奉願候(繭中買鑑札下付願書) 上
小田村喜野作・佐次兵衛・五郎兵衛・良八 名主・
組頭・長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 万延
元年四月 美

仮一冊 う二七

乍恐以書付奉願上候(繭中買鑑札下付願書)
赤田村願人栄吉・名主・組頭・百姓代各一名 御産
物方御会所(宛) 万延元年八月 豎紙

一通 う二八

乍恐以書付御綴り奉願候(下小島田村新右衛門
は種繭買入れはしていなにもかかわらず、村役人
の心得違ひにて鑑札下付を出願したことを詫び、返
上を願う) 下小島田村名主・組頭・長百姓各一名
御産物方御会所(宛) 万延元年八月 美

仮一冊 う二五

※口上覚(上田御領塚田長右衛門他二名鑑札返納
願書)(蚕種商売) 荒神町西沢平左衛門 御産
物方御役所(宛) 辰(慶応四年)七月三日 横切紙

一通 う二四

○蚕種・生糸鑑札

(蚕種・生糸鑑札請書案)(外国貿易の開始にあ
たり、諸国蚕種紙・生糸製作人共へ取り締まりのた
め株鑑札を渡すことにし、その際、守るべき条々を
申し渡して請書を差し出させる) (明治三年) 豎紙

一通 う二四

(蚕種・生糸鑑札請書案送り状)(東京小野氏
よりNo五三四の請書案が送られて来たので廻送す)
元御預所 産物方様 庚午(明治三年) 横切紙

一通 う二五

○木綿商売・木綿布仲買鑑札

(木綿布中買鑑札下付願書雛形) 何村誰印、
三役人印 御産物方御会所(宛) 天保一〇年二
月 美

仮一冊 う二二

(木綿布中買商売鑑札下付願書) 松岡新田村・
荒神町・伊勢町他村々願人又は請人 御産物方御会
所(宛) 天保一一年八月、同一二年二月 美

一綴 う二四

(木綿商売鑑札下付願書) 網掛村・三輪村・
福嶋新田村他村々願人又は請人 御産物方御会所
(宛) 天保一二年四月、一二年 美

一綴 う二八

乍恐以書付御訴申上候(松岡新田村喜惣次木綿
師鑑札流失届書) 松岡新田村名主・弥兵衛・組頭・
長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 弘化四年六
月 豎紙

一通 う二九

(木綿商売鑑札下付願書) 紙屋町・中御所村・
三輪村・妻科村各願人 御産物方御会所(宛) 弘
化四年八月 豎紙

一綴 う二六

乍恐以書付奉申上候(大地震ニ而木綿商売鑑札
焼失候者共江再下付願書) 新田村仮名主・組
頭・長百姓 産物方御会所(宛) 弘化四年八月 美

仮一冊 う二三

乍恐以書付奉願候(大地震ニ而木綿商売鑑札焼
失候者共江再下付願書) 馬喰町請合治助、新
馬喰町請合高野専助 御産物方御会所(宛) 弘化
四年九月 美

仮一冊 う二三

乍恐以書付奉願候(木綿布中買鑑札下付願書)
布施五明村瀬原田組願人勝吉・名主・組頭各一名
御産物方御会所(宛) 嘉永二年四月 豎紙

一通 う二三

(木綿商売・木綿布中買鑑札下付願書) 中
御所村・三輪村・吉田村他村々願人又は受人 御産
物方御会所(宛) 嘉永二年八月、一二年 美

一綴 う二四

乍恐以書付奉願候(木綿商売鑑札下付願書)
(No九二〇、No九三三七袋入) 西藤牧村願人藤作、
上真嶋村木綿行司浅吉、藤牧村名主・組頭・長百姓
各一名 御産物方御会所(宛) 嘉永二年九月 豎紙

一通 う二五

(木綿商売・木綿布中買鑑札下付願書并鑑札
請取状)(請取状は一通のみ) 小嶋村・妻科村・
後町村他村々願人又は木綿師行司 御産物方御会所
(宛) 嘉永三年八月、同四年二月 美

一綴 う二五

（木綿布中買鑑札下付願書）川合村・町川村・三輪村各願人 御産物方御会所（宛） 嘉永三年八月	美	一綴 う 三三
乍恐以書付奉願候（木綿商売鑑札下付願書）上五明村願人嘉右衛門・名主・組頭各一名・長百姓二名 御産物方御会所（宛） 嘉永四年四月	堅紙	一通 う 三四
乍恐以書付奉願候（中御所村久作・新吉病身ニ付木綿商売鑑札返上願書）中御所村名主要左衛門（御産物方御会所宛） 嘉永四年八月	堅切紙	一通 う 三六
（木綿商売鑑札下付願書并鑑札返上願書）（返上願書一通丁間挿入）小嶋村・北上野村・生萱村他村々願人又は請人 御産物方御会所（宛） 嘉永四年八月 十二月	美	一綴 う 三七
乍恐以書付奉願候（木綿商売鑑札下付願書）町川田村願人治郎左衛門・行司喜代八（名主奥書印形） 御産物方御会所（宛） 嘉永四年一〇月	堅紙	一通 う 三九
木綿師願書（木綿商売・木綿布中買鑑札下付願書）後町村・妻科村・腰村他村々願人又は請人 御産物方御会所（宛） 嘉永五年八月 同六年二月	美	一綴 う 三六
乍恐以書付奉願候（木綿商売鑑札下付願書）力石村願人金藏・行司善藏 御産物方御会所（宛） 嘉永五年二月	堅紙	一通 う 三九
乍恐以書付奉願候（病身ニ付木綿布商売鑑札返上願書）上五明村願人沼吉・同吉三郎・出役頭取善右衛門 御産物方御会所（宛） 嘉永五年八月	堅紙	一通 う 三九
（木綿商売鑑札下付願書）南長池村・下宇木村・松岡新田村他村々願人又は請人 御産物方御会所（宛） 嘉永六年八月	美	一綴 う 三三

乍恐以書付奉願候（東福寺村逸作病身ニ付木綿師商売休業願書）東福寺村名主庄右衛門 御産物方御会所（宛） 嘉永六年八月	堅紙	一冊 う 三五
乍恐以書付奉願候（木綿商売鑑札下付願書）牛嶋村願人幸之助・大豆嶋村行司常吉（牛島村名主・組頭・長百姓奥書印形） 御産物方御会所（宛） 嘉永六年十一月	美	一冊 う 三三
乍恐以書付奉願候（木綿商売鑑札下付願書）水内村平組孝五郎・石川村行司勝左衛門（水内村平組名主奥書印形） 御産物方御会所（宛） 嘉永六年十一月	美	一冊 う 三四
乍恐以書付奉願候（木綿商売鑑札下付願書）村山村願人米吉・小嶋村行司久七（村山村名主・組頭・百姓各一名奥書印形） 御産物方御会所（宛） 嘉永六年十二月	美	一冊 う 三四
乍恐以書付奉願候（中野御支配所九反田村吉兵衛江木綿商売鑑札下付願書）中町行司宿御受負仲右衛門（中町名主野池伊兵衛奥書印形） 御産物方御会所（宛） 嘉永七年三月	美	一冊 う 三三
乍恐以書付奉願候（木綿布中買鑑札下付願書）南長池村願人重兵衛・名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 嘉永七年五月	堅紙	一通 う 三三
乍恐以書付奉願候（木綿布中買鑑札下付願書）町川田村願人捨五郎・名主・組頭二名・長百姓・上真嶋村行司浅吉 御産物方御会所（宛） 嘉永七年閏七月	堅紙	一通 う 三三
木綿師鑑札願書（木綿商売鑑札下付願書）里村山村・福嶋新田村・小松原村他村々願人又は請人 御産物方御会所（宛） 嘉永七年三月 十一月	美	一綴 う 三三
木綿布中買鑑札願書（木綿商売鑑札下付願書一通丁間挿入）北堀村・吉田村・上小嶋田村他村々願人 御産物方御会所（宛） 嘉永七年閏七月 十二月	美	一綴 う 三三

<p>乍恐以書付奉願候(無鑑札之者共江木綿壳渡禁令触達願書) 上小嶋田村・下小嶋田村・西寺尾村・上真嶋村各木綿行司 御産物方御会所(宛) 安政二年七月</p> <p>美 仮一冊 う二四</p>	<p>木綿師鑑札願書(木綿商壳鑑札下付願書并鑑札請取状) (後者は一通のみ) 善光寺大門町・吉田村・台坊村他村々願人又は請人 御産物方御会所(宛) 安政二年八月・同三年八月</p> <p>美 一綴 う一三 (三三三)</p>	<p>乍恐以書付奉願候(松平信濃守知行所令井村宇兵衛并松平伊賀守知行所戸部村久左衛門江商壳鑑札下付願書) 馬喰町宿受寅吉 御産物方御会所(宛) 安政二年九月</p> <p>美 仮一冊 う一六</p>	<p>乍恐以書付奉願候(木綿商壳鑑札下付願書) 伊勢町願人清助、中町行司仲右衛門 (伊勢町名主栄左衛門奥書印形) 御産物方御会所(宛) 安政二年九月</p> <p>豎紙 一通 う一七</p>	<p>乍恐以書付奉願候(木綿商壳鑑札下付願書) 下小嶋田村願人春吉、名主・組頭・長百姓・行司各一名 御産物方御会所(宛) 安政三年三月</p> <p>豎紙 一通 う二七</p>	<p>乍恐以書付奉願候(木綿布中買鑑札下付願書) 大室村願人作蔵、上真島村行司浅吉、大室村名主録左衛門 御産物方御会所(宛) 安政三年八月</p> <p>豎紙 一通 う二六</p>	<p>乍恐以書付奉願候(木綿商壳鑑札下付願書) 願人林蔵、千田村名主・組頭・長百姓・行司各一名 産物会所御役所(宛) 安政三年八月</p> <p>豎紙 一通 う二五</p>	<p>乍恐以書付奉願候(木綿布中買鑑札下付願書) 四ツ屋村願人龜吉、名主・組頭・長百姓各一名、小松原村行司藤吉 御産物方御会所(宛) 安政三年八月</p> <p>美 仮一通 う一六</p>	<p>乍恐以書付奉願候(木綿商壳鑑札下付願書) 里村山村文吉、助左衛門・勘蔵・善右衛門、小嶋村大行司清助 御産物方御会所(宛) 安政三年一〇月</p> <p>豎紙 一通 う一六</p>	<p>乍恐以書付奉願候(木綿商壳鑑札下付願書) 三輪村願人平右衛門、同伊吉、行司宇兵衛、名主三右衛門 (御産物方御会所宛) 安政三年一月</p> <p>豎紙 一通 う一四</p>	<p>乍恐以書付奉願上候(中之条支配長沼村源右衛門江木綿商壳鑑札下付願書) 福嶋村宿米蔵 御産物方御会所(宛) 安政三年十一月</p> <p>豎紙 一通 う一四</p>	<p>木綿師鑑札願書(木綿商壳鑑札下付願書) 風間村・吉田村・上高田村他村々願人又は請人 御産物方御会所(宛) 安政三年八月・同四年九月</p> <p>美 一綴 う一三 (二九通)</p>	<p>乍恐以書付奉願上候(木綿商壳鑑札下付願書) 石川村願人直吉、名主・長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 安政四年</p> <p>豎紙 一通 う一四</p>	<p>乍恐以書付奉願候(木綿商壳鑑札下付願書) 中俣村願人喜平次、同治助、名主・組頭・長百姓各一名、行司清助 御産物方御会所(宛) 安政四年二月</p> <p>豎紙 一通 う一五</p>	<p>乍恐以書付奉願候(木綿布中買鑑札下付願書) 下字木村願人源左衛門、行司長兵衛、名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 安政四年三月</p> <p>豎紙 一通 う一七</p>	<p>木綿師願書(木綿商壳鑑札下付願書并鑑札請取状) (後者は一通のみ) 西和田村・力石村・南俣村他村々願人又は請人 御産物方御会所(宛) 安政四年八月</p> <p>美 一綴 う一三 (二四通)</p>	<p>乍恐以書付奉願候(木綿商壳鑑札下付願書) 伊勢町願人富作、仲町行司仲右衛門 (伊勢町名主栄左衛門奥書印形) 御産物方御会所(宛) 安政四年八月</p> <p>豎紙 一通 う一六</p>
--	--	---	---	--	--	--	--	--	---	--	--	---	---	---	--	---

<p>（鑑札返上日延願書）〔広吉が久右衛門・小藤二の分の鑑札まで持つて欠落したので、行方が判明するまで返上猶予を願い出る〕矢代村欠落広吉親類増右衛門、名主二名、組頭四名、長百姓二名 産物方御役所（宛） 安政四年八月</p>	<p>美 仮一冊 う一四七</p>	<p>乍恐以書付奉願候（木綿商売鑑札下付願書）三輪村願人作右衛門以下五名、行司・名主各一名、組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 安政四年八月</p>	<p>美 仮一冊 う一五二</p>	<p>乍恐以書付奉願候（木綿布中買鑑札下付願書）小森村願人慶之助、名主・組頭各一名、長百姓二名（産物会所宛） 安政四年八月</p>	<p>豎紙 一通 う一五五</p>	<p>乍恐以書付奉願候（木綿商売鑑札下付願書）下小嶋田村願人善藏・恵左衛門、名主・組頭・長百姓・木綿行司各一名 御産物方御会所（宛） 安政五年八月</p>	<p>豎紙 一通 う一五二</p>	<p>乍恐以書付奉願候（木綿商売鑑札下付願書）南長池村曾根吉、同嶋右衛門、名主・組頭・長百姓各一名、行司伝左衛門 御産物方御会所（宛） 安政四年九月</p>	<p>豎紙 一通 う一四六</p>	<p>乍恐以書付奉願候（木綿布中買鑑札下付願書）南長池村願人栄吉・大十郎・直吉、名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 安政五年二月</p>	<p>美 仮一冊 う一五二</p>	<p>乍恐以書付奉願候（木綿布中買鑑札下付願書）荒神町喜左衛門、同町市場世話役与右衛門（名主・西沢佐吉奥書印形） 御産物方御会所（宛） 安政五年八月</p>	<p>豎紙 一通 う一五三</p>	<p>乍恐以書付奉願候（木綿中買鑑札下付願書）原村願人重之助、行司弥市、名主・組頭各一名 産物方御会所（宛） 安政五年八月</p>	<p>美 仮一冊 う一五三</p>	<p>乍恐以書付奉願候（木綿中買鑑札下付願書）上真嶋村願人幸作、木綿中買行司・名主各一名 産物方御会所（宛） 安政五年八月</p>	<p>豎紙 一通 う一五三</p>	<p>乍恐以書付奉願候（病身ニ付木綿商売鑑札返上願書）新御安口勘作 御産物方御会所（宛） 安政五年八月</p>	<p>豎紙 一通 う一五四</p>	<p>乍恐以書付奉願候（木綿布中買鑑札下付願書）妻村庄左衛門子幸吉、行司・名主各一名、組頭二名、長百姓一名 御産物方御会所（宛） 安政五年十一月</p>	<p>美 仮一冊 う一五四</p>	<p>木綿師鑑札願書（木綿商売鑑札下付願書）高田村・荒神町・東福寺村他村々願人又は請人 産物方御会所（宛） 安政五年八月・同六年二月</p>	<p>北 一綴 う一六二（二三通）</p>	<p>乍恐以書付奉願候（木綿商売鑑札下付願書）竹房村願人長左衛門・亀藏・丑重、新町助左衛門代行司源之丞（竹房村名主・組頭・長百姓奥書印形） 御産物方御会所（宛） 安政六年八月</p>	<p>美 仮一冊 う一五五</p>	<p>乍恐以書付奉願候（木綿商売鑑札下付願書）小島田村栄助、行司軍兵衛、名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 安政六年八月</p>	<p>豎紙 一通 う一六三</p>	<p>乍恐以書付奉願候（中之条支配所千田村喜助江木綿商売鑑札下付願書）千田村受負願人与左衛門、名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 安政六年</p>	<p>豎紙 一通 う一六五</p>	<p>乍恐以書付奉願候（木綿商売鑑札下付願書）千田村願人太三郎、同佐吉、行司与左衛門、名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 安政六年八月</p>	<p>豎紙 一通 う一六五</p>	<p>乍恐以書付奉願候（善光寺領木綿買新規願人共百拾九人鑑札請取状）善光寺・木綿行司役利助他三名 松代御産物方御会所（宛） 安政六年八月</p>	<p>豎紙 一通 う一六六</p>
---	-------------------	---	-------------------	---	-------------------	---	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	---	-------------------	---	-------------------	---	-------------------	--	-------------------	--	-----------------------	---	-------------------	--	-------------------	---	-------------------	---	-------------------	--	-------------------

乍恐以書付奉願候(木綿商売鑑札下付願書) 伊勢町願人宇助・中町行司仲右衛門 御産物方御会 所(宛) 安政六年八月 堅紙	一通 う 一五	乍恐以書付奉願候(木綿商売鑑札下付願書) 平林 村願人本兵衛・名主・与頭各二名・長百姓一名 (中町嘉十郎奥書印形) 御産物方御会所(宛) 万 延元年七月 堅紙	一通 う 二五
乍恐以書付奉願候(木綿師鑑札下付願書) 福 島村願人要左衛門・名主源治郎・組頭・長百姓各二 名・願立出役彦兵衛 御産物方御会所(宛) 安政 六年 堅紙	一通 う 一六	乍恐以書付奉願候(木綿布中買鑑札下付願書) 上真島村願人喜作・布中買行司・名主各一名 御 産物方御会所(宛) 万延二年正月 堅紙	一通 う 二五
乍恐以書付奉願候(木綿商売鑑札下付願書) 押鐘村願人利兵衛・同栄助・行司直次郎・名主・組 頭・長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 安政六 年八月 堅紙	一通 う 一六	乍恐以書付奉願候(木綿商売鑑札下付願書) 紺屋町願人熊太郎・仲町行司仲右衛門(紺屋町名主 平出惣左衛門奥書印形) 御産物方御会所(宛) 万延元年 美	仮一通 う 一六
乍恐以書付奉願候(木綿商売鑑札下付願書) 馬喰町願人栄治・同和助・中町行司仲右衛門(馬喰 町名主吉右衛門奥書印形) 御産物方御会所(宛) 安政六年八月 美	仮一冊 う 一六	乍恐以書付奉願候(中俣村儀助江木綿商売鑑札 下付願書) 中俣村名主龍之助・組頭・長百姓各 一名 御産物方御会所(宛) 万延元年八月 堅紙	一通 う 一六
乍恐以書付奉願候(木綿商売鑑札下付願書) 松岡新田村願人猶右衛門・行司八十八・名主・組頭・ 長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 安政六年八 月 堅紙	一通 う 一六	乍恐以書付奉願候(木綿師鑑札下付願書) 下 高田村願人安三郎・名主・組頭・長百姓各一名(上 高田村常左衛門奥書印形) 御産物方御会所(宛) 万延元年一〇月 美	仮一冊 う 二三
乍恐以書付奉願候(木綿商売鑑札下付願書) 北長池村一・二組願人久五郎・名主・組頭・行司各一 名 安政六年八月 堅紙	一通 う 二五	※(産物会所文書綴)〔善光寺木綿鑑札一条関係文 書が主〕 横切継紙	一綴 う 四七
乍恐以書付奉願候(木綿商売鑑札下付願書) 中町又吉・仲右衛門 御産物方御会所(宛) 安政 六年九月 堅紙	一通 う 一三	乍恐以書付奉願候(木綿商売鑑札下付願書) 福岡村願人梅蔵・同田之八・行司栄蔵・名主・組頭・ 長百姓 御産物方御会所(宛) 堅紙	一通 う 一五
乍恐以書付御縫り奉申上候(上小嶋田村元四郎 木綿商売鑑札改請等閑之段赦免願書)(No九二 〇)(No九三七袋入) 上小嶋田村元四郎親類軍蔵・ 行司立入半蔵 御産物方御会所(宛) 万延元年閏 三月 美	仮一通 う 一六	乍恐以書付奉願候(松平伊賀守知行所戸部村久 左衛門并松平信濃守知行所今井村宇兵衛江布中 買鑑札下付願書) 馬喰町宿受人寅吉(名主奥書 印形) 御産物方御会所(宛) 美	仮一冊 う 二五
		※木綿井絹袖布冥加銀之儀ニ付同書案(近年木綿師 鑑札をもらって商売している者が千三百人余にもな り、区々の買い方をしてるので、木綿師鑑札人数 を限定し、相当の冥加銀を上納させるようにしたい ことなどを藩に伺う) 産物会所懸 横切継紙	一通 う 四九

○杏干仁商売鑑札

※杏干仁鑑札願書・木綿布類書類（杏干仁商売鑑札下付願書綴に木綿布中買取締行司役相勤願書と糸商売願書を挿入） 布施五明村・小松原村・新町村他村々願人又は請人 御産物方御会所（宛） 天保一二年四〇六月

美

一綴
（六二通）
う 六

（杏干仁商売鑑札下付願書） 後丁村・稲荷山村・布施高田村他村々願人又は請人 御産物方御会所（宛） 天保一五年四〇五月

美

一綴
（二九通）
う 四

御尋ニ付乍恐以書付御答申上候（無鑑札ニ而杏仁買取候段御尋ニ付返答書）（No.九二〇）No.九三七袋入 馬場弥三郎様御長屋鉄治 御産物方御会所（宛） 天保一五年六月

美

仮一冊
う 五

御尋ニ付乍恐以書付御答申上候（無鑑札ニ而杏干仁商売仕候段御尋ニ付返答書） 田中村之内御安口新助（肝煎久之助奥書印形） 御産物方御会所（宛） 天保一五年六月

美

仮一冊
う 三

乍恐以書付奉願候（上山田村清之助大病ニ付杏干仁商売鑑札返納願書）（No.九二〇）No.九三七袋入 上山田村名主佐次兵衛 組頭勘左衛門・長百姓吉兵衛 御産物方御会所（宛） 弘化二年六月二一日

豎紙

一通
う 三

（杏干仁商売鑑札下付願書） 矢代村・久保寺村・若宮村・三輪村・石川村・伊勢町・下田町・羽尾村・下横田村各願人 御産物方御会所（宛） 弘化四年五、六月

美

一綴
（九通）
う 六

乍恐以書付御絶り奉願候（稲荷山村皆吉に杏干仁商売鑑札を請合い、交付をしてもないながら、昨年暮の鑑札冥加銀上納催促を怠った件を詫び、皆吉への鑑札再交付を願ひ出る） 上山田村文三郎・名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 弘化四年六月

豎紙

一通
う 七

乍恐以書付奉願候（毎年杏干仁鑑札を頂戴していたところ、当年は変災にて未だ頂戴を受けていないにもかかわらず商売の口約束をしたことを詫び、交付を願う） 羽尾村仙石組願人三郎右衛門・名主幸藏・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 弘化四年六月一六日

豎紙

一通
う 六

（上山田御領稲荷宿甚右衛門杏干仁商売鑑札願一件文書）

美

一綴
（三三通）
う 九

①乍恐以書付奉願候（上山田御領稲荷宿甚右衛門への杏干仁商売鑑札交付願書） 矢代村宿受人藤藏・名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 弘化四年六月

一通

②乍恐以書付奉願候（鑑札を焼失したため藤藏名前の鑑札で商売し、会所より譴責を受けたことを詫び、自分名前の鑑札交付を会所へ取り次いでくれるよう願う） 稲荷山村杏干仁願人甚右衛門 矢代村藤藏（宛） 弘化四年六月一九日

一通

③乍恐以書付奉願候（甚右衛門への鑑札再交付願ひ） 矢代村藤藏 御産物方御会所（宛） 弘化四年六月

一通

差出シ申一札之夏（去年文三郎のとりなしで会所より杏干仁商売鑑札を交付されながら、鑑札・冥加銀を暮に持参しなかつたことを詫び、商売できるよう取り計らい方を願う） 上山田村文三郎（宛） 弘化四年六月

豎紙

一通
う 二

（稲荷山村松屋源之助・羽尾村三郎右衛門無鑑札ニ而杏干仁商売一件文書）

美

一綴
（二通）
う 一〇

①御尋ニ付乍恐以書付奉申上候（松屋源之助・三郎右衛門が無鑑札にて杏干仁商売をした件についての尋問に対する返答書） 羽尾村仙石組名主幸藏・組頭・長百姓各一名 御産物方御役所（宛） 弘化四年六月

一通

<p>②御尋ニ付乍恐以書付奉申上候（松屋源之助が無鑑札にて若宮村に罷り越し杵干仁買取の口約束をした件についての尋問に対する返答書） 若宮村芝原組名主孫右衛門、同弥右衛門、長百姓二名 御産物方御役所（宛） 弘化四年六月</p> <p>一通</p>	<p>（杵干仁商売鑑札下付願書） 後町村・下横田村・風間村他村々願人又は請人 御産物方御会所（宛） 嘉永三年四月、五月</p> <p>一綴 う 一〇九 （二一通）</p>
<p>乍恐以書付御縫り奉願候（羽尾村三郎右衛門が地震に取り紛れ鑑札交付を受けないまま杵干仁商売をした件の詫証文） 羽尾仙石組名主孝藏、組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 弘化四年六月</p> <p>一通 う 一〇三</p>	<p>（杵干仁商売鑑札下付願書） 久保寺村・綿内村・矢代村他村々願人又は請人 御産物方御会所（宛） 嘉永五年四月、七月</p> <p>一綴 う 一〇三 （四一通）</p>
<p>乍恐以書付奉申上候（稲荷山村の者が無鑑札にて森村へ罷り越し、杵干仁を買取った件で、会所より売買人別取調を命じられ、上申す） 森村名主条右衛門・同紋藏、組頭・長百姓各二名 御産物方御会所（宛） 弘化四年六月</p> <p>一通 う 一〇四</p>	<p>乍恐以書付奉願候（上田領鎌原村半右衛門・松大三郎江杵干仁商売鑑札下付願書） 若宮村宿源左衛門、名主四郎兵衛他 御産物方御会所（宛） 嘉永五年五月</p> <p>一通 う 一〇四 （三一通）</p>
<p>乍恐以書付申上候（久保寺村作右衛門・兵左衛門杵干仁商売を仕りたく願い出、会所より売捌方について尋問されたのに対し、稲荷山村商人の手先ではない事を返答） 久保寺村名主吉郎治、名主仮役嘉藤治 御産物方御会所（宛） 弘化四年六月</p> <p>一通 う 一〇五</p>	<p>（杵干仁商売鑑札下付願書） 原村・生萱村・石村他村々願人又は請人 御産物方御会所（宛） 嘉永六年四月、七月</p> <p>一通 う 一〇五 （二葉）</p>
<p>乍恐以書付奉願候（上田領稲荷山村愛助江杵干仁商売鑑札下付願書） 紺屋町宿請人五郎兵衛（名主仁左衛門奥書印形） 御産物方御会所（宛） 嘉永元年五月</p> <p>一通 う 一〇六</p>	<p>（杵干仁商売鑑札下付願書） 布施高田村大行司大太郎 御産物方御会所（宛） 嘉永七年五月</p> <p>一通 う 一〇六 （三八通）</p>
<p>（杵干仁商売鑑札下付願書） 石川村・三輪村・松岡新田村他村々願人 御産物方御会所（宛） 嘉永元年四月、七月</p> <p>一通 う 一〇六 （四一通）</p>	<p>（杵干仁商売鑑札下付願書） 荒神町・上山田村・羽尾村他村々願人又は請人 御産物方御会所（宛） 嘉永七年五月、七月</p> <p>一通 う 一〇六 （三八通）</p>
<p>（杵干仁商売鑑札下付願書） 新山村・若宮村・返目村・下横田村・上山田村・網掛村・桑原村各願人又は請人 御産物方御会所（宛） 嘉永元年四月、五月</p> <p>一通 う 一〇七 （八通）</p>	<p>乍恐以書付奉願候（上田領稲荷山村杵干仁商売人共江鑑札下付願書）（No九二〇）No九三七袋入） 矢代村大行司宿受人新治郎、名主二名・組頭二名、長百姓四名 御産物方御会所（宛） 安政二年五月</p> <p>一通 う 一〇七 （八通）</p>
<p>（杵干仁商売鑑札下付願書） 布施五明村・下横田村各願人 御産物方御会所（宛） 嘉永二年四月</p> <p>一通 う 一〇八 （二一通）</p>	<p>（杵干仁商売鑑札下付願書） 御産物方御会所（宛） 嘉永七年六月</p> <p>一通 う 一〇八 （二一通）</p>

乍恐以書付奉願候（下横田村福藏江杏千仁商壳鑑札下付願書）（No.九二〇）（No.九三七袋入） 布施高田村大行司大太郎 御産物方御会所（宛） 安政二年六月	切紙	一通 う 六六	乍恐以書付奉願候（新山村安兵衛江杏千仁商壳鑑札下付願書） 上山田村大行司九八郎 御産方御会所（宛） 安政六年六月	豎紙	一通 う 三三
乍恐以書付奉願候（杏千仁商壳鑑札下付願書） 下水鮑村願人惣左衛門、名主一名、長百姓 御産物方御会所（宛） 安政二年八月	豎紙	一通 う 二五	※乍恐以書付御總奉願候（留藏無鑑札ニ而杏千仁商壳仕候儀赦免願書）（留藏は言目同様の故を以て赦免を願う） 上徳間村留藏、名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 安政三年七月	美	仮一冊 う 八六 一七
乍恐以書付奉願候（杏千仁商壳鑑札下付願書） 森村願人道右衛門、名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 安政三年六月	豎紙	一通 う 二二	※乍恐以書付奉願候（若宮村宇兵衛無鑑札ニ而杏仁買入候儀御尋ニ付返答書） 羽尾村仙石組大行司与五郎 御産物方御会所（宛） 安政六年七月	豎紙	一通 う 八六 一六
乍恐以書付申上候（千本柳村藤左衛門無鑑札之稻荷山村福藏江杏仁壳候儀ニ付申上書） 千本柳村名主・組頭・長百姓 御産物方御会所（宛） 安政三年七月七日	豎紙	一通 う 二九	※乍恐以書付御總り奉願候（下水鮑村惣左衛門無鑑札ニ而爾中買并杏仁中買仕候段誤証文） 下水鮑村喜惣治請合判惣左衛門、名主一名、長百姓 御産物方御会所（宛） 安政	豎紙	一通 う 二四
乍恐以書付奉願候（杏千仁商壳鑑札下付願書） 肴町願人勘左衛門、同文五郎（名主儀左衛門奥書印形） 御産物方御会所（宛） 安政四年五月	豎紙	一通 う 二〇	乍恐以書付奉願候（杏千仁商壳鑑札下付願書） （No.九二〇）（No.九三七袋入） 市村願人久八、名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 万延四年四月	美	仮一冊 う 四四
乍恐以書付奉願候（杏千仁商壳鑑札下付願書） 三輪村友三郎・伝兵衛、名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 安政四年閏五月	豎紙	一綴 う 三〇	乍恐以書付御總り奉歎願候（杏仁鑑札返上等閑赦免願書）（No.九二〇）（No.九三七袋入） 小舟山村友四郎、名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 万延元年四月	美	仮一冊 う 六六
乍恐以書付奉願候（生萱村豊作江杏千仁商壳鑑札下付願書） 矢代村大行司新次郎 御産物方御会所（宛） 安政四年六月	豎紙	一通 う 二三	（杏千仁商壳鑑札下付願書） 布施高田村・善光寺東町・三輪村他村々願人又は請人 御産物方御会所（宛） 万延元年五月、六月	美	一綴 う 六 （二〇通）
乍恐以書付奉願候（杏千仁商壳鑑札下付願書） （No.九二〇）（No.九三七袋入） 北高田村願人助左衛門、名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 安政四年六月	豎紙	一通 う 六三	乍恐以書付奉願上候（杏仁無鑑之者江壳渡禁令触達願書）（No.九二〇）（No.九三七袋入） 肴町幸左衛門、鍛冶町太右衛門 御産物御会所（宛） 万延元年六月	美	仮一冊 う 六四
乍恐以書付奉願候（杏千仁商壳鑑札下付願書） （No.九二〇）（No.九三七袋入） 小松原村願人重吉、同彦兵衛、名主・組頭・長百姓 御産物方御会所（宛） 安政四年六月	豎紙	一通 う 六七	御触示奉願候村名帳（No.九二四の願書と関連か） 万延元年六月	横長半	一冊 う 七二

御尋ニ付乍恐以書付御答奉申上候(上郷村杏仁中買之者其方杏仁買入稲荷山無鑑札之者江壳渡候段御尋ニ付返答書)(No.九二〇) No.九三七袋入) 若宮村新左衛門・与惣治 御産物方御会所
(宛) 万延元年七月二十五日 堅紙 一通 う 九三

○甘草仲買鑑札

(甘草之儀御内尋ニ付申上書案) (甘草を試しに植えつけて二十ヶ年になるが、近年利益もあがつているので、鑑札制度を適用して正味の取引を期したい旨、産物会所懸より藩に伺う。 No.六一八、六四二綴のうち) (嘉永) 横切継紙 一通 う 六六

(甘草中買鑑札渡之儀ニ付伺書案) 産物会所懸 (嘉永二年) 堅紙 一通 う 六二

○天秤振商売(香具)鑑札

(天秤振商売鑑札渡所普請入用難波嘆願書案) 増田孫兵衛・轟弥兵衛 堅紙 一通 う 四四

乍恐以書付御内々奉願上候(香具仲間の統制不行届きのため、天秤振諸商売の名目で鑑札を頂戴したい旨の願書) 高井郡八丁村源三郎・小嶋村弥平治、他八名(増田孫兵衛、弥兵衛奥書印形) 安政五年一〇月 美 仮一冊 う 三七

(天秤振商売仲間関係文書)

①差上申御証文之事(酒狂口論託証文案)

天秤振諸商売鑑札改方元ノ増田孫兵衛、同轟弥兵衛、天秤振諸商売仲ヶ間取締役山下嘉兵衛以下七名 御奉行所(宛) 半 仮一冊

②乍恐以書付御内々奉願上候(天秤振諸商売取締のため鑑札を頂戴したい旨の願書) 振諸商売仲間寄一二名(増田孫兵衛、弥兵衛奥書印形) 郡御奉行所・町御奉行所(宛) 美 仮一冊
安政五年一二月

③乍恐以書付御内々奉願上候(天秤振商売鑑札下付願人の内に寺町新兵衛を差し加えられたい旨の願書) 増田孫兵衛、望月主水様下屋敷弥兵衛 郡御奉行所・町御奉行所(宛) 安政五年一二月 美 仮一冊

※産物方之書類(天秤振諸商売仲間取締についての伺書案、産物方品々冥加金上納調についての問合状、会所宛鑑札真木代金受取手形、杏仁代金覚書等々) 安政六年 横切継紙 小切紙 一通 う 五八

天秤振り商売一件之書類(天秤振商売鑑札渡所に関しての産物会所懸の伺書等) 横切紙 横切継紙 一通 う 五二

○煙草鑑札

(岡宮平村ニ而煙草鑑札相成候儀ニ付申上書控) (No.五七二) No.六二四綴りのうち) (産物会所懸り) 横切継紙 一通 う 五七

(岡宮村ニ而煙草鑑札相成候儀ニ付申上書案) (No.五八七と同文。No.五七二) No.六二四綴りのうち) (天保六年閏七月) 折紙 一通 う 六二

○楮商人荷宿并鑑札

楮商人荷宿并御印鑑札願之儀付伺書控(荷宿免許と鑑札下渡願を御聞落されたい旨、産物会所懸より藩に伺う。 No.六一八、六四二綴りのうち) 産物会所懸 一一月 横切継紙 一通 う 六四

○ (御鑑札添書指出村々書上) (鑑札添書指出の村々の名前を大行司が書上。何の鑑札が不明) 万延元年六月 横長半 一冊 う 四六

○

乍恐以書付御内願奉申上候（鬼無里村倉治無鑑札ニ而賣買仕候段赦免内願書）（何の売買か不明）
鬼無里村行司人別 御産物御役所（宛） 明治二年一〇月 豎紙

糸商売免許

※杏干仁鑑札願書・木綿布願書類（杏干仁商売鑑札下付願書綴に木綿布中買取締行司役相勤願書と糸商売願書挿入） 布施五明村・小松原村・新町村他村々願人又は請人 御産物方御会所（宛） 天保二年四月六月 美

糸商売願書（糸商売免許願書） 石川村・善光寺地中・紺屋町他諸町村願人（糸免端人市場世話役奥書印形） 御産物方御会所（宛） 天保一三年一萬延元年 美

（糸商売之儀御尋ニ付返答書并商売明細書）（市場に罷り出て商売している旨返答） 石川村直吉・藤右衛門 御産物方御会所（宛） 弘化四年六月 豎紙
横切紙

（糸商売之儀御尋ニ付返答書）（市場売買調方に名前がみえなかつたり、あるいは市場への出方が少ないので尋問される。破損大） 矢代村又兵衛以下六名／保科村唯吉／真嶋村浅吉／矢代村桂治・広吉 御産物方御会所（宛） 弘化四年六月 美

乍恐以書付奉願候（糸商売免許願書） 鍛冶町儀兵衛（市場世話役仲善右衛門奥書印形） 御産物方御会所（宛） 嘉永元年七月 豎紙

冥加金（『蚕種・生系改并外国交易』）

○絹袖仲買冥加金

廻状（絹袖仲買共冥加銀上納之儀ニ付廻状）（仲買仲間の人数および上納冥加銀額について伺う。No.五四二と関連） 寺門 金五郎・源太夫・幾多様（安政六年） 十一月二十九日 横切綴紙

乍恐御尋ニ付左ニ申上候（絹袖仲買鑑札冥加銀上納願之儀御尋ニ付申上書）（冥加銀を上納しても織元に支障はないか否か尋問されたのに答える） 仲買行司内川村平治、力石村新五右衛門、若宮村与惣右衛門 御産物方御会所（宛） 安政六年一二月 美

乍恐以書付奉願候（袖仲買仲間冥加金上納願書）（引き立てに対する報恩として） 袖仲買行司内川村清右衛門、芝原村久兵衛、鼠宿村惣重 御産物方御役所（宛） 元治元年二月 豎紙

（八田）喜兵衛書状（袖仲買共冥加金上納の儀について。No.四〇八／No.四二七綴りのうち）（八田）慎蔵様 二月六日 横切綴紙

絹袖仲買冥加金上納之儀伺書（No.四〇八／No.四二七綴りのうち） 産物懸 二月 横切紙

○繭仲買冥加金

（産物会所回状）（繭仲買鑑札冥加銀上納の督促。No.六一八／No.六四二綴りの内）（天保） 一二月二日 横切綴紙

○唐糸師冥加金

（唐糸師冥加金覚書）

切紙 一通 う 五八

美 仮一冊 う 五三

豎紙 一通 う 三七五

横切綴紙 一通 う 四四五

横切紙 一通 う 四六

横切綴紙 一通 う 六三

○木綿師冥加金

※木綿并絹紬布冥加銀之儀ニ付同書案（近年木綿師鑑札をもらって商売している者が千三百人余にもなり、区々の買い方をしているので、木綿師鑑札人数を限定し、相当の冥加銀を上納させるようにしたいことなどを藩に伺う） 産物会所懸

横切継紙

一通 う 四九

○品々冥加金

（去巳年分品々冥加金請取手形） 堀内太一郎・野中喜左衛門 八田喜兵衛殿 弘化三年正月

堅紙

一通 う 五三

（去巳年分品々冥加金請取手形） 堀内太一郎・八田喜兵衛殿 弘化三年四月

堅紙

一通 う 五四

※産物方之書類（天秤振諸商売仲間取締についての同書案 産物方品々冥加金上納調についての問合状、会所宛鑑札真木代金受取手形、杏仁代金覚書等々） 安政六年

横切継紙
小切紙

一綴
（一通） う 五八

※（産物会所文書綴）（杏仁売買、絹紬江戸荷出、鑑札冥加上納、会所預り金、金所貸下げ金等々、諸般にわたる種々の文書の綴）（安政）慶応

横切継紙
横切紙

一綴
（一通） う 四一

（産物方品々冥加金請取手形綴） 渡辺承之助・萩原八左衛門 八田慎蔵・八田喜兵衛殿 万延元年（文久二年）

横切紙
堅切紙

一綴
（四通） う 四六

（冥加金上納書） 産物方御改所中村伊平次 御産物方御役所（宛） 慶応元年一月五日

堅切紙

一通 う 四四

陶器竈場（『店方』の「陶器方」）

※（荒神町陶器竈渡世人増員願廻章）（宛名の下に回答を記して嘉助に返す。No六一八、No六四二綴りのうち）（八田）嘉助（水井）忠蔵・（春日）儀左衛門・（八田）喜兵衛・（八田）辰三郎・（松本）嘉十郎様（産物会所懸） 三月朔日

横切継紙

一通 う 六三

※（伊勢町伝兵衛取扱荒神町陶器竈場之儀ニ付同書案）（従来、伝兵衛に貸して製造させていたが、職人等の締り付けかねる故、会所取扱にしてほしい旨願ひ出た件について）（産物会所懸り）

折紙

一通 う 七三

※陶器方一件ニ付申上書案（荒神町陶器竈場をすべて産物方の取扱にしてほしい旨、伊勢町伝兵衛が願ひ出た件について） 産物会所懸り

横切継紙

一通 う 四六

○

※乍恐以書付奉願候（拝借仕罷在候陶器すやき竈地震ニ而大崩ニ付繕普請願書） 荒神町伝兵衛 御産物方御会所（宛） 嘉永六年正月

堅紙

一通 う 四五

※（すやき竈繕普請入用書上） 荒神町伝兵衛 御産物方御会所（宛） 嘉永六年正月

美

仮一冊 う 四六

※（繕普請入料之内古竹杭等返上願書） 荒神町伝兵衛 御産物方御会所（宛） 嘉永六年二月二十九日

美

仮一冊 う 三七

※乍恐以書付奉願候（竈破損ニ付普請願書） 荒神町伝兵衛 御産物方御会所（宛） 嘉永六年六月

堅紙

一通 う 四三

桑 畑

乍恐以口上書御伺奉申上候（桑畑を新田地にした分をどう取計らうかについての同書） 福島村産物方取締役竹内文八・同所世話役出役利右衛門 御産物方御役所（宛） 明治三年五月

美

仮一冊 う 四四

縮緬製造

縮緬弘之儀ニ付申上書控（縮緬製造を盛んにする手だてについて藩首脳に伺う。No六一八、No六四二綴りのうち） 産物会所懸（天保）八月

横切継紙

一通 う 四二

絹紬類売買

産物会所設立当初においては、会所を通じての絹紬類の藩営専売仕法が実施されている。専売仕法実施の前提として、天保二年（一八三一）には、松代に紬市を開設し、それとともに紬師を絹紬仲買人として公認して、彼らを通して紬商品を城下松代に集荷する体制を確立していた。すなわち、織元↓絹紬仲買人↓城下買次問屋という集荷システムである。会所は買次問屋に資金を支給して、紬市に集まる商品を買占めさせた。買次問屋は一定の口銭をとって買占に当たっていた。この買占資金は藩が会所に貸し下げており、会所は礼金（利金）を付けて上納する仕組みになっていた。

買占めた商品は、松代の紬市にやって来る領内外の商人たちに売り払うほか、江戸や京都に出荷して売り捌いた。また、商人に産物を貸し下げて売り捌かせ、後で代金を上納させるという方法も採用していた。しかし、売捌成績は不振で、天保八年（一八三七）には仕法替えとなり、藩よりの資金貸下は廃止された。生産者・仲買人に対する会所の統制機能は従来通り維持されたが、絹紬類の売買の実権は菊屋伝兵衛・菊屋孫兵衛・菊屋惣兵衛・柏屋藤吉・鍵屋伴之助の五人に譲渡された。彼らはいずれも松代城下の有力商人であり、菊屋伝兵衛は会所取締役八田嘉右衛門の役代、菊屋孫兵衛も八田の親戚である。彼らは絹紬売買所を設置して取引に当たったが、取り扱い商品は会所改印のあるものに限り、売買にあたって一〇〇両につき一両の口銭を徴収した。藩よりの資金貸下が廃止されたため、売買所商人たちは産物の買占資金の融通先を三都の大商人に求め、彼らの買宿となっていた。天保八年に柏屋藤吉が江戸の大丸屋の買宿となり、同九年には菊屋伝兵衛も上州高崎の布袋屋善右衛門の買宿となっている。同一四年には菊屋孫兵衛が三井店の買宿となったが、弘化元年（一八四四）に

自殺したため、親戚の八田が代わって三井の買宿となっている。菊屋惣兵衛は岩城升屋の買宿であった。

絹紬類織立

（裏絹織立之儀ニ付申上書）〔裏絹は今後平機具で織るよう仰せ付けられた件につき。No.六一八、六四二綴りのうち〕 五反田惣左衛門、紺屋町藤吉、伊勢町徳兵衛、荒神町武左衛門、寺町助弥 御産物御会所（宛） 天保五年二月 横切継紙 一通 〆六九

（手本絹織立注文書） 執次五左衛門 辰一〇月 堅継紙 一通 〆四六
御請一札（紬其外品々入念織出請書案） （天 堅紙 二通 〆五四）

絹紬類買上（『藩方拝借金』、『会所貸下金』）

（蘭中買手挽糸買之儀等ニ付内評申上書案） 横切継紙 一通 〆九五
〔糸買値段について〕 会所懸（天保）（巻紙）

（須坂村去辰年紬出方届書）〔須坂村より松代城下の紬市に出した量の報告。No.六一八、No.六四二綴りのうち〕（天保四年） 小切紙 一通 〆六六

（辰九月六十二月迄絹紬類買入足類届書）〔No.六一八、六四二綴りのうち〕 新地村仲買弥五左衛門 産物御会所（宛）（天保四年） 横切紙 一通 〆六七

（辰秋中紬買入足数書上）〔No.六一八、No.六四二綴りのうち〕 上徳間村寿輔 御会所（宛）（天保四年） 小札 一通 〆六三

（八月十九日より十月三日市迄買入絹紬類足数届書）〔No.六一八、No.六四二綴りのうち〕（柏屋藤吉 御会所（宛）） 横切継紙 一通 〆六五

(市口銭覚書)〔絹紬類の買入口銭。No.五七二ノ六ノ一四綴りのうち〕(天保)	横切継紙	一通	う 六〇	(絹紬類買入代金覚書)〔No.五七二ノ六ノ一四綴りのうち〕(天保)	折紙	一通	う 六三
(産物目方・代金覚書)〔絹紬類カ。No.五七二ノ六ノ一四綴りのうち〕(天保)	横切紙	一通	う 六六	絹紬類売捌			
(絹紬類市買払金覚書)〔No.五七二ノ六ノ一四綴りのうち〕(天保)	横切紙	一通	う 五三	江府江荷出之節御送り返シ御割印書〔絹紬類の江戸廻送関係の用状等。荷物が江戸に着くと、送り状と元帳に割印をして、送り状を在所へ返送〕天保六ノ八年	横切紙 横切継紙 折紙	一綴 (二八通)	う 六五
(十一月廿九日市ニ而絹紬類買入足数覚書)〔No.五七二ノ六ノ一四綴りのうち〕	折紙	一通	う 五三	(佐竹)周蔵用状〔天保二年十一月より同十年九月迄の会所出并に売買所出の産物代金取調について。No.六八ノ六ノ四二綴りのうち〕(八田)喜兵衛様〔天保一〇年一〇月二三日〕	横切継紙	一通	う 六八
(九月三日市ニ而絹紬類買入代金差引覚書カ)〔No.五七二ノ六ノ一四綴りのうち〕(天保)	折紙	一通	う 五七	大丸手代伝八江紬買次申談之儀等ニ付申上書控〔江戸への紬廻送について、大丸手代伝八へ買次十郎次・友吉を遣して相談させる。No.六八ノ六ノ四二綴りのうち〕産物会所懸〔天保〕九月一八日	折紙	一通	う 六九
(十二月廿五日市ニ而絹紬類買入足数・代金出覚書)〔No.五七二ノ六ノ一四綴りのうち〕(天保)	折紙	一通	う 五八	江府産物会所之義御尋ニ付申上書控〔御領産江府会所取扱等についての尋問に答える。No.六八ノ六ノ四二綴りのうち〕(産物会所懸)〔天保〕	横切継紙	一通	う 六三
(絹紬類買入足数・代金覚書并買入代金請取手形)〔No.五七二ノ六ノ一四綴りのうち〕菊屋孫兵衛 御産物御会所〔宛〕午〔天保五年〕二月	折紙	二通	う 五九	(山崎)久右衛門用状〔紬売り捌け残りの扱い方について。No.六八ノ六ノ四二綴りのうち〕(水井)忠蔵様〔天保〕二月七日	横切継紙	一通	う 六六
(十二月三日市ニ而勇吉絹紬類買入代金中借覚書)〔No.五七二ノ六ノ一四綴りのうち。勇吉は絹紬買次人〕(天保)	小切紙	一通	う 六七	(江戸)表紬引受方申立候趣再評申上書控〔藩首脳への上申書。No.六八ノ六ノ四二綴りのうち〕(天保)	横切継紙	一通	う 六三
(市ニ而絹紬類買入代金覚書)〔No.五七二ノ六ノ一四綴りのうち〕(天保)	横切紙	一通	う 六八	(江府懸り用状)〔斜子稿、ちりめん等の売捌き状況について〕御会所御懸様〔天保〕一二月二三日	横切継紙	一通	う 六五
(九月十七日市ニ而清十・二郎右衛門絹紬類買入代金覚書)〔No.五七二ノ六ノ一四綴りのうち〕(天保)	小切紙	一通	う 六九	※糸麻類江府申立之儀御尋ニ付評議申上書控〔為登糸麻類売買について。大丸店との取引について記す〕産物会所懸り〔天保〕三月	横切継紙	一通	う 五九
(白張紬・白紬買入足数・代金并口銭・荷造入料覚書)〔No.五七二ノ六ノ一四綴りのうち〕(天保)	折紙	一通	う 六〇	産物一条ニ付御内々申上書案〔国産品々取計方の儀について〕座間百人〔天保〕四月	横切継紙	一通	う 五二
(九月中絹紬類買入代金出覚書)〔No.五七二ノ六ノ一四綴りのうち〕(天保)	折紙	一通	う 六二				

(白綃・白斜子・斜子縞御払足数・代金覚書)
(天保) 横切紙 一通 う 五六

(紬方為替金請取手形) 八田辰三郎・八田喜兵衛・八田嘉右衛門奥書印形 梯崎喜作・小林善藏・水井忠藏殿 天保三年九月 縦紙 一通 う 六八

(紬代金之内為替之分請取手形控) 八田辰三郎・八田喜兵衛・八田嘉右衛門 梯崎喜作・水野忠藏・坂本常左衛門殿 天保四年 縦紙 一通 う 五三

(金子借用証文) (返金は江府溜池御屋敷産物掛り役人へ江府廻町升屋久右衛門より納める約束) 岩城升屋久七 増田孫兵衛殿 天保五年一月二日 大堅紙 一通 う 五五

(金子借用証文) (返金は江府溜池御屋敷へ江戸駿河町本店より納める約束) 三井利七 増田孫兵衛 午(天保五年) 大堅切紙 一通 う 五五

(御送り金受取手形) (端裏書「九月五日江府方返証文」) 八田喜兵衛 水井忠藏殿 天保六年七月 縦切紙 一通 う 五九

(御産物代為替金受取手形控) 八田嘉右衛門・八田喜兵衛・八田辰三郎・八田嘉助 水井忠藏・山崎久右衛門・大塚孝三郎殿 天保六年七月 縦紙 一通 う 五五

(産物代金受取手形) (松代柏屋藤吉より送り荷代金) 松代産物方山崎久右衛門・大塚孝三郎 大丸屋善三郎・清四郎殿 天保六年二月二日 縦切紙 一通 う 五三

※ (金子中借証文) (三井店紬仕入代金差支につき) 八田喜兵衛・八田辰三郎・八田嘉助(八田嘉右衛門奥書印形) 小林三左衛門・吉沢十助・池田良右衛門・宮沢彦左衛門・竹内藤助殿 天保七年十一月 縦紙 一通 う 五二

(産物代為替金御在所御送り分受取仮手形) 八田嘉助 松沢文右衛門殿(御勘定役) 天保一年九月二十七日 縦切紙 一通 う 五二

(産物代金之内為替金受取手形) 八田辰三郎・八田喜兵衛・八田嘉右衛門 佐竹周蔵・松沢文右衛門殿 天保一年一月〇月 縦紙 一通 う 三三

(江府表為替金前借証文) 清十(市兵衛奥書印形) 天保一年一月〇月 縦紙 一通 う 五八

(産物代為替金受取仮手形) 八田嘉助 松沢文右衛門様 天保一年一月二日 縦切紙 一通 う 五三

(金子受取手形等綴) 一綴 う 四二

① (産物代金為替金受取手形) (伊勢屋忠五郎より上納の分) 八田嘉助 大塚孝三郎殿 天保二年三月一八日 小切紙 一通

② (御在所産物方御役所江御送金道中金差支三付時借手形) 御飛脚組重平 大塚孝三郎様 亥(天保一〇)四月 小切紙 一通

③ (為替金請取手形) (菊屋惣兵衛より送り荷物代金の内) 八田嘉助 大塚孝三郎殿 天保一〇年四月 縦切紙 一通

④ (御会所之送金預り手形) 才領組仁平 大塚孝三郎殿 亥(天保一〇年)四月一六日 小切紙 一通

⑤ (金子借用証文) (八田嘉助より調物頼れ候につき無心) 大木才治 大塚孝三郎殿 天保九年八月 縦紙 一通

(産物代金受取手形) 八田喜兵衛・八田嘉助 佐竹周蔵 天保二年五月 縦紙 一通 う 五二

(産物代金を為替金受取手形) (十八屋寅之助より菊屋惣兵衛へ送金の分) 八田喜兵衛・八田嘉助 片桐重之助殿 天保一二年五月	堅切紙	一通	う 五七
(産物代金を為替受取手形) (端裏書「十月十八日返ル」) 八田喜兵衛・八田嘉助 佐竹周蔵殿 天保一二年九月	堅紙	一通	う 五八
(産物代金請取手形案) (十八屋藤兵衛上納分) 八田喜兵衛・八田嘉助 佐竹周蔵殿 天保一二年九月	堅紙	一通	う 五三
(御産物代金を為替金受取手形) (十八屋文右衛門より菊屋伝兵衛へ送金の分) 八田嘉助 佐竹周蔵殿 天保一三年九月	堅切紙	一通	う 三〇
(御産物代金を為替金受取手形) (十八屋より菊屋伝兵衛へ送金の分) 八田嘉助・八田喜兵衛 佐竹周蔵殿 天保一三年三月四日	堅切紙	一通	う 三三
(御産物代金を為替金請取手形) (十八屋文右衛門へ送金の分) 八田嘉助・八田辰三郎・八田喜兵衛・八田嘉右衛門 佐竹周蔵殿 天保一三年九月	堅紙	一通	う 三五
(御産物代金を為替金受取手形) (十八屋文右衛門より菊屋伝兵衛へ送金の分) 八田嘉助・八田喜兵衛 佐竹周蔵殿 天保一三年一二月	堅紙	一通	う 三四
(御産物代金を為替請取手形) (十八屋文右衛門より菊屋惣兵衛へ送金の分) 八田嘉助・八田喜兵衛 佐竹周蔵殿 天保一三年一二月一三日	堅切紙	一通	う 三三
(手形預り証文) (大丸屋仕掛為替手形、金百両) 八田嘉助 柏屋藤吉(宛) 天保一三年一〇月	堅切紙	一通	う 三六
(御産物代金を為替金受取手形) (岩城升屋方菊屋伝兵衛へ送り金之分) 八田嘉助・八田喜兵衛 佐竹周蔵殿 天保一四年七月	堅紙	一通	う 三三
(御産物代金を為替金請取手形)		(一綴 五通)	う 三二

① (御産物代金を為替金請取手形) (十八屋文右衛門より菊屋伝兵衛へ送金の分) 八田嘉助・八田喜兵衛 佐竹周蔵殿 天保一四年二月	堅紙	一通	
② (御産物代金を為替金請取手形) (十八屋文右衛門より菊屋伝兵衛へ送金の分) 八田嘉助・八田喜兵衛 佐竹周蔵殿 天保一四年正月	堅紙	一通	
③ (御産物代金を為替金請取手形) (十字屋吟治郎より菊屋伝兵衛へ送金の分) 八田嘉助・八田喜兵衛 佐竹周蔵殿 天保一五年七月	堅紙	一通	
④ (御産物代金を為替金受取手形) (近江屋三左衛門より菊屋伝兵衛へ送金の分) 八田嘉助・八田喜兵衛 佐竹周蔵殿 天保一五年四月二三日	堅紙	一通	
⑤ (御産物代金を為替金請取手形案) (佐竹周蔵より八田嘉助へ送金の分) 八田嘉助・八田喜兵衛 佐竹周蔵殿 天保一五年四月一五日	堅紙	一通	
(御産物代金を為替金請取手形案) (十八屋文右衛門より菊屋伝兵衛へ送り金) 八田喜兵衛・八田嘉助 佐竹周蔵殿 (天保)	堅紙	一通	う 四六
(佐竹)周蔵用状 (十八屋虎之介よりの菊屋伝兵衛・菊屋惣兵衛・柏屋藤吉・増田孫兵衛への送り金を為替にすることを願ひ出たので、正金を請け取り、御納戸へ納めたこと、および大丸よりの為替金も御納戸へ納めたことを通知) (八田)喜兵衛・(八田)嘉助様 (天保)	横切継紙	一通	う 五九
(水野友作用状) (明日江府へ為替を遣わしたいので、二千両の産物代為替証文を例の通り廻すよう依頼。No.五七二 No.六一四綴りのうち) 八田喜兵衛様 (天保)	横切紙	一通	う 五五
(用状綴) (絹紬類の売買にかかわる為替についての用状を綴る。佐竹周蔵より八田喜兵衛宛の用状が大部分) (天保)	横切継紙	(一綴 二四通)	う 六六

(三井分并小橋屋分紬等代金覚書) (No.六一八
六二四綴りのうち) (天保)

横切継紙

一通 う 六四

※(産物会所文書綴) (杏仁売買、絹紬江戸荷出、
金所貸下ケ金等々、諸般にわたる種々の文書の綴)
(安政、慶応)

横切継紙
横切紙

一綴 う 四二
(二八通)

○絹紬類専売仕法替

(御産方御手放ニ付古品引請売捌始末方見込
申上書) (天保八年の絹紬類専売の仕法替えに關す
る。No.五七二、No.六一四綴りのうち) (天保八年
一〇月)

大横切継紙

一通 う 五三

(会所下品物代金上納延期ニ付家敷書入証
文下案) (会所品物取扱を任せられたが、品物売捌
かねていたので代金上納の延期を願う) 増田孫兵
衛、加判木町伝兵衛 御産物方江府御会所(宛)
天保一一年一二月

堅紙

一通 う 三吾

(江府産物会所申上書并御勘定吟味役申上書
写控) (産物会所仕法替につき会所手捌きをやめ増
田孫兵衛へ品物取扱方を任せしたが、捌き方減じ難渋
しているので、本銀町の十八屋文右衛門に任せるこ
とにしたい旨伺う) (天保)

半

一綴 う 五五

乍恐以書付奉願上候(病死増田孫兵衛借財返済
取片付之儀ニ付願書写) 増田邦治郎、増田徳左
衛門、親類甚五右衛門 御産物方御会所(宛) 弘
化三年一二月

美

仮一冊 う 五二

乍恐以書付奉願上候(病死増田孫兵衛借財取片
付之儀ニ付願書写) (増田孫兵衛は天保八年以降
産物会所より絹紬売買を委託されていたが、借財が
嵩み弘化元年に自殺。借財取片付を命ぜられた親類
が会所よりの拜借金返納について配慮方を願う)
増田邦治郎、親類甚五右衛門 御産物方御会所(宛)
弘化三年一二月

美

仮一冊 う 五〇

(金子借用願書案) (商売向難波につき五千両の
借用を願う。菊屋惣兵衛は天保八年に絹紬類売買の
実権を産物会所より託された商人の一人で、岩城升
屋の買宿になって仕入資金の融資を受けていた)
信州松代御買宿菊屋惣兵衛 岩城店御支配人中様
弘化三年正月

半

仮一冊 う 四四

○上州吹屋村一件

上州群馬郡吹屋村作右衛門・信州小泉郡山軽
井沢村源十郎出入一件書類入袋(為登糸売渡始
末引合として御勘定奉行戸川播磨守様御差紙ニ付
出府始末書面并江府表平兵衛方申上候書面入) 天
保一三年

一袋 う 三九

良古書状(甚蔵名前を除き、源十郎・奈良屋治左
衛門へ糸売り払うよう申し立てを依頼) 菊屋勝之
助様 (天保一三年) 四月一九日

横切継紙

一通 う 三〇

差上申済口証文之事(売掛并貸金出入済口証文
差上書写) 本多鈴三郎知行所上州群馬郡吹屋村
甚蔵事名主作右衛門(訴訟人)、松平伊賀守領分信
州小泉郡輕井沢村百姓良吉(相手) 御奉行所様
(幕府勘定奉行所) 天保一三年五月

横切継紙

一通 う 三二

一札之事(信州小泉郡常右衛門梓良吉相手取売
掛出入内済ニ付差出一札) 上州群馬郡吹屋村
名主作右衛門、信州埴科郡松代町伝兵衛召仕栄八殿
天保一三年五月九日

堅紙

一通 う 三三

乍恐以書付奉願上候(上州吹屋一件引合被仰渡
ニ付心当り始末申上書案) (八田が山軽井沢村源
十郎に絹糸を売り渡したのに對し、糸元主上州吹屋
村作右衛門が差引向始末を糺した件を申し上げる)
御領分信州松代町伝兵衛召仕栄八、組頭平兵衛
御役所(宛) 天保一三年五月

横切継紙

一通 う 三三

一件扣(山軽井沢村源十郎絹糸買取一件扣)
(天保一三年)

横長美

仮一冊 う 三〇

日記扣(上州吹屋村一件書留) 天保一三年 半 一冊 う 五七

絹細類貸下

拝借証文(絹細代金拝借証文雛形)〔産物会所が絹細を貸し下げ江府に売り捌かせ、その代金を以て返済させる〕 何村拝借人、名主、組頭、百姓代 御産物方御会所(宛) (天保) 堅紙 一通 う 四八

(絹細類拝借証文)〔越後へ持参して売り捌き、代金上納の約束〕 小市村清兵衛 御産物方御懸り 高井善右衛門様 天保五年一〇月 堅紙 一通 う 五五

(下横田村次郎兵衛絹細拝借・売捌願一件文書綴) 一綴 う 四五 (七通)

①横田村次郎兵衛産物之品売捌之儀ニ付伺書(次郎兵衛が産物を貸下けてもらい売り捌きたい旨願い出たので、産物懸が評議の上、聞済を藩首脳に伺う。金額が多額のため藩首脳に伺う) 産物会所懸 (天保五年) 一月 横切懸紙 一通

②横田村次郎兵衛御産物之品売捌之儀ニ付再評伺書 産物会所懸 (天保五年) 一月 横切懸紙 一通

③(下横田村治郎兵衛産物之儀ニ付産物会所懸伺書并付札挨拶)〔伺の通り許可する旨、付札を以て回答〕 (天保五年) 一月 横切懸紙 一通

④(松本源八挨拶書)〔別紙の通り付札を以て仰せ渡されたので、その旨心得るよう回答。松木は表御用人兼町奉行〕 八田辰三郎殿(産物会所元方) (天保五年) 一月一七日 小切紙 一通

⑤(矢沢監物挨拶書)〔別紙伺付札の通り心得るよう回答。矢沢は家老〕 (天保五年) 一月一六日 小切紙 一通

⑥ 拝借証文(絹細代金残金拝借証文)〔江戸、京都、大坂辺へ売り捌いて返納する旨約定。端裏に「御見合」の掛紙あり〕 下横田村拝借人平助 同次郎兵衛、親類・名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 天保五年一月 堅紙 一通

⑦ 差上申御請一札(下横田村平助弟次郎兵衛産物代金拝借請負証文) 下横田村名主和十郎、組頭・長百姓各一名、頭立惣代二名 御産物方御会所(宛) 天保五年一月 堅紙 一通

(御産物品々拝借売捌願御聞済ニ付差上一札)〔売捌代金を以て期日までに代金を上納することを約定した一札〕 小諸町大和屋利兵衛 松代御産物方御会所(宛) 天保六年三月 堅紙 一通 う 四〇

(産物会所懸同并家老矢沢監物仰渡覚書)〔売買所その他の者共が会所品物拝借代金の上納に差し支えているので、年賦上納にしたい旨産物会所懸りが伺いを立て、家老が回答〕 (天保) 半 仮一冊 う 五四

(伝兵店方品物拝借代金上納敷渡ニ付歎願書案)〔伝兵衛は八田家の役代〕 八田嘉助 (産物会所宛) (天保) 二月 堅紙 一通 う 三三 (二葉)

(絹細類貸下足数覚力) (No.五七二、No.六一四綴りのうち) (天保) 小切紙 一通 う 五五

大坂交易

嘉永二年(一八四九)、同三年には松代領内の特産物であった甘草・杏仁の専売制が実施されている。これは、甘草・杏仁を藩が会所を通して統制し、それを北廻り航路で大坂商人炭屋彦五郎に送り、その代

わりに炭屋は西国の塩・砂糖等を松代領内に運んで売り捌く、というものであったが、その第一義的な目的は甘草・杏仁を引当とした炭屋からの御用金の借入にあった。この政策の発案者は佐久間修理象山である。大坂取引に当たったのは、八田嘉右衛門の役代菊屋伝兵衛と紙屋町の藤屋戸佐久、御預り所小布施村の塩屋太三郎であった。甘草・杏仁は越後今町に駄送され、そこから船で日本海を通って大坂の炭屋に送られ、炭屋の紹介で道修町の菓種問屋小西彦七と鍵屋彦右衛門がその売り捌きに当たっていた。だが、大坂での相場の下落により短期間で中止のやむなきに至っている。これは抜荷が他領商人のルートで相当量大坂に送られ、安く売り捌かれたためである。その後、杏仁の方は安政二年（一八五五）に菓種問屋小西彦七の要望で再び専売制が実施されたが、これも結局失敗に終わっている。

なお、慶応四年（一八六八）二月、信州の旧幕府直轄領、松本藩と松代藩の預所、旗本領などが尾州藩の管轄となり、産物役所を設けて国産物の京坂地方への売り捌きを実施している。

嘉永期甘草・杏仁等大坂売捌仕法

○大坂交易関係文書書留

（信州松代御国産交易関係文書書留）（江州大津坂本町納屋甚兵衛が信州松代国産物の運送方を引き受けた旨を産物会所に願ひ出、暫く試すよう仰せ付けられる。親類の銭屋彦兵衛が身元保証人となっている） 天保一三年一〇月、一一月 一綴 う 八六

（甘草・杏仁大坂表へ出荷・売捌趣法ニ付伊勢町伝兵衛願書書留）（二通の願書を書き留める） 嘉永二年正月 美 仮一冊 う 八六

（甘草・杏仁大坂表江出荷・売捌趣法ニ付伊勢町伝兵衛願書書留）（No.八五八と同文） 嘉永二年正月 美 仮一冊 う 八六

炭屋孫七書状書留（松代産物と上方産物との交易についての二通の書状書留） 松本嘉十郎様（嘉永二年）閏四月五日 半 仮一冊 う 八四

（大坂交易関係文書書留）（炭屋孫七の産物掛役人宛願書、小西彦七等の産物方付商人宛の口上書、交易にかかわる約定書、出世講条目等の写留） 嘉永二年、弘化四年 美 仮一冊 う 八六

（甘草取締・大坂交易関係伺書・申渡書見出）（見出のみを列記）（嘉永） 折紙 一通 う 八〇

（甘草取締并大坂荷出関係伺書・申渡書等書留）（嘉永） 横長半 仮一冊 う 八六

（甘草大坂出荷一件文書書留） 横長美 仮一冊 う 四七

（大坂交易関係書状書留）（竹尾喜六より八田嘉助・松本嘉十郎宛、炭屋松兵衛より菊屋伝兵衛・栄八宛、津の国屋友七より菊屋栄八宛）（嘉永）一一月 美 仮一冊 う 八四

（大坂交易関係書状書留）（人參・銅の取引に関する書状。泉屋源八より菊屋栄八宛。淀屋治兵衛より松本嘉十郎宛。泉屋源兵衛より松本嘉十郎宛。淀屋治兵衛より八田嘉助宛。泉屋源兵衛より八田嘉助宛）（嘉永）一一月 美 仮一冊 う 八五

（大坂交易関係書状書留）（人參・銅の取引に関する書状。浪華今宮宇田川清輔より松本嘉十郎・八田嘉助宛。小部屋久兵衛より宇田川宛）（嘉永）一一月 美 仮一冊 う 八六

（甘草・杏仁他大坂行荷物預り手形并諸掛り手形書留）（菊屋伝兵衛が越後今町柴山作左衛門に預けた大坂行の甘草・杏仁等の荷物を能州吉嶋屋清兵衛が預かって船で大坂へ送った際の受取手形および諸掛り受取手形一通の書留） 嘉永元年一一月 半 仮一冊 う 八六

乍恐以書取申上候(甘草荷大坂表為積登之儀ニ付申上書) (甘草等の大坂取引にあつては塩屋が、抜荷のため取引に支障が生じていることを上申) 御預所小布施村塩屋太三郎 御掛り水井忠藏・松本嘉十郎様 嘉永三年六月 美 一冊 う 七七	(大坂交易引請之儀ニ付願書案) (荷物差出の節、改判を成し下されるよう願う) 伊勢町伝兵衛、木町惣兵衛、紙屋町戸作、小布施村太三郎、妻村喜兵衛、伴佐太郎 御産物方御会所(宛) (嘉永三年六月) 半 一冊 う 七七	(印鑑) (「炭孫」「白花」「白梅」) 炭屋孫七 改 西 (嘉永三年) 六月 大堅紙 一通 う 八九	乍恐以書付奉願上候(北海積残之荷物江戸廻しニ仕度願書控) 菊屋伝兵衛 御産物方御役所(宛) 嘉永三年六月 美 一冊 う 八〇	(大坂交易関係願書案綴) (菊屋伝兵衛等の願書案) ①大坂御用場設置およびその入料についての願書。②甘草値段下落につき堀留願書、金子融通についての願書 (嘉永三年) 半 一綴 う 八五	乍恐以書付御置奉願上候(大坂御用場入用之儀ニ付願書案) (売立代金百両につき二両の口銭を取って入用に充てたい旨願う) 菊屋伝兵衛 嘉永三年(五月) 半 一冊 う 九九	乍恐以書付御聞置奉願上候 (No.七九九と同文の願書控) 菊屋伝兵衛 御産物方御役所(宛) 嘉永三年五月 美 一冊 う 八三	(大坂表産物御用場普請関係文書) (嘉永) 一綴 う 三六 (一通)	①口上覚(裏端書「大坂表出立後の始末々々申上」。大坂表御用場普請の儀、炭屋彦五郎千両用立の儀等々について) 松本嘉十郎(産物会所掛り) 宮沢善治・宮本慎助様 六月九日 横切継紙(封紙入) 一通		
②在坂松本嘉十郎申聞候義ニ付御内々伺書(大坂表御用場普請の儀、領産漆出荷の儀について) 宮下兵馬 六月二六日 横切継紙 一通	③(恩田頼母殿上坂御供人之儀ニ付申上書) (頼母は松代藩家老) 横切継紙 一通	④大坂より津国屋友七書状(懇請の漆の儀承知については用場普請上棟致すべき旨通知) 宮本善治・宮本慎助様 一〇月九日 横切継紙 一通	⑤炭屋松兵衛・同孝兵衛書状(御用場上棟について) 宮沢善次・宮本慎助様 一〇月九日 横切継紙(封紙入) 一通	売仕切(大甘草仕切状) 炭屋孫七・松兵衛 菊屋八殿 (嘉永三年) 三月 堅紙 一通 う 九六	売仕切(甘草仕切状) 炭屋孫七・孫兵衛 菊屋八殿 戊(嘉永三年) 三月 堅紙 一通 う 九三	売仕切(甘草仕切状) 炭屋孫七・松兵衛 菊屋八殿 戊(嘉永三年) 三月 堅紙 一通 う 九六	借用証文(甘草代金借用証文) 菊屋伝兵衛・同栄八(八田嘉助奥書印形) 和泉屋忠兵衛殿 嘉永三年五月 堅紙 一通 う 九九	大坂表為替手形扣(信州松代菊屋伝兵衛振出、大坂瓦町壹町目炭屋孫七・炭屋松兵衛宛為替手形一通) 嘉永三年七月 美 一通 う 三〇	(銀子借用証文) (返済は炭屋彦太郎へ登せた産物の売却代金を以て充てる) 菊屋伝兵衛代栄八 小西彦七殿 嘉永三年一〇月 横切継紙 一通 う 三三	大坂表江栄八出立ニ付孫七・松兵衛へ書状案文(大坂交易の件で菊屋伝兵衛手代栄八を大坂へ出張させる) 菊屋伝兵衛(花押) 炭(屋)孫七・松兵衛様 嘉永三年九月 半 一冊 う 八九

大坂炭屋彦五郎へ掛合一 卷案詞留（八田嘉助・慎蔵より炭屋宛の書状案詞・年始状案詞書留。花押を用いる） 八田嘉助書留 嘉永三年九月・安政五年正月	美	一通	う 八三
	横切継紙		
伯州八ッ橋郡八ッ橋浦おるて九月三日夜難船一件書類（杏仁等の松代国産を大坂へ運送する船が遭難した一件にかかわる書類の書留） 水井忠蔵・松本嘉十郎 嘉永三年	美	一冊	う 六六
乍恐以書付奉申上候（甘草荷大坂へ為積登船隠岐ニ而遭難之儀御尋ニ付申上書控） 塩屋太三郎・藤屋戸佐久・菊屋伝兵衛 御産物方御会所（宛） 嘉永三年八月	美	仮一冊	う 五〇
※乍恐以書付奉願上候（新潟方松代・追通船取締之儀ニ付願書案） 松代船老伝兵衛 通船御掛役所（宛） 戊（嘉永三年）八月	半	仮一冊	う 六五
（金子借用証文案）（中町忠兵衛より甘草を買い入れ大坂へ送ったが、大坂より送金がないので、借金して忠兵衛に払う） 借主伊勢町伝兵衛・組合同町伝右衛門・愛人中町相之助（八田嘉助奥書印形） 飯島彦兵衛殿 嘉永四年二月	美	仮一冊	う 八四
（大坂交易関係文書綴） 嘉永	一綴 （四通）	う 八六	
①別紙積書（甘草代金見積勘定書）（次の証文に添えたもの） （嘉永）	堅継紙	一通	
②日延証文（買請甘草代金払日延証文） 伊勢町伝兵衛・同人手代栄八・立入人相之助 中町忠兵衛殿 嘉永三年九月	横切継紙	一通	
③※（炭屋彦五郎江利息渡分御下ケ金受取手形案） 伊勢町伝兵衛 水井忠蔵・松本嘉十郎様 嘉永四年七月	堅紙	一通	
④（下手三ヶ村方差出候生根人参目方改直段取極届書） 御利用方人参懸り羽田忠左衛門 松本嘉十郎・八田嘉助様 亥（嘉永四年）十月二十三日	横切継紙	一通	
（金子預り証文）（国元より炭屋へ積送りの産物売払代金を以て返済） 菊屋伝兵衛代栄八・友吉・竹屋喜六 炭屋孫七殿 嘉永四年七月	堅継紙	一通	う 四六
※（大坂炭屋彦五郎江利息渡ニ付会所御下ケ金受取手形写） （No.四四七と綴り） 伊勢町伝兵衛 水井忠蔵・松本嘉十郎様 嘉永四年七月	堅紙	一通	う 四六
※（利足金菊屋伝兵衛方受取手形写） 炭屋彦五郎 水井忠蔵・松本嘉十郎様 嘉永四年七月	堅紙	一通	う 四七
※（大坂炭屋彦五郎江利息付下ケ金受取手形控并利足受取手形写）	一綴 （三通）	う 三三	
①（大坂炭屋彦五郎江利息付下ケ金請取手形） 伊勢町伝兵衛 水井忠蔵・松本嘉十郎殿 嘉永四年七月	堅紙	一通	
②（利足銀菊屋伝兵衛殿方請取手形写） 炭屋彦五郎 水井忠蔵・松本嘉十郎殿 嘉永四年七月	堅切紙	一通	
③（利足銀菊屋伝兵衛殿方請取手形写） 炭屋彦五郎 水井忠蔵・松本嘉十郎殿 嘉永四年七月	堅切紙	一通	
御尋ニ付栄八方承り書（栄八が上坂の町、甘草下落のため小西彦七手代東助より銀子を借用したところ、返済が延引した件について） （嘉永四年）	半	仮一冊	う 五二
乍恐以書付御日延中奉歎願候（大坂表へ為積登甘草荷目方不足之儀ニ付利解歎願書控） 伊勢町伝兵衛手代栄八 町御奉行所（大坂町奉行所宛） 嘉永四年一〇月	美	仮一冊	う 五三

甘草方惣調帳（八田家役代の伝兵衛が産物会所より委託されて大坂交易に当たっており、その際の請取調帳とそれを基にした勘定帳をまとめて袋に入れて管理） 嘉永四年改

袋入 二十冊 う 〇三

- ① 拝借金御元利取調帳（嘉永四年改） 横長半 一冊
- ② 沼田屋方借用元利調帳（嘉永四年改） 横長半 一冊
- ③ 西（嘉永二年）十一月中差引改後大坂表方借用金取調帳（嘉永四年改） 横長半 一冊
- ④ 須坂質入借借金元利并引当物買元代金調帳（嘉永四年改） 横長半 一冊
- ⑤ 諸方指引残借用調帳（嘉永四年改） 横長半 一冊
- ⑥ 御手許江差出金調帳（嘉永四年改） 横長半 一冊
- ⑦ 店有代呂物書上帳 亥（嘉永四年）八月改 横長半 一冊
- ⑧ 諸口貸方差引調帳（嘉永四年改） 横長半 一冊
- ⑨ 不足金難用調付立覚（嘉永四年改） 横長半 一冊
- ⑩ 戌（嘉永三年）ニ買請甘草穩岐国難船諸掛損金調帳（嘉永四年改） 横長半 一冊
- ⑪ 申（嘉永元年）能州福浦難船損金調帳（嘉永四年改） 横長半 一冊
- ⑫ 戌年（嘉永三）店元造出甘草穩岐国難船損金調帳（嘉永四年改） 横長半 一冊
- ⑬ 金利難用調帳（嘉永四年改） 横長半 一冊
- ⑭ 旅方難用調帳（嘉永四年改） 横長半 一冊
- ⑮ （上方）塩・砂糖・生蠟等買入取調帳（嘉永四年改） 横長半 一冊

- ⑩ （嘉永三戌年作り甘草直段取調帳）（嘉永四年改） 横長半 一冊
- ⑪ 買入置甘草直段引合調帳（嘉永四年改） 横長半 一冊
- ⑫ 甘草方惣勘定一紙 亥（嘉永四年）八月改 横長半 一冊
- ⑬ 從申年（嘉永元）中亥（同四年）八月十日限店卸惣差引勘定帳 亥（嘉永四年）八月改 横長半 一冊
- ⑭ 大坂炭屋并八荷や預荷物当時相庭凡代金之積り尚亦今町預け置荷物凡しらべ帳 嘉永四年十一月十五日改 横長半 一冊

（甘草・杏仁関係文書綴）

一綴 う 〇三
（七通・一冊）

- ① （甘草作見積書）（甘草作付坪数、收穫量、代金の見積もり）（嘉永三年） 横切縦紙 一通
- ② （大津納屋甚兵衛一条ニ付申上書案）（No. 八六九と関係）（産物会所役人）（嘉永） 折紙 一通
- ③ 水井忠藏他六名書状（産物杏仁一条につき上坂のうえ相伺いたい旨通知） 白山彦五郎様（嘉永）三月一五日 横切縦紙 一通
- ④ （甘草仕切書）（甘草收穫量、代金、諸入用、純益の明細書） 東店 子（嘉永五年）十二月 横長半 一通
- ⑤ （甘草目方改届書） 石川村勝左衛門、長百姓立合藤吉、立合之上中村市三郎（嘉永） 横切紙 一通
- ⑥ （水井）忠藏用状（杏干仁冥加銀増上納の儀につき）（八田）慎藏・喜兵衛様（嘉永）四月二二日 横切縦紙 一通
- ⑦ （杏干仁入札平均直段覚書）（嘉永） 小切紙 一通

⑧ (杏仁納方改之儀ニ付申上書) (出役を仰せ付けられ、杏仁貫目改めに立ち合う) 御会所御客人片相庫之助 御産物方御会所(宛) (嘉永)九月 横切継紙 一通	(大坂交易関係文書綴) (嘉永) 一綴う八四 (二通)	① 高田幾太書状(産物代金のうち五百両受け取り、松代表へ廻した旨通知) 栄八殿 (嘉永) 横切継紙 一通	② きく屋伝兵衛手代友吉・太之八書状(甘草荷物大坂送り出しの件について) 石塚六三郎殿 (嘉永)三月三日 横切継紙 一通	③ (甘草大坂へ積為登覧書) (嘉永) 横切継紙 一通	④ 石塚六三郎書状(大坂布袋屋六藏殿前嶋塩二千俵を積んで入船したので、預っている甘草三百六十箇を積登す旨通知) 藤屋戸佐久様 (嘉永)三月朔日 横切継紙 一通	⑤ (町方・村方商人名前書) (甘草取扱商人カ) (嘉永) 横切継紙 一通	⑥ 太三郎書状(かねて願っていた二百金を渡してくれよう頼み込む) 佐久間様 (嘉永) 横切紙 一通	⑦ (甘草仕切状) 高井 佐久間様 (嘉永) 横切継紙 一通	⑧ (金子請払覧書) (嘉永) 横切継紙 一通	⑨ 高井(善右衛門)書状(甘草調勘定について分からない点があるので、太三郎を遣わし相談したい旨通知) 松本(嘉十郎)様 (嘉永)三月三日 横切紙 一通	⑩ (塩代金覧書) 子(嘉永五年)三月六日 小切紙 一通	⑪ (塩代金覧書) (嘉永) 小切紙 一通
--	-----------------------------------	---	---	--------------------------------	--	--	--	-----------------------------------	----------------------------	--	---------------------------------	--------------------------

⑫ (甘草大坂取引之儀ニ付尋問書) 亥(嘉永四年)七月 横切継紙 一通	⑬ 宇吉・文蔵書状(本石町二丁目近江屋三左衛門より菊屋伝兵衛への為替金を請け取り、御納戸へ納めた旨通知) (八田)嘉助・喜兵衛様 (嘉永)十一月一四日 横切継紙 一通	⑭ 小松書状(到着通知) 松本(嘉十郎)様 (嘉永)一〇月二日 横切継紙 一通	⑮ 北沢彦大夫書状(大坂への産物積登の件で炭屋彦五郎支配人孫七に相談したいこと)の通知) 栄八様 (嘉永)十一月一四日 横切継紙 一通	⑯ 廻状(寄合評議願廻状) (八田)嘉助・喜兵衛・(水井)忠蔵・(佐竹)周蔵・(春日)儀左衛門・(松本)嘉十郎・(八田)儀三郎様 (嘉永)十一月九日 横切継紙 一通	⑰ 弥左衛門用状(名代の者婦村通知) 松本(嘉十郎)様 (嘉永)十一月 切紙 一通	⑱ (甘草仕切状) (嘉永) 折紙 一通	⑲ 御膳代金受取状) 田原屋太兵衛 上(宛) (嘉永)八月九日 横切紙 一通	⑳ 忠左衛門書状(印鑑をして書面を差し上げるので然るべきよう取り計られんことを願う) (八田)嘉助様 (嘉永)一〇月二四日 切紙 一通	㉑ 康楽寺澤瑞書状(産物会所懸へ歎願の儀につきとりなしを願う) 八田嘉助様 (嘉永)四月三日 横切継紙 一通	以書取御覧奉申上候(越後今町石塚六三郎方へ出荷甘草売之儀ニ付覧書) 東店 (産物会所宛) 嘉永五年閏二月 美 仮一冊う八巻
--	--	--	--	---	--	-------------------------	---	--	---	--

○甘草相場下落

御内尋ニ付評義候趣意申上候（甘草相場下落内尋ニ付甘草七ヶ年掘留評議申上書控）御預所小布施太三郎、伊勢町伝兵衛代栄八・多八、紙屋町戸佐久 嘉永六年三月 美大 仮一冊 う 〇二

大坂小西彦七手代藤助此度罷越候儀ニ付菊屋伝兵衛返答之次第寛書（松代領分甘草一ヶ年掘留の儀について。小西彦七は大坂道修町の菓種問屋で大坂に送られた松代藩の甘草売り捌きを請け負っていた。）（嘉永六年） 折紙 一通 う 五三

（炭屋彦五郎・孫七ヶ竹村金吾・水井忠藏・松本嘉十郎宛書状書留）（甘草相場下落に關しての書状四通書留）（嘉永六年九） 横長半 仮一冊 う 〇七

大坂炭屋孫七ヶ到来書状写（甘草相場下落、取引算用等について）松本嘉十郎様、菊屋伝兵衛様（嘉永六年九）四月二八日 半 仮一冊 う 〇七

口上書（甘草大坂相庭ニ付口上書）東店 堅紙 一通 う 四六

○炭屋孫七手許不綴合一件

大坂炭屋彦五郎手代孫七甘草一条を始示談ニ付伺書案 産物会所懸（嘉永） 半 仮一冊 う 〇七

大坂炭屋彦五郎手代孫七等甘草一条を始示談ニ付伺書案 産物会所懸（嘉永）七月 半 仮一冊 う 〇六

年賦銀証文（案）（三五ヶ年賦返済）炭屋彦五郎殿 嘉永六年二月 大堅繼紙 一通 う 五〇

（大坂炭屋孫七ヶ菊屋伝兵衛等預り金関係文書書留） 嘉永六年 安政六年 美 仮一冊 う 六九

（炭屋孫七取計品々代金取調証文之儀ニ付願書案）（No.八八六と関連）（産物会所宛）（嘉永七年） 半 仮一冊 う 八四

（炭屋孫七手許不綴合一件文書書留）（炭屋が手許不綴合になり、名古屋伊沢屋への返済を菊屋伝兵衛・藤屋戸佐久への預け金を為替に取り組んですることにした一件に關する証文・願書等の書留） 嘉永六年、安政六年 美 仮一冊 う 〇六

（炭屋彦五郎手代孫七退役之儀ニ付伺書案）（安政元年九） 半 仮一冊 う 六八

乍恐以書付奉歎願候（尾州名古屋伊沢屋慎治郎江為替金方難決ニ付歎願書）（大坂炭屋孫七より伊沢屋への為替金を八田家が引き受けたが、勝手向難決のため決済できず、伊沢屋より訴えられたのに対する歎願書）伊勢町伝兵衛 御奉行所（宛） 安政六年四月 美 仮一冊 う 〇四

（杏仁荷数并運賃寛書） 横切繼紙 一通 う 五〇

（八田）嘉助・喜兵衛書状（産物荷物道中筋の儀について嘉助宅にて寄合を開くことの通知）（水井忠藏様）（嘉永九） 横切紙 一通 う 〇一

（八田嘉助）書状案（役代伝兵衛手代御領産甘草商売の儀につき）（嘉永） 横切繼紙（巻紙） 一通 う 〇六

（役代伝兵衛手代栄八甘草商売取扱之儀ニ付申上書案）（八田嘉助）（嘉永） 美大 仮一冊 う 〇三

（大坂交易関係願書案綴）（①大坂へ出張古着商売の儀につき、②御産物北海廻し試しの儀につき、③産物運送の船につき） 菊屋伝兵衛（産物会所宛） 美 一綴 う 〇九

大坂表江甘草等荷出し仕候付御領産御取締之儀伊勢町伝兵衛奉願候付伺書控 産物会所懸 美 仮一冊 う 〇五

（大坂へ為積登甘草如何相成居候哉御尋ニ付始末申上書案）（嘉永） 半 仮一冊 う 〇〇

(大坂表江御国産為積登之儀ニ付申上書) (嘉永)

半 一冊 う 三三

(産物会所懸り用状案) (甘草・杏仁取引について) 水井忠藏・春日儀左衛門・佐竹周藏・松本嘉十郎・八田嘉助・八田喜兵衛・八田義三郎 白山五郎・白山彦五郎殿 (嘉永) 九月一九日

半 一冊 う 三三

松代^{（？）}承右書状案(国産品々北海登セの儀について) 北風藏右衛門・栄助・直七様 (嘉永)

半 一冊 う 三三

松承右書状案(国産杏仁大坂登セについて) 越後会所芝山作左衛門・有保六左衛門様 (嘉永) 八月

半 一冊 う 三三

高井三九郎用状写(上京中の報告) 松本嘉十郎様 五月九日、一二日

美 一綴 う 三三

大坂進物覚書(甘草・杏仁の大坂への専売を請け負っていた菊屋伝兵衛・藤屋戸佐久・塩屋太三郎より大坂の炭屋・升屋・小西・鍵屋へ紬を進上) (嘉永)

切紙 一通 う 三三

(御領産取引先変更之儀ニ付申上書案) (江州大津納屋甚兵衛家の勝手向不都合につき、取引先を小川平右衛門に変更するとの案を藩首脳より下問され、産物会所役人が評議して上申。No.八七二一二と関連) (嘉永)

横長半 一冊 う 三三

(出雲崎船問屋并松崎船問屋名前書) (大坂交易と関係カ)

大豊切紙 一通 う 三三

(濃州野州本庄安芸守領分産物大坂売捌之儀ニ付口上書写) (紙・絹・木綿糸・真綿を平野町平屋太兵衛へ登せて売り捌かせる儀についての安芸守家来伴李太夫および平野屋太兵衛の大坂町奉行宛の口上書写。大坂交易をめぐる情報収集のために写したか) 午一二月

半 一綴 う 三三

○大坂表金無心一件

(大坂表金無心一件関係文書) (郡山藩に同藩大坂表御用達米屋平太郎への金無心取次を依頼した件の関係文書。他に上坂中の役人が大坂表の漆値段について報告した文書二通を含む) (嘉永)

一綴 う 三三

① 郡山御役人方到来物之義御内々伺書 (宮下)兵馬(収納方懸り) 五月二四日

小切紙 一通

② 渡部弁藏・古川幾右衛門書状(進物を謝し、餞別として南部産春日藤を贈る。渡部らは郡山藩役人) 宮下兵馬様 五月八日

横切継紙 (封紙入) 一通

③ 再度郡山江罷越候次第御内々申上書(郡山藩役人に米屋平太郎への金無心取次を依頼した件について) 五月二四日

横切継紙 一通

④ (渡部)弁藏・(和田)忠兵衛・(吉川)幾右衛門書状(手提呈上) 五月三日

横切継紙 一通

⑤ (恩田)頼母書状(大坂表一条について。頼母は松代藩家老) 壱岐・主水・助之進様 六月五日

横切継紙 一通

⑥ 御内使者御口上手扣案(郡山藩役人が同藩大坂表御用達米屋平太郎に松代藩への金融を頼んだが、返答を来年まで延ばした件について)

横切紙 一通

⑦ (時之助様并御家来衆江進物目録) (郡山藩主松平時之助とその家来への金品進上)

横切紙 一通

⑧ (時之助様并御家来衆江進物目録)

横切紙 一通

⑨ 郡山様江御挨拶被進物等之儀ニ付伺書 六月

横切継紙 一通

⑩ 郡山様江御挨拶被進物等之儀ニ付申上書 六月一八日

横切紙 一通

⑪ 回章（「郡山様」への御礼の儀について） （望月）主水（家老） 彦岐・助之進様 六月一日	横切継紙	一通
⑫ 御書添之同書（「郡山様」への御進物について） 「伺之通」という主水の奥書あり	小切紙 （封紙）	一通
⑬ 望月主書状封紙 恩田頼母様		一通
⑭ 信濃守様江時之助様御口上覚書（進物の礼状）	横切継紙 （包紙）	一通
⑮ 望月主水用状（「松平助之助様」より留守居内使者を以て仰せ越しの件について） 恩田頼母様 七月八日	横切継紙	一通
⑯ 口上覚（上坂中漆問屋買受相場取調口上覚書） 羽田忠左衛門・高田力馬 寅（嘉永七年カ）六月	横切継紙 （封紙）	一通
⑰ 以書取申上書（漆出荷之儀御尋ニ付申上書） 羽田忠左衛門・高田力馬 （嘉永七年カ）六月	横切継紙	一通
（大坂表金無心一件関係文書）（嘉永）		
① 幸橋様へ御挨拶之義申上書（大坂米屋平太郎への取り持ちに対し、幸橋に礼をするよう上申） 宮下兵馬 六月	横切継紙	一通
② 幸橋様へ被進等之御品御用意之義申上書（宮下）兵馬 （嘉永）六月	小切紙	一通
③ （時之助様并御家来衆江進物目録） 六月	横切紙	一通
④ 大坂表にて別段郡山御役人江頼談次第ニ付津田転より幸橋様御留守居へ口上之趣意 宮下兵馬 六月二日	横切継紙	一通

⑤ 幸橋様江御仕向之義ニ付申上書 竹村金吾（御収納方懸り）・宮田幾太 六月四日	小切紙	一通
⑥ 回章（宮下兵馬が上坂して郡山藩役人に米屋平右衛門への金無心取次を依頼した件について）（恩田）頼母（家老） 石見・伊賀・舎人様 六月五日	横切継紙	一通
西国産物買入		
神吉丸兵右衛門船送り状（白砂糖、黒砂糖） 大坂炭屋孫七 越後直江津今町石塚六三郎殿、松代御産物懸菊屋伝兵衛殿 嘉永二年三月二日	縦継紙	一通 う九九
海悦丸万造船積入送り状（黒砂糖、白砂糖、泉州白下地、晒蠟等） 炭屋孫七 越後今町問屋石塚六三郎殿、信州松代様御産物附菊屋伝兵衛・藤屋戸佐久殿 酉（嘉永二年）六月十四日	大縦継紙	一通 う九八
（塩・砂糖・蠟仕切状） 炭屋孫七 菊屋伝兵衛・栄八様 酉（嘉永二年）一〇日	横切継紙	一通 う八四
海悦丸万造船送り状（玉砂糖） 炭屋孫七 今町石塚六三郎殿、信州松代菊屋伝兵衛・藤屋戸佐久殿 嘉永三年四月	縦紙	一通 う九八
（生蠟仕切状）（菊屋らが買入） 大坂炭屋孫七 信州松代御産物附菊屋伝兵衛・藤屋戸佐久・塩屋太三郎殿 戌（嘉永三年）六月九日	縦継紙	一通 う九四
（黒砂糖仕切状）（菊屋らが買入） 炭屋孫七 菊屋伝兵衛殿 戌（嘉永三年）	縦継紙	一通 う九五
御売目録（玉砂糖仕切状） 石塚六三郎 菊屋伝兵衛殿 嘉永三年七月	大縦継紙	一通 う八元
御売目録（玉砂糖仕切状） 石塚六三郎 菊屋伝兵衛殿・藤屋戸佐久殿 嘉永四年正月	大縦継紙	一通 う八〇

○

炭屋孫七并大坂津の国や友七の書状入用之
処書抜(塩積出の件等について) (嘉永三年)

半 仮一冊 う 八六

(炭屋孫七の松本嘉十郎宛書状并塩送り状書
留) 嘉永二年閏四月五日(同年五月一二日写)

美大 仮一冊 う 八三

仕切(金州竹原塩仕切状) 炭屋孫七 松御産物
付菊屋伝兵衛・藤屋戸佐久・塩屋太三郎殿 西(嘉
永二年一〇月晦日)

大堅切紙 一通 う 八五

仕切(赤穂塩仕切状) 炭屋孫七 吾妻宗左衛門・
菊屋伝兵衛・藤屋戸佐久・塩屋太三郎殿 西(嘉永
二年一〇月晦日)

大堅継紙 一通 う 八八

仕切(赤穂塩仕切状) 大坂炭屋孫七 菊屋伝兵
衛・藤屋戸佐久殿 西(嘉永二年一〇月)

大堅紙 一通 う 八七

御売目録(前嶋塩仕切状) 石塚六三郎 菊屋伝
兵衛・藤屋戸佐久殿 嘉永三年五月

大堅継紙 横切継紙 二通継 う 八七

(富浜塩仕切状) 大坂炭屋孫七 松代菊屋伝兵
衛・藤屋戸佐久殿 戊(嘉永三年一〇月)

大堅継紙 一通 う 八六

(松永塩仕切状) 大坂炭屋孫七 松代菊屋伝兵
衛・藤屋戸佐久・塩屋太三郎殿 戊(嘉永三年)十月

大横切継紙 一通 う 八三

(塩仕切状) 菊屋伝兵衛 塩屋太三郎様 戊(嘉
永三年)十一月

大横切継紙 一通 う 八五

(富浜塩仕切状) 大坂炭屋孫七 幾久屋伝兵衛・
藤屋戸佐久・塩屋太三郎殿 (嘉永三年)一〇月

大横切継紙 一通 う 八三

(琉球表仕切状) 竹屋吉右衛門 炭屋孫七様
西(嘉永二年)六月一二日

大堅継紙 一通 う 八四

御売目録(琉球表仕切状) 石塚六三郎 菊屋伝
兵衛・藤屋戸佐久殿 嘉永二年二月

大堅継紙 一通 う 八六

御売目録(琉球表仕切状) 石塚六三郎 菊屋伝
兵衛・藤屋戸佐久殿 嘉永三年五月

大堅継紙 一通 う 八五

御売目録(琉球表仕切状) 石塚六三郎 菊屋伝
兵衛・藤屋戸佐久殿 嘉永三年九月一日

大堅継紙 一通 う 八七

御売目録(琉球表仕切状) 石塚六三郎 菊屋伝
兵衛・藤屋戸佐久殿 嘉永三年二月

大堅継紙 一通 う 八六

(小豆仕切状) 石塚六三郎 菊屋伝兵衛・藤屋
戸佐久・炭屋孫七殿 嘉永二年九月三日

大堅切紙 一通 う 八三

御買目録(小豆仕切状) 石塚六三郎 菊屋伝兵
衛・藤屋戸佐久殿 嘉永二年九月

大堅継紙 一通 う 八三

売仕切(越後小豆仕切状) 赤間関小倉屋庄右衛
門 海悦丸万蔵殿 (嘉永一〇月九日)

堅継紙 一通 う 八〇

仕切(小豆仕切状)(後欠) (嘉永)

大堅紙 一通 う 八三

仕切状之事(大俵帖仕切状) (松代行の荷物を仲
介の炭屋へ贈る) 竹原仁賀屋甚太郎 炭屋孫七・
神吉丸兵右衛門殿 嘉永二年四月一九日

大堅継紙 一通 う 九七

○

(国許へ買下諸品代銀借用証文) (返済は炭屋
孫七へ登せた荷物の売捌代金をもって充てる) 松
代産物掛菊屋伝兵衛代栄八(炭屋孫七奥書印形)
小七彦七殿 嘉永三年三月

堅継紙 一通 う 八二

(品物代金年賦払懸合一件覚書) (近年勝手難
渋につき、八田伝兵衛が三千太郎に品物代金の年賦
払を懸け合った一件の覚書) (嘉永)

美 仮一冊 う 三九

○

（蠟石并唐物銅印代金受取手形） 中村屋金助 小切紙 一通 う 四二
高川様 六月二五日

安政期杏仁大坂売捌仕法

○杏仁買上

杏仁御勘定取調ニ付入用書類（袋の上書） 安政 袋入 五冊 う 六五
二年

① 乍恐以書付御答奉申上候（杏仁御買上被仰付ニ付返答書） 布施高田村大行司大太郎 堅紙 一通
御産物方御会所（宛） 安政二年六月

② （杏仁俵数人別書上）（前の願書に添えられ
たもの） 布施高田村大行司大太郎 御産物 横長美 仮一冊
方御会所（宛） 安政二年

③ 乍恐以書付申上候（杏仁俵数人別書上）
倉科村首作 生萱村馬作 御掛松本嘉十郎様 堅紙 一通
安政二年七月

④ 差上申一札之事（杏仁俵数人別書上） 森 村行司恒吉 世話役八野右衛門 御産物方御 堅紙 一通
会所（宛） 安政二年七月

⑤ 御改ニ付奉申上候（杏仁俵数人別書上）
久保寺村名主太右衛門、同重次郎 御産物方 美 仮一冊
御会所（宛） 安政二年六月二二日

⑥ 乍恐杏仁（仁）持合之分奉申上候（杏仁俵数
人別書上） 清八・安兵衛 産物掛り御役所 堅紙 一通
（宛） 安政二年六月二七日

⑦ 乍恐杏仁（仁）持合分奉申上候（杏仁有高書
上） 後町村卯兵衛 産物御掛り役所（宛） 堅切紙 一通
安政二年六月二七日

⑧ 杏仁俵数御書上帳 上平村行司佐市 御産 横長美 一冊
物方御会所（宛） 安政二年六月

⑨ 杏仁俵数御書上帳 石川村大行司勝左衛門 横長美 一冊
御産物方御会所（宛） 安政二年六月

⑩ 杏仁俵数人別御書帳 仙石組大行司与五郎 堅 一冊
御産物方御会所（宛） 安政二年六月

（包紙） 羽尾村仙石組、若宮村、上山田村、布 施高田村、石川村 上（産物会所宛）（安政） 一枚 う 六五

乍恐以書付奉申上候（久保寺村ニ而杏干買取候儀御尋ニ付返答書） 腰村藤右衛門帳下和十郎（爪印）、名主一名、組頭二名（産物会所宛） 安政 堅紙 一通 う 六三
二年六月

乍恐以書付御答申上候（腰村和十郎江杏干売候儀御尋ニ付返答書）（No.八五二と関連） 久保寺 村儀助 御産物方御会所（宛） 安政二年六月 堅紙 一通 う 六五

乍恐以書付奉願上候（腰村和十郎無鑑札ニ而杏干買取候儀ニ付同人吟味被成下度願書）（No.八五二、八五三と関連）（杏干仲買仲間）（産物会所宛）（安政二年六月） 堅紙 一通 う 六四

乍恐以書付奉願候（中買共江杏仁代金下ケ渡願書） 布施高田村大行司大太郎 御産物方御会所 美 仮一冊 う 六五
（宛） 安政二年七月

乍恐以書付奉歎願候（杏仁代金下ケ渡願書）（嶋五郎が北原村彦三郎より杏仁を買い取り、それを漬し、会所へ納める） 布施高田村嶋五郎 御産物方 美 仮一冊 う 六四
御会所（宛） 安政二年七月

（杏仁買上関係文書綴） 安政二年七月 二綴（八通） う 六四

① 差上申一札（杏仁納手形） 広田村内蔵（爪印） 御産物方御会所（宛） 安政二年七月六日 堅紙 一通

② 差出申一札（杏仁納手形） 森村納主八野右衛門 御産物御会所（宛） 安政二年七月三日 堅紙 一通	③ 乍恐以書付奉願候（杏仁代金下ヶ渡願書）（仲買が坪方より杏仁を買い入れて会所へ納め、会所よりの下ヶ金でもって坪方へ払う） 矢代村安兵衛 行司新次郎 御産物御会所（宛） 安政二年七月 堅紙 一通	④ 乍恐以書付奉願候（杏仁代金下ヶ渡願書） 羽尾村仙石領大行司与五郎、若宮村願人惣代慶助、八幡村願人惣代大助 御産物方御会所（宛） 安政二年七月 堅紙 一通	⑤ （杏仁代金下ヶ渡願書）（森村・矢代村中買買入分） 行司恒吉・八野右衛門 御産物御会所（宛） 安政二年七月一日 堅紙 一通	⑥ 乍恐杏仁持所有高奉申上候（葉種渡世仕候ニ付杏仁小売仕度願書） 清八、安兵衛、宇兵衛 御産物方御会所（宛） 安政二年七月 堅紙 一通	⑦ 口上書（杏仁買取潰し揚差上度願書）（中買の者たちに金子を遣わして杏仁を買取らせ、それを潰して仁にした上で会所へ差し上げた旨願う。No.八四九、八五〇関連） 稲荷山村松林源之助 上（産物会所宛） 卯（安政二年）七月 横切紙 一通	⑧ 杏仁買入俵数書（杏仁買入予定の俵数の書上） 稲荷山村松屋源之助 御産物御会所（宛） 安政二年七月 堅紙 一通	乍恐以書付奉願（杏仁代金下ヶ渡願書） 布施高田村太郎 御産物方御会所（宛） 安政二年七月 堅紙 一通 う 八七	（杏仁預り証文并杏仁俵数ノ出届書） 美 一綴 う 八七 （三通）
---	---	--	--	---	---	--	--	--

① （杏仁預り手形）（俵数・目方改めの上大行司が預り、差図次第御用場へ持参） 布施高田村名主・原村名主・小松原村長百姓・布施五明村名主・布施高田村大行司 御産物方御会所（宛） 安政二年八月 一綴 （三葉）	② （杏仁預り手形） 下横田村福藏、名主・組頭・長百姓 御産物方御会所（宛） 安政二年八月 一通	③ （杏仁俵数ノ出届書）（布施高田村大行司の手元に預けた杏仁俵数の届書）（安政二年八月） 一通	差上申一札（杏仁預り手形）（改めの上、杏仁を預り、差図次第何方なるとも荷出することを約す） 上平村佐市 産物方御会所（宛） 安政二年九月一日 堅切紙 一通 う 八四	（杏仁買上関係願書綴）（杏仁買上にかかわる産物会所宛の行司・村役人よりの願書綴） 安政二年同六年 美 一綴 う 八六 （六通）	乍恐以書取奉申上候（善光寺商人共杏仁売買之儀取調申上書）（産物会所より取調を命じられ、善光寺商人に糺した結果を上申） 川田宿西沢又右衛門 御会所御掛様 安政三年七月 美 一冊 う 八二	杏仁有数書上（久保寺村・善光寺分） 辰（安政三年）九月三日 折紙 一通 う 八元	（杏仁買上直段之儀ニ付願書） 町川田村重左衛門 産物御役所（宛） 安政三年九月 堅切紙 一通 う 八三	乍恐以書付ヲ奉申上候（杏仁代金下ヶ渡願書）（行司が仲買買入の杏仁を取り調べ、目方に相違ないことを確認した上で、代金の下げ渡しを願う） 布施高田村大行司太郎 年行司治平 御産物方御会所（宛） 安政三年九月三日 美 一冊 う 八四
---	--	---	---	---	---	---	--	--

乍恐以書付奉願候（杏仁代金荷山松屋源之助方江下ヶ渡願書）（杏仁を松屋へ差し遣わしたので代金は同人へ下げ渡されるよう願う。No.八四六・七・八・八五〇と関連） 生萱村長作 御産物方御会所（宛） 安政三年九月	縦紙	一通	う 八〇
乍恐以書付ヲ奉申上候（仲買共買入杏仁代金并荷繩荷延代金勘定書上） 布施高田村大行司大太三郎 御産物方御会所（宛） 安政二年一〇月	半	仮一冊	う 六〇
口上書取覚（善光寺商人共久保寺村江入込杏仁買取一件口上書取覚）（No.九〇一と関連）（安政三年）	美	仮一冊	う 六三
杏仁勘定下調手元扣（藩より産物会所が杏仁買上資金を拝借し、仲買に代金を渡す。それについての勘定下調書類を袋に入れる）（安政）	横切紙 折紙 （袋入）	二通	う 九五
（去辰年杏仁納残銘々御預ヶ分改并新杏仁相場取調届書） 御番人片相庫之助 （安政四年）六月二十四日	半	仮一冊	う 三六
（杏仁相場廻村取調届書）（杏仁相場穿鑿を命じられて調査） 御番人政吉 （安政四年力）六月晦日	半	仮一冊	う 三七
（杏干・杏仁直段入札綴）（産物会所より杏干・杏仁直段の入札を仰せ付けられ、各村々の名主等が仲買への売値段を記して会所へ提出） 安政四年		一綴	う 六二 （七通）
①（杏干・杏仁直段入札） 生萱村 （安政四年）	小切紙	一通	
②（杏干・杏仁直段入札） 倉科村三役人 上（宛） 安政四年六月五日	堅切紙	一通	
③差上申候（杏干・杏仁直段入札） 森村名主富右衛門、同茂左衛門 御産物方御会所（宛） 安政四年六月五日	堅切紙	一通	
④差上申一札之事（杏干・杏仁直段入札） 若宮村役人代久右衛門 御産物方御会所御役所（宛） 安政四年閏五月	縦紙	一通	
⑤（杏干・杏仁直段入札） 久保寺村名主源右衛門 御産物方御会所（宛） 安政四年	堅切紙	一通	
⑥（杏仁直段入札） 石川村名主与惣左衛門、同吉左衛門 安政四年五月	堅切紙	一通	
⑦差上申一札之事（杏干・杏仁直段入札） 羽尾村仙石組役人代幸藏 産物御会所（宛） 安政四年閏五月	縦紙	一通	
（杏干・杏仁直段入札綴）（仲買の買値段の入札） 安政四年		一綴	う 六三 （二三通）
①乍恐以書付奉申上候（杏干・杏仁直段入札）（村方により升目が異なり売主・買主の不正を生む原因となっているので、まず升目を一定すべきことを上申したうえで、値段を入札。端裏書「中買共入札」） 矢代村安兵衛 御産物方御会所（宛）（安政四年）	縦紙	一通	
②差上申一札之事（杏干・杏仁直段入札） 羽尾仙石組行司与五郎代幸藏 産物方御会所（宛） 安政四年閏五月	縦紙	一通	
③杏干仁相場（杏干・杏仁直段入札） 上山田村中買行司九八郎 御産物方御会所（宛）（安政四年）	縦紙	一通	
④（杏仁直段入札） 石川村五人惣代市郎兵衛（安政四年）	小切紙	一通	
⑤（杏干・杏仁直段入札） 生萱村中買五郎兵衛、同豊作 （安政四年）	小切紙	一通	
⑥覚（杏干・杏仁直段入札） 後丁村（善光寺領） 御産物御会所（宛） 已（安政四年） 閏五月二九日	縦紙	一通	

- ⑦ 相場付(杏干・杏仁直段入札) 稲荷山村 横切紙
御鑑札仲間 御産物御会所(宛) 巳(安政四) 閏五月二十九日
- ⑧ (杏干・杏仁直段入札) 原村仲買彦左衛門、役人代助治 御産物方御会所(宛) 安政四年閏五月 縦紙
- ⑨ 乍恐以入札奉願上候(杏干・杏仁直段入札) 布施高田村大行司大太郎 御産物方御会所(宛) 安政四年閏五月 縦紙
- ⑩ 入札(杏干・杏仁直段入札) 町川田村重 左衛門(安政四年) 貼紙
- ⑪ 入札(杏干・杏仁直段入札) 倉科村佐作 上(産物会所宛) (安政四年) 貼紙
- ⑫ 入札(杏干・杏仁直段入札) 久保寺村仲買仲間 (安政四年) 貼紙
- ⑬ 覚(杏干・杏仁直段入札) 妻科村 御産物御会所(宛) (安政四年) 縦紙
- (杏干仁関係願書并入札綴) 安政四年 一綴う 八三
- ① 差上申一札之事(杏干仁相場入札之儀ニ付願書) (入札するよう仰せ渡されたが、諸方の相場を存じない故、上様の定めた相場を以て売買したい旨願う) 上山田村役人代治左衛門 御産物方御役所(宛) 安政四年六月 縦紙
- ② 差上申一札之事(杏仁相場入札之儀ニ付願書) (物少なき故、御定相場を以て売買したい旨願う) 矢代村名主和三郎・同兵七・組頭四名・長百姓二名 御産物方御会所(宛) 安政四年閏五月 縦紙

- ③ 差上申一札之事(杏干仁相場入札之儀ニ付願書) (内容同前) 布施高田村名主熊蔵・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 安政四年閏五月 縦紙
- ④ 差上申一札之事(杏干仁相場入札之儀ニ付願書) (内容同前) 原村役人代助治 御産物方御会所(宛) 安政四年閏五月 縦紙
- ⑤ 差上申一札之事(杏干仁相場入札之儀ニ付願書) (内容同前) 八幡村名主治郎八・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 安政四年閏五月 縦紙
- ⑥ 覚(杏干・杏実直段入札) 御村方行司栄 左衛門 巳(安政四年)六月二三日 縦切紙
- ⑦ 乍恐以書付奉申上候(妻科村方買入杏仁善光寺東町礪屋磯吉江売渡し願書) 妻科村新田組久蔵、役人代幸七 御産物方御会所(宛) 巳(安政四年)八月 縦切紙
- ⑧ 乍恐以書付奉申上候(荒山村富作買入杏仁引取願書) (富作が買入れたものの仁になりかねるので、源之助が引き取り、仁にして差し上げたい旨願う) 御徳居松林源之助 御産物御会所(宛) 安政四年七月 縦紙
- ⑨ 乍恐以書付奉願候(杏仁村継之儀ニ付願書) (若宮村・羽尾村仙石組・上山田村の継立では遠すぎて難渋する故、羽尾村仙石組・若宮村・上山田村の順にしてほしい旨願う) 羽尾村仙石組大行司与五郎 御産物方御会所(宛) 安政四年十一月 縦紙
- 乍恐以書付御日延奉願候(杏仁上納日延願書) 羽尾村仙石組願人角之丞、名主与五郎、長百姓重郎治 庄左衛門 御産物方御会所(宛) 安政四年一〇月九日 縦紙

杏仁書類

① 乍恐以書付奉願候（仲買共江杏仁代金下渡願書） 御徳居松林源之助 御産物御会所（宛） 文政四年八月	一綴 （八通） う 八 九
② 以口上奉申上候（杏仁受取預り候段申上書） 石川村堀内斧右衛門・中村市三郎・桑原村関新右衛門・稲荷山村松林源之助 松代御産物方御会所（宛） 安政四年二月	一通 大綴紙
③ 差上申一札之事（杏仁預り証文）（出役改めのをえ封印して預り、差図しだい出荷することを約す） 網掛村御預主重右衛門、名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所（宛） 安政四年十一月	一通 堅紙
④ 差上申一札之事（杏仁預り証文） 上平村御預主佐市・三役人代利右衛門 御産物方御会所（宛） 安政四年二月	一通 堅紙
⑤ 送り状（杏仁送り状） 善光寺上後町宇兵衛 御産物御会所（宛） 巳（安政四年）六月八日	一通 切紙
⑥ 乍恐以書付御縫奉願上候（三郎兵衛触番勤中不都束之儀赦免願書）（母が大病のため触の廻達が遅延した事情を延べ、赦免を願う） 中ノ御所村当人三郎兵衛、名主・組頭・長百姓各一名 御産物御会所（宛） 安政四年七月	一通 堅紙
乍恐以書付奉願上候（杏仁御納願書）（会所買上の杏仁を未だ収納してくれないため） 稲荷山村杏仁仲間甚右衛門以下一〇名 松代御産物御会所（宛） 安政四年九月	一通 う 三 三 堅綴紙
乍憚以口上書御願申上候（杏仁御納願書）（No. 三七二と対をなす） 杏仁売主一同 御徳居松林源之助様 安政四年九月	一通 う 三 三 堅綴紙

（杏仁買上代金下ヶ渡願書） 矢代村安兵衛 御産物方御会所（宛） 安政四年十一月十八日	小切綴紙 一通 う 四〇
（杏仁代金下ヶ渡願書） 矢代村安兵衛 御産物方御会所（宛） 安政四年十一月十八日	小切紙 一通 う 四二
（杏仁差出仕切状） 新馬喰町伝右衛門 巳（安政四年）六月	折紙 一通 う 四三
国産方書類（杏仁買上に関する触・用状等） 安政四年	横切綴紙 一綴 （二通） う 四六
稲山杏仁目方相改候義ニ付同書案（稲山源之助に預け置いた杏仁のうち大坂荷出残りの分は小森村新助・喜助に払い下げることとしたので、目方を改める。No. 八四六・七・八、八四九と関連）（安政五年）	半 仮一冊 う 八五

※産物方之書類（天秤振諸商売仲間取締についての同書案、産物方品々冥加金上納調についての問合状、会所宛鑑札・真木代金受取手形、杏仁代金覚書等々） 安政六年	横切綴紙 一綴 う 五八 （一通）
（産物会所所用状）（杏仁会所買上に関する用状の綴）（安政）	横切綴紙 一綴 う 三七 （八通）
（杏仁買上関係文書綴）（杏仁代金内渡しのため村役人に出頭を命じた差紙等）（安政）	横切紙 一綴 う 四三 （八通）
（杏仁買上関係文書綴）（代金覚書、代金受取手形等） 安政	横切紙 一綴 う 四四 （九通）
（川辺村八ヶ村并御領分川辺組江仕入参村方名面書）（杏仁の仕入方。No. 四〇八・四二七綴りのうち）（安政方）	横切綴紙 一通 う 四七

<p>以書付御縫申上候(杏仁買入不都束之段救免願書)(昨年も杏仁買入分を会所へ同わなかつたことを詫び、当年も鑑札を頂戴したい旨願う。No.九二〇) 美 (No.九三七袋入) 上田御領稲荷山村三平以下八名 (羽尾村大行司与五郎奥書印形) 御産物方世話役 関新右衛門・堀内斧右衛門・中村市三郎殿(世話役がさらに産物会所へ取り次ぐ) 万延元年六月 仮一冊 う 三</p>	<p>乍恐以書付奉願上候(潰杏仁金壹両ニ付八貫目ニ而御買上願書) 石川村・羽尾村・小森村・布施高田村・瀬原田村各願人 御産物方御会所(宛) 万延元年九月 一通 う 二七</p>	<p>(仲買人買入杏仁倭数改書上) 上山田村大行司九八郎 御産物方御会所(宛) 万延元年九月 一通 う 二六</p>	<p>(仲買共買入杏仁書上并手形綴) 万延元年 一綴 (六通・う 八七 二冊)</p>	<p>① (買入杏仁目方書上) 御産物方御会所(宛) (万延元年)九月 折紙 一通 (二葉)</p>	<p>② 乍恐以書付奉申上候(杏仁買入預り手形)(仰せ付けられ次第上納することを約す) 北平林村磯右衛門子友七 御産物方御会所(宛) 万延元年九月五日 豎紙 一通</p>	<p>③ 乍恐以書付奉申上候(買入杏仁目方書上) 吉田村喜七・長五郎・富作 御産物方御会所(宛) 万延元年九月四日 豎紙 一通</p>	<p>④ 乍恐以書付奉申上候(杏仁買入預り手形) 市村北組久八 御産物方御会所(宛) 万延元年九月 豎紙 一通</p>	<p>⑤ 杏仁御書上帳(仲買人別に買入杏仁倭数を書上) 羽尾村仙石組大行司与五郎 御産物方御会所(宛) 万延元年九月 半 一冊</p>	<p>⑥ 乍恐以書付奉申上候(買入杏仁目方書上) 布施高田村大太郎 御産物方御会所(宛) 万延元年九月 半 仮一冊</p>	<p>⑦ (買入杏仁目方書上) (万延元年) 豎紙 一通</p>	<p>⑧ 乍恐以書付奉申上候(杏仁買入之儀御尋ニ付申上書) 久保寺村金左衛門・清太夫・長藏郎 御産物御会所(宛) 万延元年九月 豎紙 一通</p>	<p>○杏仁大坂試捌 (杏仁大坂表江差遣同聞済関係文書写留) (安政二年)六月 半 仮一冊 う 八三</p>	<p>(杏仁大坂売捌関係文書写留) (大坂道修町薬種問屋小西彦七の松代御用場守津国屋友七宛口上書、津国屋友七の在坂郡奉行所宛申上書等の写留) 安政二年 半 仮一冊 う 八六</p>	<p>願書并請書・縫書(袋の上書) 安政三年(同六年) 袋入 仮二冊 八通 う 八六</p>	<p>① 乍恐以書付ヲ奉御請候(御国産杏仁大坂表試捌之儀ニ付請書)「御国産」の趣意を心得ることを誓約 布施高田村大行司大太郎、同村年行司七名、会村一名、小松原村二名 御産物方御会所(宛) 安政三年六月 美 仮一冊</p>	<p>② 乍恐以書付御請奉申上候(御国産杏仁大坂表試捌之儀ニ付請書) 矢代村安兵衛、生萱村馬作、倉科村重藏 御産物方御会所(宛) 辰(安政三年)六月 美 仮一冊</p>	<p>③ 乍恐以書付御請奉申上候(御国産杏仁大坂表試捌之儀ニ付請書) 石川村大行司勝左衛門他四名、布施五明村助藏・弥兵衛 御産物方御会所(宛) 安政三年六月 美 仮一冊</p>
--	---	---	--	---	--	--	--	--	--	---	--	--	---	---	---	---	---

- ④ 乍恐以書付御請奉申上候(御国産杏仁大坂表試捌之儀ニ付請書) 中御所村・小柴見村・三輪村・久保寺村・大豆嶋村・風間村各仲買・村役人 御産物方御会所(宛) 安政三年六月 美 仮一冊
- ⑤ 乍恐以書付御請奉申上候(御国産杏仁大坂表試捌之儀ニ付請書) 上山田村大行司九八郎・同村中買二名・上平村・上五明村各仲買一名 御産物方御会所(宛) 安政三年六月 美 仮一冊
- ⑥ 乍恐以書付御請奉申上候(御国産杏仁大坂表試捌之儀ニ付請書) 後町村宇兵衛、役人代忠八 御産物方御会所(宛) 安政三年六月 美 仮一冊
- ⑦ 差上申御請一札之事(御国産杏仁大坂表試捌之儀ニ付請書) 町川田村杏仁買重左衛門・喜藤太・名主・組頭・長百姓 御産物方御会所(宛) 安政三年六月 美 仮一冊
- ⑧ (御国産杏仁大坂表試捌之儀ニ付請書) 上山御領縮荷山村友作他一名、御分知北原村彦三郎・上山御領尾下村甚右衛門、同今里村弥吉、御徳居松林源之助 御産物御会所(宛) 安政三年六月 美 仮一冊
- ⑨ 御尋ニ付乍恐以書付奉申上候(杏干仁仲買并手合金配り候哉之旨御尋ニ付返答書) 小松原村名主万蔵、組頭・長百姓各二名 産物方御役所(宛) 安政三年六月二四日 豎紙 一通
- ⑩ 御尋ニ付以書付奉申上候(前文書の下案) 安政三年六月二四日 豎紙 一通
- ⑪ 乍恐以書付御請奉申上候(石川村藤右衛門不埒御詮議中御町宿御預被仰付ニ付請書) 紺屋町御町宿織之助 御産物方御会所(宛) 安政三年六月二三日 豎紙 一通

- ⑫ 御尋ニ付乍恐以書付奉申上候(縮荷山村之者参り杏干仁手合金家内女子供等江預ヶ置候儀御尋ニ付返答書) 下横田村名主藤吉、組頭・長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 安政三年六月二五日 美 仮一冊
- ⑬ 乍恐以書付奉申上候(縮荷山村之者杏仁買入案内之儀御尋ニ付返答書) 岩野村仁左衛門・重兵衛、名主・組頭・長百姓各一名 産物方御役所(宛) 安政三年六月 美 仮一冊
- ⑭ 御尋ニ付乍恐以書付御答奉申上候(前文書の下案) 安政三年六月 豎紙 一通
- ⑮ 乍恐以書付奉申上候(縮荷山村之者杏仁買入案内之儀御尋ニ付返答書) 御平川村国治、名主伊助、組頭・長百姓各一名 産物方御役所(宛) 安政三年六月 美 仮一冊
- ⑯ 乍恐以書付御日延奉願候(杏仁御趣意請書指上日延願書) (印形が揃わないため) 羽尾村仙石組・若宮村・上山田村・布施高田村・石川村各大行司(爪印の者が多い) 御産物方御会所(宛) 辰(安政三年)六月二三日 豎紙 一通
- ⑰ ※乍恐以書付御總奉願候(留蔵無鑑札ニ而杏干仁商売仕候儀赦免願書(留蔵は盲目同様の故を以て赦免を願う) 上徳間村留蔵、名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 安政三年七月 美 仮一冊
- ⑱ ※乍恐以書付奉申上候(若宮村宇兵衛無鑑札ニ而杏仁買入候儀御尋ニ付返答書) 羽尾村仙石組大行司与五郎 御産物方御会所(宛) 安政六年七月 豎紙 一通

①9 乍恐御尋ニ付奉申上候(弟音吉杏千仁買入代金未済之儀御尋ニ付返答書)(岩野村が訴えたので兄の嘉吉が召し出され尋問される。音吉は上州高崎に行っていたので、猶予を願う) 上十人町つ組嘉吉、肝煎代網五郎 御産物方御会所(宛) 安政六年八月二十九日 縦紙 一通

②0 乍恐以書付御日延奉願候(嘉吉他出ニ付罷出日延願書)(前文書と関連) 十人町上西組肝煎忠太、肝煎代網五郎 御産物方御会所(宛) 安政六年九月 縦紙 一通

※(産物会所文書綴)(杏仁売買、絹袖江戸荷出、鑑札冥加上納、会所預り金、金所貸下金等々、諸般にわたる種々の文書の綴)(安政ノ慶応) 横切継紙 一綴 う 四二 横切紙 (二八通) う 四二

維新期京坂交易

(国産物大坂表江積廻売捌御用請書書留)(慶應四年二月、信州の旧幕府直轄領、松本藩・松代藩の預所、旗本領などが尾州藩の管轄となり、国産物の京坂売捌を実施) 半 仮一冊 う 三六

① 乍恐奉御請候口上(紬類七子井龍門袴地売捌御用請書) 引請人塩屋孝三郎、代判毛助、売捌人塩屋幸七 尾州様御産物御役所(宛) 慶應四年四月

② 乍恐御請候口上(葉種類売捌御用請書) 小西彦七、八荷屋定七、小西藤助 尾州様御産物御役所御役人衆中様 慶應四年四月

③ 乍恐御請書(麻芋布売捌御用請書) 麻芋売捌支配人紀伊国屋与三兵衛、芋屋市右衛門 尾州様御産物御役所(宛) 慶應四年四月

④ 乍恐以書付奉申上候(麻芋類引請方御任ニ付申上書) 御出入紀伊国屋与三兵衛 尾州様御産物御役所(宛) 慶應四年四月

(京坂交易関係文書綴)(国産の芋麻を仲馬で以て京坂に駄送し、京坂より生蠟・砂糖・茶・大和木綿・鉄鉛類を仕入れる。その関係の書状・伺書・送り状・仕切状等の綴り)(明治三、四年) 横切継紙 一綴 う 三六 横切紙 (二二通)

(塩預り手形) 西寺尾村会所守藤左衛門 御産物御役所(宛) 庚午(明治三年)六月三日 縦紙 一通 う 五〇

福尾市兵衛申立仕候一条再御尋ニ付申上書案(天津駅福尾市兵衛申立の大坂表松代産物蔵屋敷の件について) 横切継紙 二通 う 三六 横切紙 折紙

麻・木綿売買

麻 売 買

(八田)辰三郎用伏(市金子不足につき時借を申し込む。No.五七二、No.六一四綴りのうち) (八田)嘉助様 (天保)二月一三日 横切継紙 一通 う 五三

八田嘉助返書(麻内金として五十両差し出すことを承知。No.五八三の返書。No.五七二、No.六一四綴りのうち) (八田)辰三郎様 (天保)二月朔日 横切紙 一通 う 五八

※糸麻類江府申立之儀御尋ニ付評議申上書控(為登糸麻類売買について) 産物会所懸り 三月 横切継紙 一通 う 五九

木綿売買

松本町葉鐘屋市野右衛門江木綿差遣候儀ニ付申上書案(市野右衛門は先に木綿改所より木綿を買ったので、産物会所懸が藩に伺う。No.五七二、No.六一四綴りのうち) 産物会所懸り (天保) 横切紙 一通 う 六四

乍恐以書付奉願上候(木綿布売引請願書)

半 仮一冊 う 三六

三輪村宇兵衛 万延元年九月
(御領産木綿其外共越後商家江売捌之儀ニ付申渡書案) 産物会所 若宮村久兵衛、羽尾村仙石組菊次郎(宛)

堅紙 一通 う 五六

明礬江戸送

明礬荷物宿之御触流願書控 (明礬荷江戸駄送の便宜のため道中奉行に板橋宿より信州矢代宿まで触流しをしてもらうよう取次を願う) 信州水内郡小市村要右衛門 御取次御頭殿御役所、御勘定御吟味御役所(宛) 天保一四年八月

半 一冊 う 三六

蚕種・生糸改并外国交易

乍恐以書付奉申上候(神奈川港出店貿易名儀ニ付申上書) 相州津久井県佐野川村名主才兵衛弟彦二郎 御産物懸り御役人中様 万延元年四月

大罫紙 一通 う 六

乍恐以書付奉願上候(生糸買継問屋仕度願書) 矢代村願人新左衛門、同村差添柳町源之助 郡御奉行所・御産物方御奉行所(宛) 慶応三年六月

美 仮一冊 う 三三

江戸懸る来状(生糸等の産物の横浜への移出に關し、江戸懸りより産物掛のもとに來た書狀) 卯 横切綴紙 (一綴) う 六 (三通)

(生糸・蚕種紙改之儀ニ付達書写) (国遣・外国行の差別なく改算加永を徴収するよう申達す) 卯(慶応三年)二月二十九日

半 仮一冊 う 三七

村触写(蚕種紙・生糸冥加永半減令。総督府よりの命により触れる。No.三三七と関連) 御料尾州御取締中野御役所 (慶応四年)

半 仮一冊 う 三六

(生糸・蚕種紙改算加永取立之儀ニ付申上書案) (冥加永の額、および印税を残らず会計局に取り立てることに異論を唱える) (産物方) (大総督府会計局宛) (慶応四年)

半 仮一冊 う 三九

(維新时期生糸・蚕種紙改算関係文書)

一綴 う 四〇 (二五通)

① (生糸・蚕種改算加金之儀ニ付伺書控) (会計局に伺ったが聞き入れられなかったため、御領法だけの取扱にて聞き届けられるよう伺う。No.三三九、No.三四〇一七と関連) 産物方 (松代藩宛) (慶応四年)七月

横切綴紙 一通

② (丑年并寅年之生糸・蚕種紙改算加金取立割合覚書) (慶応元年と二年の分)

横切綴紙 一通

③ (生糸改方之儀ニ付届書控) (預所并領分より差出の生糸の取扱方が区々で外国売込に差し支えるので、改印の仕方を変更したい旨届ける) 御名家来宮原柔兵衛(産物会所掛) 五月

横切綴紙 一通

④ 生糸冥加上納御見合(会計局と松代藩への上納割合) (慶応四年)

切紙 一通

⑤ (御趣意ニ背商売仕候段赦免歎願書)

小切紙 一通

⑥ 口上覚(上田御領塚田長右衛門他二名鑑札返納願書) 荒神町西沢平左衛門 御産物方御役所宛 辰(慶応四年)七月三日

横切綴紙 一通

⑦ (生糸・蚕種紙改仕法替ニ付申上書案) (御一新により江戸呉服種牧野駿河守屋敷に新設の役所で改めることになったこと、および印税の額に不服申し立て。No.三三九と同種) 宮原(柔兵衛) (大総督府会計局裁判所宛) (慶応四年)

横切綴紙 一通

検断・調停

不実商い吟味〔無鑑札商売に関するものは『産業統制』
「鑑札」の項に入れる〕

御尋ニ付以書取奉申上候（城下町亀屋半兵衛が市
場世話役に無届けにて市合に糸を買い入れた件につ
いての尋問に対する申上書） 紺屋町善兵衛 御産
物方御会所（宛） 天保一三年九月 半 仮一冊 う 三三

以書付御請申上候（糸売買人諏訪町亀屋半兵衛
居買之儀ニ付託状） 紺屋町善兵衛 御産物御掛
り御奉行所・御産物御会所（宛） 天保一三年九月 豎紙 一通 う 三二

乍恐以書付御日延奉申上候（嘉吉尋問召出日延
願書）（十人町上西組の嘉吉が産物会所より御尋ね
のため出頭を命じられたが、町方役所より出頭を命
じられている弟を探しに出掛けているため、帰宅す
るまで日延を願出る） 十人町上西組肝煎忠太、親
類 御産物方御役所（宛） 安政六年九月 豎紙 一通 う 五七

乍恐以書付奉申上候（絹細市にやって来た上田商
人に居売した者がいた件について会所より尋問され
たので、仲間中穿鑿結果を上申） 絹細仲實行司宇
兵衛・新左衛門・梅七 御産物御会所（宛） 万延
元年九月 美 仮一冊 う 二六
（絹細買次紺屋町藤兵衛不埒一条御尋ニ付申
上書案） 豎切紙 一通 う 四三

商い出入調停

差出申済口証文（紺屋町炭屋彦兵衛江相抱り候
布一件内済証文） 石川村願人利兵衛、親類良左
衛門、組合惣兵衛 御産物方御会所（宛） 天保一
四年九月 豎紙 一通 う 五七

口上覚（下布施村芳兵衛・鍛冶町義兵衛出入一
件御尋ニ付口上書）（両者は木綿の取引関係にあつ
た。芳兵衛の雑言を文覚寺倅が義兵衛に伝えたこと
から訴訟沙汰になった） 下布施村文覚寺 御産物
方御会所（宛） 弘化二年八月 豎紙 一通 う 五三

乍恐以書付奉申上候（下布施村葭兵衛と鍛冶町
義兵衛木綿一件混雑内済届書） 鍛冶町義兵衛、
下布施村葭兵衛・正右衛門、荒神町立入人二名、下
布施村名主・長百姓、文覚寺 御産物方御会所（宛）
弘化三年八月 豎紙 一通 う 三四

御尋ニ付乍恐以書付奉申上候（高場弥兵衛長屋
鍛二と杏干仁商売出入一件ニ付返答書） 牧野
嶋村大吉、外田町多野右衛門 御産物方御会所（宛）
弘化三年七月 美 仮一冊 う 五五

（布施高田村嶋五郎と小森村新助・喜助杏干
仁売買出入一件文書綴） 安政六年 一綴 う 九三

① 乍恐以書付奉願候（布施高田村嶋五郎不実
商御紀方願書）（嶋五郎より杏干仁を買い取る
約定をしたが、品物を渡さないで訴える）
小森村新助・喜助 御産物方御会所（宛） 安政六年一〇月 美 仮一冊

② 乍恐以書付奉願上候（布施高田村嶋五郎と
杏仁売買出入一件御尋ニ付返答書）（嶋五
郎女房ひめが郡奉行所へ欠訴したので、新助
と喜助が尋問され、返答） 小森村新助・喜
助 郡御奉行所（宛） 安政六年一一月 美 仮一冊

③ 乍恐御こたへ奉申上候 布施高田村嶋五郎
御産物方御会所（宛） 安政六年一一月 美 仮一冊

④ 乍恐以書付奉申上候 小森村新助・喜助
御産物方御会所（宛） 安政六年一二月 豎紙 一通

⑤ 杏干仁中買布施高田村嶋五郎儀同書 産
物会所懸（安政六年一〇月） 美 仮一冊

⑥	布施高田村嶋五郎并小森村新助等江申御尋ニ付申上書 産物会所懸 (安政六年) 一二	半	仮一冊	う二〇
⑦	乍恐以書付御受奉申上候(嶋五郎女房ひめ郷宿預ケ請書) 布施高田村ひめ親類組合兼吉兵衛、名主亀吉、組頭熊藏、長百姓慶作、紺屋町郷宿吉郎右衛門 郡御奉行所(宛) 安政六年 二月五日	美	仮一冊	う二〇
⑧	乍恐以書付御請奉申上候(嶋五郎郷宿預ケ請書) 布施高田村親類組合兼吉兵衛、名主亀吉、組頭熊藏、長百姓慶作、役人代多助、紺屋町郷宿吉郎右衛門 郡御奉行所(宛) 安政六年 二月	美	仮一冊	う二〇
⑨	乍恐以書付済口御絶り奉願候(杏千仁売買出入内済ニ付嶋五郎吟味流願書) 小森村新助・喜助、名主・組頭各一名、長百姓二名、布施高田村嶋五郎、同人女房ひめ、名主・組頭・長百姓・役人代各一名、小嶋田村上組親類立人二名(嶋五郎と女房は爪印) 郡御奉行所(宛) 安政六年 二月	美	仮一冊	う二〇
⑩	乍恐以書付欠訴奉歎願候(布施高田村嶋五郎女房ひめ欠訴歎願書) 布施高田村嶋五郎煩ニ付代同人女房ひめ 郡御奉行所(宛) 安政六年 二月	美	仮一冊	う二〇
	乍恐以書付奉申上候(布施高田村嶋五郎と杏仁売買出入談懸合仕度願書) (No.九二〇) No.九三七袋入。No.九〇三と関連 小森村新助・喜助 御産物御会所(宛) 安政六年 二月	美	仮一冊	う二〇
	乍恐以口上書奉願候(南原村勇五郎杏仁不実商ニ付訴願状) (手合金を渡して売買の約束をしたにもかかわらず品物を渡さないので訴える。No.九二〇) No.九三七袋入 上田願稲山宿願人佐平次 松代御産物御会所(宛) 安政六年九月二日	美	仮一冊	う二〇
	乍恐以書付済口奉申上候(勘右衛門子乙吉と慶作母とみ杏千仁売買出入済口届書) (安政六年 一二月に町奉行の理解により内済したことを産物会所へ届ける。No.九二〇) No.九三七袋入 岩野村慶作母とみ、名主太兵衛、組頭佐作、長百姓平治 御産物方御会所(宛) 万延元年四月	美	仮一冊	う二〇
	乍恐以書付御内々奉歎願候(牛島村八百蔵繭不実商ニ付訴願状) (手合金を渡して売買の約束をしたにもかかわらず品物を渡さないので訴える。No.九二〇) No.九三七袋入 馬喰町和助、紺屋町和助 御産物方御会所(宛) 万延元年七月	美	仮一冊	う二〇
	以書付済口奉願上候(蚕買取出入内済証文) 紙屋町願人庄助、馬喰町同和助、牛嶋村相手八百蔵、鍛冶町立人志津祖兵衛 御産物方御会所(宛) 万延元年八月二八日	豎紙	一通	う四八五
	乍恐以書付奉願上候(水飽村惣左衛門より実綿を買付け、代金を払ったにもかかわらず荷物を送って来ないので、訴える) 御安口明屋敷願人栄作 御産物方御役所(宛) 万延元年 二月	美	仮一冊	う二六
	乍恐以書付御絶り奉願上候(鑑札を頂戴し蚕種地売商をしているにもかかわらず、神明講に出会しなかったことの誤り証文。毎年正月に仲間取締のために神明講が開催されていた) 八町村源三郎、小河原村栄三郎 御産物方御会所(宛) 万延二年正月	美	一通	う二〇
	乍恐書付を以奉申上候(下宇木村蚕種師孫左衛門・長兵衛御尋ニ付返答書) (No.二七二、二七三と関連) 下宇木村孫左衛門・長兵衛、名主・組頭・長百姓各一名 御産物方御会所(宛) 万延二年 二月	美	仮一冊	う二七
	乍恐書付を以奉申上候(矢代会不寄合御尋ニ付返答書) 下宇木村孫左衛門・長兵衛 御産物方御会所(宛) 万延二年 二月	美	仮一冊	う二二

乍恐以書付御答奉申上候（下宇木村孫左衛門・長兵衛・蚕種師仲間会合不寄合一件御尋ニ付返答書） 蚕種師惣代荒神町西沢平左衛門、同町三郎右衛門 （産物会所宛） 万延二年二月	美	仮一冊	う 二三
乍恐以書付洛口奉願候（木綿代金払方出入洛口願書） 上小嶋田村藤作、荒神町松三郎 御産物方御会所（宛）	豎紙	一通	う 四九
（才薪無極印出入一件書留）（中野支配北山村々と善光寺町買取との出入。内済となる）	半	仮一冊	う 五六
入 用			
諸 入 用			
（紬石・槌代金覚書）（No.五五七、五五八と関連） 信州稲荷山八日町柏屋茂助 内河村飯嶋柳八様（天保五年）八月四日	横切紙	一通	う 五九
（代金覚書）（No.五七二、No.六一四綴りのうち） 江戸金作 御産物会所御役人中 午（天保五年）一二月	横切紙	一通	う 五〇
（小諸江罷越候泊り小遣覚書）（No.六一八、No.六四二綴りのうち） かみや十五郎 御会所（産物会所宛） 午（天保五年）一二月	小切紙	一通	う 六三
（給金請取手形）（No.五七二、No.六一四綴りのうち） 治左衛門 御会所様 天保五年四月二日	小切紙	一通	う 六三
（御扶持金請取手形）（No.五七二、No.六一四綴りのうち） 治左衛門 御会所御役人中様 天保五年五月一〇日	小切紙	一通	う 六三
（御扶持御給金請取手形）（No.五七二、No.六一四綴りのうち） 治左衛門 御会所様 天保五年七月一三日	小切紙	一通	う 六四
（御扶持金請取手形）（No.五七二、No.六一四綴りのうち） 治左衛門 御産物方御役人中様 天保五年一〇月二〇日	小切紙	一通	う 六五
（給金請取手形）（No.五七二、No.六一四綴りのうち） 治左衛門 御産物方御会所（宛） 未（天保六年）二月二日	小切紙	一通	う 六六
（給金請取手形）（No.五七二、No.六一四綴りのうち） 治左衛門 （産物会所宛） 午（天保六年）三月六日	小切紙	一通	う 六二
乍恐以書付奉願（白紬打直賃并打石槌代金下ケ渡願書） 内川村柳八 御産物御会所旦那様 天保六年正月	豎紙	一通	う 五七
（白紬打直賃并打石槌代金受取手形） 内川村柳八 未（天保六年）二月二六日	横切紙	一通	う 五八
（小文筆代金覚書）（No.五七二、No.六一四綴りのうち） 中町島屋忠三郎 産物御会所御取次中様 未（天保六年）三月二日	横切紙	一通	う 五九
（縮緬染代金請取手形）（No.五七二、No.六一四綴りのうち） 菊屋孫兵衛 御産物方御会所（宛） 未（天保六年）三月一四日	横切紙	一通	う 五三
（沼田屋染代金差引覚書）（No.五七二、No.六一四綴りのうち） （天保）	折紙	一通	う 五四
（酒代金覚書）（No.五七二、No.六一四綴りのうち） 菊屋伝兵衛 御役所（産物会所宛） 未（天保六年）二月二七日	横切紙	一通	う 六〇
（金子借用証文）（出府入用金不足分の拝借） 立田楽水 八田嘉助殿 天保一五年四月二二日	横切紙（切貼封）	一通	う 二三
立田楽水書状（旅中入用金拝借の件につき） 八田嘉助様（弘化・嘉永）九月二六日	横切紙（封紙入）	一通	う 二三

寛(金子受取証文)〔紀州藩役人鈴木甚助と会所役人
人参会の節の入用金〕 信州松代増田儀兵衛代弥吉
御産物方御会所(宛) 嘉永三年二月

(八田)喜兵衛書状(喜兵衛と春日が紀州藩役人に面会に行った際の入用と会所家賃を冥加金のうちより支払ってくれるよう申し込む)(八田)嘉助様(嘉永力)

(八田)喜兵衛書状「冥加金のうちにて諸人用差引をする事の可否に關し、産物会所掛り役人春日儀左衛門の意見を伝える」(八田)嘉助様(嘉永力)四月一〇日

〔産物会所諸入用関係文書綴〕〔家賃・諸代金受取手形〕 安政四年

※産物方之書類(天秤振諸商売仲間取締についての同書案、産物方品々冥加金上納調についての問合状、会所宛鑑札真木代金受取手形、杏仁代金賞書等々)

（大割真木代金請取手形）〔No.六一八〕No.六四二（綴りのうち）西條村清左衛門 木町御会所（宛）
嘉永二年七月朔日

（賄料請取手形） 矢代宿柿崎繁之介 御産物御
役所（宛） 明治三年正月

(船運賃受取手形綴) 明治三年

①(御用米運賃受取手形)〔大瀧村より西寺尾
河岸迄。No.三一二まで同〕 西大瀧村太
平治、船方与助 松代様御産物御役所(宛)
明治三年四月一八日

②(御用米運賃受取手形) 西大瀧村太平治、
船方三代松 松代様御産物御役所(宛) 明治
三年四月二三日

③(献上酒運賃受取手形) 西大瀧村太平治、
船方三三(代力)松 松代様御産物御役所(宛)
明治三年四月二三日 竪紙

④（御用米運賃受取手形） 船方音七 松代
様御産物御役所（宛） 明治三年五月朔日 竪紙

⑤(御用米運賃受取手形) 西大瀧村半右衛門
松代様御産物御役所(宛) 明治三年五月 竪紙
二日

⑥(御用米運賃受取手形) 西大瀧村船方善
之丞 松代様御産物御役所(宛) 明治三年五
月二日 竪紙

⑦(御用米運賃受取手形) 西寺尾村通船会
所守藤右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年 堅紙
五月四日

⑧(御用米運賃受取手形) 西寺尾村通船会
所守藤右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年 竪紙
五月一四日

⑨(御用米運賃受取手形) 西寺尾村藤右衛門
御産物御役所(宛) 明治三年六月二日
竪紙

⑩(献上酒運賃受取手形) 西寺尾村藤右衛門
御産物御役所(宛) 明治三年六月二日
竪紙

⑪(御用米運賃受取手形) 西寺尾村会所守藤
右衛門 松代様御産物役所(宛) 明治三年六
月八日 竪紙

⑫(御用米運賃受取手形) 西寺尾村会所守藤
右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年六月九 豎紙
日

⑬(御用米運賃受取手形)〔上境村より西寺尾村迄〕西寺尾村会所守藤右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年六月一三日 竪紙

14	(塩運賃受取手形) (大瀧村より西寺尾村河岸迄。No.三三二―一八まで同) 大瀧村船方千代松 御産物御役所(宛) 明治三年六月一四日	堅紙	一通
15	(御用米運賃受取手形) 西寺尾村藤右衛門御産物御役所(宛) 明治三年六月一九日	堅紙	一通
16	(塩運賃受取手形) 西寺尾村会所守藤右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年六月一八日	堅紙	一通
17	(御用米運賃受取手形) 西寺尾村藤右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年六月二〇日	堅紙	一通
18	(塩運賃受取手形) 西寺尾村藤右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年六月二〇日	堅紙	一通
19	(粉子運賃受取手形) (何処から何処へ送ったかは記載なし。No.三三二―一〇も同) 船方重三郎 御産物御役所(宛) 午(明治三年)六月二五日	堅紙	一通
20	(運賃受取手形) (品物名不明) 舟頭吉・巳之松・只右衛門 御会所様 午(明治三年)六月一九日	堅紙	一通
21	(玄米運賃受取手形) (上堺村、飯山表より西寺尾村迄) 舟頭権左衛門、西寺尾村藤右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年九月	堅紙	一通
22	(玄米運賃受取手形) (飯山表より西寺尾村迄) 西寺尾村藤右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年九月朔日	堅紙	一通
23	(御用米運賃受取手形) (上堺村、飯山より西寺尾村迄) 西寺尾村会所守藤右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年九月一六日	堅紙	一通
24	(玄米運賃覚書) (明治三年)	横切紙	一通
25	(玄米運賃受取手形) (上境河岸より西寺尾河岸迄) 西寺尾村藤右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年八月一九日	堅紙	一通
26	(御用米受取手形) (飯山より西寺尾河岸迄) 西寺尾村藤右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年八月二四日	堅紙	一通
27	(御用米運賃受取手形) (桑石川より西寺尾河岸迄) 西大瀧村船方佐右衛門・唯右衛門 松代様御産物御役所(宛) 明治三年七月二九日	堅紙	一通
	(高崎布袋屋5御内用荷物持参賃銭請取手形) 御瓦師組池田春蔵・児沢藤蔵 梯崎喜作様御内(宛) 午(明治三年)五月四日	堅切紙	一通 う三三
	(硝運賃受取手形) 船頭円蔵、西寺尾村藤右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年九月	堅紙	一通 う三四
	(御用米運賃受取手形) (上境村より西寺尾村河岸迄) 西寺尾村藤右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年一〇月七日	堅紙	一通 う三五
	(玄米運賃請取手形) (上境より西寺尾迄) 舟頭源之助、西寺尾村藤右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年一〇月九日	堅紙	一通 う三六
	(御用米運賃受取手形) (上境村より西寺尾村河岸迄) 西寺尾村藤右衛門 御産物御役所(宛) 明治三年一〇月一六日	堅紙	一通 う三七
	(産物会所諸入用関係文書綴) (代金受取手形) 明治二、三年	横切紙	一綴 (八通) う四〇五
	※産物方用書(産物会所諸入用払の受取手形、会所賃下金の受取手形が主) 明治三年	横切紙	一綴 (三二通) う四〇九
	(産物会所諸入用関係文書綴) (代金請求状)	横切紙	一綴 (二一通) う四〇六

(産物方会所差紙) (初代金を渡すので会所への出頭を命ず) 中町寅治他五名(宛) 一二月二三日 (横切継紙 (封紙入) 一通 う 五六

(田野口・赤倉行人用差引勘定書) (預かった金から実際にかかった費用を引き、残りを返上) 平兵衛 良右衛門(宛) 折紙 一通 う 六九

会所普請・作事入用

(産物会所補理普請入料勘定書并諸代金受取手形継立) 天保四年 一四 通 う 三〇

① (会所普請受負金受取手形) 御徳居大工 左衛門 御産物御役所(宛) 已(天保四年)七月 横切継紙 一通

② (藁代金受取手形) 西条村茂左衛門 御会所(宛) 已(天保四年)六月 小切紙 一通

③ (中縄・白木等代金受取手形) 東木町幸之助 御会所(宛) 已(天保四年)六月 横切紙 一通

④ (仕事師賃錢并太石代金受取手形) 仕事師金蔵 御会所様(宛) 已(天保四年)六月 縦紙 一通

⑤ (玄関柱石并石濾代金受取手形) 石工逸作 御会所様 已(天保四年)六月 小切紙 一通

⑥ (石代金受取手形) 東条村畔鋏要助 御会所(宛) 已(天保四年)六月 縦切紙 一通

⑦ (はけ・箱・灰墨代金受取手形) ミノや甚三郎 御会所様 已(天保四年)六月 小切継紙 一通

⑧ (洪代金受取手形) 刺物屋惣三郎 御会所(宛) 已(天保四年)六月 切紙 一通

⑨ (銀代金受取手形) 左官古兵衛 御会所(宛) 已(天保四年)六月 切紙 一通

⑩ (並新床・越中表等代金受取手形) 豊刺友作 御会所(宛) 已(天保四年)六月 横切継紙 一通

⑪ (生諸白酒代金受取手形) いせや寿作 御会所(宛) 已(天保四年)六月 切紙 一通

⑫ (干肴・干いか代金受取手形) 丸屋長兵衛 御会所様 已(天保四年)六月 横切紙 一通

⑬ (初穂料受取手形) 練光寺納所 (天保四年)五月一日 切紙 一通

⑭ (産物会所補理普請入料勘定書) 元方取締懸 八田嘉右衛門・元方八田木兵衛・八田辰三郎・懸松本嘉十郎・山崎久右衛門・立合佐竹周蔵・田中佐右衛門(渡辺与三奥書印形) 天保四年六月 縦継紙 一通

(産物会所補理普請関係文書綴) (三通を綴じた上でさらにNo二三〇を綴じ合わせてあったが本文の部分を綴じてあったので、閲覧の便宜上はずした) (天保四年) 一綴 う 三三

① (土蔵屋ね古板・古打釘払下入札) 木町惣兵衛 (産物会所宛) (天保四年)四月一日 小切紙 一通

② (板屋ね金物払下入札) 大工友左衛門 (産物会所宛) (天保四年)四月 切紙 一通

③ (古板払下入札) 金蔵 御会所(宛) (天保四年)六月 切紙 一通

(産物会所修復入用関係文書綴) (代金受取手形等) 横切紙 一綴 う 四〇

(押入作事入用見積書) (No五七二、No六一四綴りのうち) 寺町大工忠左衛門 産物会所御役所(宛) 午(天保六年九)一一日 折紙 一通 う 五七

（押入作事入用見積書）（No.五七二）No.六一四
綴りのうち） 大工友左衛門 御役所（宛） （天 横切紙 一通 う 五八
保）二月

（代金受取手形）（No.五七二）No.六一四綴りのう
ち） あいつや喜作 御会所御役所（宛） （天保二 横切紙 一通 う 五九
月五日

（金子拝借証文）（土蔵修復并要用の儀につき）
増田徳左衛門、親類定兵衛 御産物方御役所（宛） 縦紙 一通 う 四九

慶応三年十二月

八田喜兵衛・八田慎蔵方産物会所御引払之儀
ニ付伺書并奥書返書写（産物会所の建物元通り
に修復し、入札で以て払下げたい旨伺う） 縦紙 一通 う 四三

勘定

（去戌年中御国産品々請払勘定帳断簡）（絹紬
類）（天保一〇年カ）改 横長美 二葉 う 五五

（産物会所惣御勘定帳差出日延願書）（No.五七
二）No.六一四綴りのうち）（天保二）三月 横切紙 一通 う 五九

（産物会所勘定向仕法替ニ付伺書案）（従来の
産物売買の記帳方式では勘定の際に手間どるので改
める）（産物会所懸り） 横長美 仮一冊 う 四八

諸書類綴（種々の書類の綴り）

※（産物会所文書綴）（善光寺木綿鑑札一条関係文
書 借入金勘定覚書、百姓教諭覚書等々） 横切紙 一綴 う 四七
（二七通）

※（産物会所文書綴）（杏仁売買、絹紬江戸荷出鑑
札冥加上納、会所預かり金、金所貸下ゲ金等々、諸
般にわたる種々の文書の綴）（安政）慶応 横切紙 一綴 う 四二
（二八通）

※元治元丑歳二月中より之来簡（八田慎蔵が諸方
とやりとりした書簡。内容は種々だが、死亡・法事
通知・年始挨拶等、儀礼的なものが主。一部産物会
所に関するものあり） 元治元年二月～慶応元年七
月 横切紙 一綴 う 七
横切紙 折紙 （四五通）

※慶応元丑歳九月方之来簡（八田慎蔵が諸方とや
りとりした書簡。内容は種々で、八田家の用件と産
物会所の用件の双方にわたる） 慶応元年九月～一
二月 横切紙 一綴 う 二
横切紙 折紙 （五三通）

※用書類（産物会所・商法社関係の書類。産物懸上
申書、商法掌伺書、松代藩庁庶務掌通達等々。内容
は蚕種行司願の儀、御金出納取調、産物方雇足輕手
当、千曲川筋通船稼、産物掛手当、柏崎県御払米買
上代金才覚取扱の儀等々） 横切紙 一綴 う 四
横切紙 折紙 （三五通）

用状（用件を特定できるものについては該当項目に
入れている）

清右衛門用状（産物の儀について内談したい旨の
通知。No.四〇八）No.四二七綴りのうち）（八田）慎蔵 横切紙 一通 う 四三
様 七日

（与一右衛門用状）（同役富岡方へ役所より両三
人罷り越したところ、八田嘉右衛門・喜兵衛も誘う
よう頼まれたので、通知す。No.五七二）No.六一四綴
りのうち）（八田）嘉右衛門・喜兵衛様（天保）一
〇月一七日 横切紙 一通 う 五八

その他

（郡御奉行所方中之条御陣屋江御渡之御状箱
預り手形）（状箱を郡奉行所より預り、陣屋まで持
参する事を約す。No.九二〇）No.九三七袋入） 荒神 切紙 一通 う 一三
町三郎右衛門・平左衛門 御産物方御会所（宛）
申（万延元年）閏三月晦日

松代商法社

松代商法社は、明治二年に、巨大な外国資本に伍して交易を進めるために、領内商人資本の結集を図って設立されたものである。商法社取締役には横浜交易で財を成した羽尾村の大谷幸蔵（屋号「大黒屋」）が任命された。その下に商法掌九名、商法方二二名、商法方補二五名によって商法社の役人が構成されていた。伊勢町八田家六代当主慎蔵は明治二年二月一日に「商法掌」に任命されている。ただ、主体は、松代城下の商人よりも在村の横浜交易商人たちであったようである。松代商法社は羽尾村と松代の伊勢町に設置されていたが、後者は規模が小さく、羽尾商社が中心であった。

商法社は領内有力者の資本を結集して横浜交易商人への資金援助を行うことを主目的としていたが、早急に商社基金を準備することは困難であったため、巨額の商法社札を発行した。そして、商法社札を商人たちに貸し下げて領内で生産される蚕種と生糸を買い占めさせ、それを横浜に持参して売り捌き、洋銀・太政官札を獲得せんとした。だが、明治三年、横浜交易の未曾有の大暴落によって商社運営は失敗し、商法社札の信用が失墜して生産者農民を窮地に追い込むことになった。そして、太政官札と商法社札の引換相場が二割五分引と布告されたのが引き金となって、同年十一月末、大規模な商法社反対一揆が起こり、産物会所・商法社は機能を喪失し、翌年四月に廃止されるに至った。

米四郎用状（通商司より生糸・蚕種商売人の名前を尋ねられるかもしれないので、名面書を廻すよう依頼）（西山カ）恒三郎・（八田）慎蔵・（八田）五十

横切綴紙 一通 う 六六二
司様（明治二年カ）五月九日

（亀屋善三郎江生糸引渡通知書） 大黒屋幸蔵・駒吉・永喜屋一郎・和泉屋直治殿 庚午（明治二年）十一月一日 横切綴紙 一通 う 六〇

（横浜売込問屋亀屋善三郎・野沢屋惣兵衛蚕種売込代金并前金借入等差引之儀ニ付申上書） 酒井市治（算計司）（明治三年）十一月二日 横切綴紙 一通 う 六六

商法社御入料銅板并御用紙等大谷幸蔵江御下ケ金之儀申上書（蚕種紙売込代金の内を以て下す） 酒井市治（算計司）（明治三年）十一月 横切綴紙 一通 う 六六五

酒井市治掃落之義申上書（酒井の謹慎解除伺。横浜蚕種・生糸売込代金請払勘定取調を済ませたので、藩邸謹慎を解き、掃落させたい旨伺う） 佐藤美与喜（明治三年）二月二日 横切綴紙 一通 う 六六

酒井市治取扱蚕種紙・生糸売込代金請払取調之儀ニ付申上書 佐藤美与喜（権少参事市政副主事）（明治三年）二月 横切綴紙 一通 う 六六七

※用書類（産物会所・商法社関係之書類。産物懸上申書、商法掌伺書、松代藩庁庶務掌通達等々。内容は蚕種行司願の儀、御金出納取調、産物方雇足輕手当、千曲川筋通船稼、産物掛手当、柏崎県御松米買上代金才覚取扱の儀等々） 明治一、三年 横切綴紙 一綴 う 四

（太政官仰付書写）（藩札引纏の処置を誤り領内に騒擾をひき起こした事を咎め、松代藩知事真田幸民らに謹慎等を仰せ付ける） 辛未（明治四年）四月二日 半 仮一冊 う 三六

（精錡水引札）（目葉の宣伝ビラ。横浜交易の際に入手したらしい） 横浜本町四丁目輪船会館岸吟香（明治初頭） 小切紙 一枚 う 六六

長野県

伊勢町八田家六代目当主慎蔵は明治四年八月に松代県少属補助商法方に任命されている。松代県は明治四年七月一四日に旧松代藩を母体に設立されたもので、同年一月二〇日には他の諸県と合併されて長野県となった。慎蔵は長野県になっても勸業関係の役所に就いていたと思われ、この項目にはそれ故に八田家に伝来したと考えられる文書を三点収めた。

勸業

蚕種・生糸交易

矢代村新村安兵衛江御下ケ金之儀ニ付別紙相添御内々申上書（生糸仕入金の貸下を上申） 出納

横切継紙（巻紙）

一通 う 六三

○

在伊国ミラン府大谷幸蔵書状写（伊国における日本蚕種衰頹の状況を報ず。この書状を河田雄吉が写して児玉親広に差し出す） 武蔵国中瀬村河田十郎三様 明治一五年六月二十四日

半

仮一冊 う 五二

中瀬村河田雄吉書状（No.五〇一の大谷の書状写に添えて差し出し、勸業掛属僚に下問するよう依頼。No.五〇一の書状写しに挟まれていた） 児玉親広様 執事御中（明治）一五年八月一五日

横切野紙

一通 う 五二

松木家

伊勢町八田家五代目当主嘉助の娘である長（天保四年生、明治一七年一〇月三一日没）は松代の松木董正の妻となっている。ここに収めた文書は息子の董宣・董隆が東京の商法講習所、中学校に学んでいた時に両親に宛てて出した書簡を主体とするもので、家族外から来た書簡も一部存するものの、八田家からのものは見当たらない。文書の授受、内容においては八田家とは関係ないが、姻戚関係にあったため、何らかの契機で八田家に伝来することになったのだろう。

内容的には、当時の親子関係を知る上で興味深いものがある。また、東京での政治・社会状況、ことに明治一四年の政変についての情報を父親に報知しているのを目を惹く。

書簡

東京京橋区北横町十八番地松山方松木董隆書状（新年にあたっての近況報告） 松代町松木董正様（本紙「御父上様」） 明治一四年一月八日

横切継紙（封筒）

一通 う 四三

東京木挽町商法講習処松木董宣書状（学資金・為替証書未到着の儀につき） 長野県埴科郡西船山村御漣学校松木董正様 明治一四年二月二十四日

便箋（封筒）

一通 う 四三

京橋区北横町十八番地松山慶次郎方松木董隆書状（尋常中学卒業試験 東京大火、嚶鳴社演説会出席等について報告） 長野県下信州松代町千二百六十一番邸松木董正様（本紙「御父上様」） 明治一四年二月一六日

横切継紙（封筒）

一通 う 六

東京商法講習所内松木董宣書狀（試験結果および病状の報告。試験点数表添付） 長野県下信州松代松木董正様（本紙「父上様」） 明治一四年二月十九日	横切継紙（封筒入）	一通	う	六
京橋区北横町十八番地松山慶次郎方松木董隆書狀（昇級試験結果の通知、書籍代無心） 長野県下信州埴科郡松代町松木董正様（本紙「御父上様」） 明治一四年二月十九日	横切継紙（封筒入）	一通	う	三
京橋区北横町十八番地松山慶次郎方松木董隆書狀（渡辺検事辞職は妄説、その他、世情について報告） 松代町松木董正様 明治一四年二月二〇日	横切継紙（封筒入）	一通	う	四
（東京）（松木）董宣書狀（本月份学資金未到着につき問い合わせる） 御父上様（松木董正） 明治一四年三月二日	横切紙	一通	う	四
京橋区北横町十八番地松山慶次郎方松木董隆書狀（勉学の近況について。東京府第一中学第一級試験表添付） 信州埴科郡松代竹山町松木董正様（本紙「御父上様」） 明治一四年三月九日	横切継紙（封筒入）	一通	う	四
（東京）（松木）董隆書狀（為替切手紛失の件、ロシア皇帝暗殺の件等について報告） 御父上様（松木董正） 明治一四年三月十七日	横切継紙	一通	う	三
東京（松木）董隆書狀（書面并給・手拭受取通知、近況報告） 松代御母上様（松木長） 明治一四年三月十八日	横切継紙（封筒入）	一通	う	四
（東京）（松木董隆）書狀（兄宛給等受取通知、近況報告。No.四九と対か）（父宛力） 明治一四年三月十八日	横切継紙	一通	う	三
東京京橋区商法講習所松木董宣書狀（諸色高直にて困却につき金を無心す。諸経費一覽表添） 信州埴科郡西船山村清漣学校松木董正様（本紙「御父上様」）（明治一四年）三月二十四日	堅紙（封筒入）	一通	う	五
（東京）色部書狀（勸業博覧会見学の模様を伝える） 松木大先生 明治一四年三月二十五日	横切継紙（封筒入）	一通	う	三
東京木挽町拾丁目商法講習所内松木董宣書狀（学資金為替証書受取通知） 松代竹山町松木董正様（本紙「御父上様」） 明治一四年三月二十八日	横切継紙（封筒入）	一通	う	四
東京木挽町拾丁目商法講習所内松木董宣・董隆書狀（近況報告） 松代松木董正様（本紙「御父上様」） 明治一四年三月三〇日	横切継紙（封筒入）	二通	う	四
（松木）董宣書狀（為替金拝戴、および商法講習所寄宿舎を引き払い北横町の董隆下宿へ寄宿したことを伝える） 御父上様（松木董正） 明治一四年四月一四日	横切継紙	一通	う	三
（東京）（松木）董宣・董隆書狀（拾二枚受取通知） 御母上様（松木長） 明治一四年四月一九日	横切継紙（封筒入）	一通	う	四
京橋区北横町十八番地松山慶次郎方松木董隆書狀（書物代仕送受取、および榎本海軍卿辞職、農商務商新設等について報告） 長野県下信州埴科郡松代竹山町松木董正様（「御父上様」） 明治一四年四月二〇日	横切継紙（封筒入）	一通	う	四
（新聞代金督促状）東京横浜毎日新聞社 信州松代町千二百六十一番地松木董正様 明治一四年四月二一日	葉書	一通	う	四
東京京橋北横町松山方松木董宣書狀（為替証書受取通知） 長野県下信州松代松木董正様 明治一四年四月二七日	葉書	一通	う	三
松木董宣・董隆書狀（勤学の近況について） 御父上様（松木董正） 明治一四年四月三〇日	横切継紙（封筒入）	一通	う	元
（松木）董宣書狀（自分の病氣、東京での博覧会開催、昨今の不景気の世相などについて報告） 御父上様（松木董正） 明治一四年五月九日	横切継紙	一通	う	四

京橋区北横町十八番地松山方松木董隆書状
〔兄上の病氣の様子、小学学科綱領制定の件等について。内容からみて父の董正は小学校教師をしていたいらしい〕 松代竹山町松木董正様〔本紙「御父上様」〕 (明治一四年)五月一四日
横切繼紙 一通 う 三
〔封筒入〕

東京(松木)董隆書状〔袴仕送り依頼、兄の病状報告等〕 松代御母上様〔松木長〕 (明治一四年)五月二二日
横切繼紙 一通 う 七

京橋区北横町十八番地松山慶次郎方松木董隆書状〔学業近況、兄の病氣、司法省の人事等について報告〕 長野県下信州埴科郡松代町千二百六十一番地松木董正様〔本紙「御父上様」〕 明治一四年五月二二日、二九日
横切繼紙 二通 う 六
〔封筒入〕

京橋区北横町十八番地松山慶次郎方松木董宜書状〔父上上京の件、董宜病氣の儀につき〕 松代町松木董正様〔本紙「御父上様」〕 明治一四年五月二六日
横切紙 二通 う 三
〔封筒入〕

(新聞代金督促状) 東京横浜毎日新聞 信州松代町千二百六十一番地松木董正様 明治一四年五月二五日
葉書 一通 う 六

(新聞代金督促状) 東京横浜毎日新聞社 信州松代町千二百六十一番地松木董正様 明治一四年六月一日
葉書 一通 う 六

東京(松木)董隆書状〔勉学近況および兄の病状について報告〕 御母上様〔松木長〕 (明治一四年)六月一三日
横切繼紙 一通 う 三

(松木)董宜書状〔病氣快癒し出校しはじめたことを報告〕 御父上様〔松木董正〕 (明治一四年)六月一三日
縦紙 一通 う 三

(松木)董宜書状〔病状報告〕 御母上様〔松木長〕 (明治一四年)六月一三日
横切繼紙 一通 う 三

東京京橋区北横町十八番地松山慶次郎方松木董隆書状〔予備門第三級入学試験日割通知。母宛書状同封〕 長野県下信州松代町千二百六十一番地松木董正様〔本紙「御父上様」〕 明治一四年六月一七日
横切繼紙 二通 う 六
〔封筒入〕

小諸松木董正書状〔小諸着の通知〕 長野県管下松代町千二百六十一番地松木長殿〔董正妻〕 (明治一四年)六月二〇日
葉書 一通 う 六

東京京橋区北横町十八番地松木董隆書状〔某着京通知〕 長野県下信州松代竹山町松木董正様 明治一四年六月二二日
葉書 一通 う 七

(新聞代金督促状) 東京横浜毎日新聞社 信州松代町千二百六十一番地松木董正様 明治一四年六月二八日
葉書 一通 う 六

京橋区北横町十八番地松山慶次郎方松木董隆書状〔寝衣仕送り依頼〕 長野県下信州松代竹山町御母上様〔封筒は「松木董正様」〕 (明治一四年)六月二九日
横切繼紙 二通 う 七
〔封筒入〕

東京京橋区北横町十八番地松山慶次郎方止宿松木董正書状〔着京通知〕 信州松代町千二百六拾番地松木長殿〔本紙「お蝶どの」〕 明治一四年七月二日
横切繼紙 一通 う 六
〔封筒入〕

東京京橋区北横町十八番地松山慶次郎方松木董正書状〔高藤より引受の佐久間先生掛ものを八日出立の泰作に遣わすよう依頼〕 長野県下松代町千二百六十一番地松木長殿〔本紙「お長どの」、長は董正の妻〕 (明治一四年)七月四日
横切紙 一通 う 六

(松木)董隆書状〔御父上が学校にお出かけになるならば、早々人を遣わされるよう依頼〕 御母上様〔松木長〕・御兄上様〔松木董宜〕 (明治一四年)七月二六日
横切紙 一通 う 三

（東京）（松木）董隆書状（安川様御書面敬承。小野梓が一等検査官に進んだことも記す）御父上様（松木董正）（明治一四年）八月六日 横切継紙（貼封）	一通う 三
（東京）（松木）董隆書状（暑中見舞い）松代御母上様（松木長）（明治一四年）八月六日 横切継紙（貼封）	一通う 三
（松木）董宣書状（三日に着京し、直ちに講習所へ出校の旨を伝う。又商法講習所卒業生は商業社会で格別の功を立てていないとの批難の音が府会で高まっていることを記す）御父上様（松木董正）（明治一四年）九月一〇日 横切継紙	一通う 三
（東京）（松木）董宣書状（着京し学校へ出ている旨を報告）御母上様（松木長）（明治一四年）九月一〇日 横切継紙	一通う 五
（東京）（松木）董隆書状（兄上着京および自分の近況報告。宿料値上げにて難渋を訴える）御母上様（松木長）（明治一四年）九月一〇日 横切継紙（貼封）	一通う 五
（東京）（松木）董宣書状（道中費用がかさみ返金できなくなったことを通知）御母上様（松木長）（明治一四年）九月一五日 横切継紙	一通う 六
（東京）（松木）董宣・董隆書状（泰作帰郷にあたり送った品々を通知）御母上様（松木長）（明治一四年）九月二一日 横切継紙	一通う 七
（東京）（松木）董隆書状（上京の泰作より衣類を受け取ったこと、泰作帰郷にあたり送った品々を通知）松代御母上様（松木長）（明治一四年）九月二五日 横切継紙（貼封）	一通う 八
京橋北横町一八番地松木董隆書状（商法講習所）月末試験が無事済んだこと、および東京での政変の状況について伝う）松代竹山町松木董正様（本紙「御父上様」）（明治一四年一〇月二八日） 横切継紙（封筒入）	一通う 五

京橋区北横町拾八番地松山方松木董隆書状（文部省より中学教則綱領を達せられ、変則科廃止になったことを報告。「中学変則科被相廃候際第一級後期修業致居候段」の証明書添付）長野県下信州埴科郡松代竹山町松木董正様（本紙「御父上様」）（明治一四年一二月一四日） 横切継紙（封筒入）	一通う 九
京橋区北横町十八番地松山久米吉方松木董宣・董隆書状（送金願い、董隆徴兵一条等）入用計算書、董隆之母宛書状各一通同封）松代竹山町松木董正様（明治一四年一二月一九日） 横切継紙（封筒入）	一通う 六
（試験問題）（コロンブスのアメリカ大陸発見について）（松木）董宣誌（明治一四年） 半	一綴う 五
試験問題（新聞抄訳、経済書中ヨリ抄訳、物産書中ヨリ抄訳）（松木）董宣稿（明治一四年） 半	一綴う 四
（試験答案）（道鏡論）（中学）変則第二級生松木董隆稿（明治一四年） 縦紙	一点う 六
（試験答案）（武王論）（中学）変則第一級生徒甲部松木董隆稿（明治一四年） 縦紙	一点う 七
（松木）董隆書（新年祝詞）御父上様（明治一五年）一月三日 横切継紙	一通う 六
京橋北横町十八番地松山方松木董宣書状（董正が東京に着き、外務省へ出勤した旨を伝える）松代町千二百六十番地松木董隆様（本紙「御母上様、董隆様」（董宣より）、「於長殿、董隆殿」（董正より））（明治一五年一二月一〇日） 横切継紙（封筒入）	二通う 九
東京京橋北横町十八番地松山方松木董正書状（依頼の品々を以て早速出京するよう申し送る）長野県下信濃国松代町千二百六十番地松木長殿（本紙「於長殿 董隆殿」）（明治一五年一二月五日） 横切継紙（封筒入）	一通う 八

東京北横町松木董隆書狀（投書が新聞に載ったこと、書物購求のこと、内閣諸省事変革の件などについて伝う。書籍代金受取書三通同封） 松代竹山町松木董正様（本紙「御父上様」） 明治一五年一月二十五日	横切紙紙 （封筒入）	一通う 七
（松木）董正書狀（金拾円東京為換依頼） 代官町様（明治）四月二十四日	横切紙紙 （貼封）	一通う 三
（松木）董隆書狀（書物代仕送り依頼、および商法講習所廃止の件について通知） 御父上様（松木董正）（明治）八月三日	横切紙紙	一通う 三
松木董隆書狀（送られた両幅并に書面を北澤先生に賞覧してもらった旨を伝う。また、名譽回復訴訟一件も談判整った旨再伸す） 松代町一二六番地松木董正様（本紙「御父上様」）（明治）八月一日	横切紙紙 （封筒入）	一通う 三
（松木）董隆書狀（商法講習所名譽回復一件について） 御兄上様（松木董宣）（明治）八月十七日	横切紙紙	一通う 四
（東京）（松木）董隆書狀（「商法講習所」の授業科目について） 御父上様（松木董正）（明治）九月一日	横切紙紙 （貼封）	一通う 五
上田町伊藤内喜助書狀（法事の節の供物の礼） 松代竹山町御奥様（明治）四月二十二日	横切紙紙 （貼封入）	一通う 六
神田区駿河台北甲賀町五番地山寺信炳書狀（病氣見舞い） 松代竹山町松木董正様（本紙「簗山先生」） 明治一五年九月一日	横切紙紙 （封筒入）	一通う 六
東京神田北甲賀町五番地山寺信炳書狀（西京における佐久間象山先生墓石建立の件につき）八漢詩稿および七卿名寛書等三通添） 松代町松木董正様（明治）六月十四日	縦紙 （封筒入）	四通う 四
松代岡野三元賢書狀（峰三郎松本より帰る由につき明後日取極したい旨申し上げる） 埴科郡粟佐村堀内錫作殿方松木董正様（明治）二月十六日	横切紙紙 （封筒入）	一通う 三

（岡野）元賢書狀（貯横切替前証書返上の件につき） 横切紙紙
（松木）董正様（明治）二月七日
（封筒入） 一通う 七

史料館所蔵史料目録 第五十集

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その三）

平成二年三月三十一日 印刷発行

編集兼 国文学研究資料館

発行者 史料館

〒142 東京都品川区豊町二丁目十六番十号

電話 〇三―七八五―七二三―（代）

印刷所 睦美マイクロ株式会社

〒135 東京都江東区木場六丁目十二番五号

（本文用紙は中性紙を使用）

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その三） 解題

目次

- 一 八田家文書の伝来と目録刊行計画、関連文書
- 二 八田家の来歴と組織
- 三 八田家伝来文書群の構造と目録編成の方針
- 四 整理の方針と本目録所収文書について

△付 図▽

- ・木町八田家系図
- ・伊勢町八田家系図
- ・冊子型史料の形態表記用語改正一覧表
- ・帳簿の工程系統図
- ・松代城下図面

一 八田家文書の伝来と目録刊行計画、関連文書

本目録に収めた文書は、信濃国埴科郡松代伊勢町（現、長野県長野市松代町松代）に宝永六年（一七〇九）に居を構えて以来今日に至って

る八田家（屋号「菊屋」、松代藩御用達商人、松代藩御勝手御用役、給人格、糸会所・産物会所・松代商法社役人）に伝来し、昭和二八年に九代目御当主恭平氏より当館に譲渡されたものである。総点数は数万点にのぼり、一度に目録化することは不可能であるので、逐次分冊で刊行していくことにした。既に『史料館所蔵史料目録』第四十一集、同第四十八集に「八田家文書目録」（その一）、同（その二）を収めて刊行している。今回は（その三）として四、二七〇点余を収めた。まだ未整理のものが大量に残っており、今後とも整理が済み次第、逐次目録を刊行していく予定である。

なお、現地の八田家には「真田家家中系図書」八冊、佐久間象山よりの書状を卷子仕立てにしたもの数巻、八代目当主彦次郎の「日記」数冊が伝存している。当館で受け入れた八田家文書は近世および明治初年のものであり、それ以後昭和に至るまでの文書は長野市立博物館の方に入っている。八田彦次郎の先妻・後妻とともに長野県下高井郡江部の山田莊左衛門の娘であるが、この山田家文書の一部も当館に所蔵されている。また、藩主真田家の文書については、『史料館所蔵史料目録』第二十八集、同三十七集、同四十集、同四十三集、同五十一集に目録が収められている。

八田家は松代藩の御用達商人で、かつ当主自身も藩の種々の役職に就いていた関係で、松代藩の役人との間でやりとりした文書も多く伝来しているが、当該人物の格式、役職を知る上で、史料館叢書として東京大学出版会より刊行した『真田家中明細書』が参考になる。

二 八田家の来歴と組織

八田家の所在地松代は真田領（表高一〇万石）の城下町であり、町人町としては馬喰町・紙屋町・紺屋町の「上三町」、伊勢町・中町・荒神町の「本町三町」、肴町・鍛冶町の「脇二町」が存在し、「町八町」と総称された。このうち伊勢町には枝町として木町と鏡屋町が属していた。本目録所収文書を原蔵していた八田家は伊勢町居住であるが、この家は宝永四年（一七〇七）に木町居住の八田家より分家して創設され、同六年六月に伊勢町に屋敷を構えて営業を開始し、今日に至っている。文書では本家を木町八田、分家を伊勢町八田と称しているので、ここでも

それを用いて区別することにした。

木町八田家の祖、喜兵衛・宗重は「甲州産浪人」にして、近世初頭に松代に移住したと伝えられる。移住後は呉服商いと酒造業を営んで財を成し、松代藩の御用達を勤めて発展を遂げた。しかし、享保期には家運は傾き、享保二〇年（一七三五）に断絶するに至っている。その後、分家の伊勢町八田家二代目当主嘉助が宝暦六年（一七五六）七月に資産を養子嘉右衛門に分与して本家を再興させたが、営業は順調ではなく、経済力も社会的地位も分家の方が凌いだ。

他方、伊勢町八田家の方は、初代孫左衛門以来、松代城下の町年寄（個別の町ごとに置かれた肝煎を統轄する役職で、他地方の大肝煎に相当）を代々勤める一方、松代藩御用達商人として発展を遂げた。そして、歴代の当主は藩より扶持を下されて給人格となり、種々の藩の役職に就いた（後掲の系図参照）。木町八田家と伊勢町八田家の来歴に関しては、『史料館所蔵史料目録』第四十一集の「八田家文書目録（その一）解題」で詳しく述べているので、それを参照いただきたい。

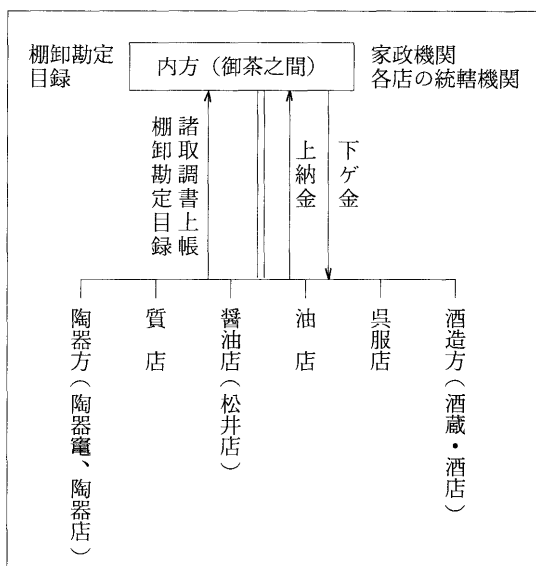
ところで、近世においては「家」が社会の基本単位をなしていたため、商業も原初形態においては、生活共同の組織である「家」において家族労働を中心に若干の奉公人を雇って営まれるのが普通であった。この段階では、家計帳簿と営業帳簿とは分化せずに一体となっているのが一般的である。しかるに、営業規模が拡大していくと、「家」⇨生活組織と「店」⇨営業組織とが分化し、奉公人制度がシステム化されるようになる。それに伴い家計帳簿と営業帳簿も分化するのが常であった。したがって、商家文書の整理にあたっては、組織機構と機能の変遷を押さえたうえで、文書の作成、授受、管理のメカニズムを明らかにすることが求められるよう。

伊勢町八田家も組織の分化がかなり進んでおり、「内方」（「家」）と「店方」とに分化し、後者はさらに営業の種類に応じて専門の店に分かれていている。つまり、諸機能の分化・拡大に伴い独自の組織が設けられていったのである。

時期的変化を捨象して八田家の組織の大枠を示すと、図のようになる。店によってはさらに本店と出店に分化している（各店の概要は目録本文の『店方』の項に付した解説を参照のこと）。

各店には責任者として支配役が配置され、一応独立した経営を行っていたが、最終的には「内方」（「家」）に統轄された。これは、営業が

伊勢町八田家の組織



「家業」として行われていた近代においては一般的な営業システムのあり方であり、近代的企業経営への前段階に位置づけられよう。

内方は各店に資金を援助し、それに対し各店より利益の一部が内方に上納された。この上納金と家賃・小作料収入をもって八田の家計が賄われていた。営業帳簿は各店ごとに作成されたが、一定期間ごとに営業の諸事項についての取調帳と、それにもとづく「棚卸勘定目録」を作成して内方に提出していた。内方では、これを点検したうえで店方と内方とを合わせた「棚卸勘定目録」を作成し、八田家全体の資産の増減を確認した。つまり、営業を統轄することとは、とりもなおさず営業にかかわる記録を管理することにはかならないわけである。

なお、営業帳簿は「八田家文書目録」（その一）と（その二）に収めている。

三 八田家伝来文書群の構造と目録編成の方針

伊勢町八田家に伝来した文書は八田家の家政・家業経営にかかわる文書だけではない。八田家の当主は町年寄や糸会所・産物会所・松代商法社の役人を勤めたほか、種々の松代藩の御用を果たしていたため、その職務遂行の過程で作成あるいは他から受理した文書も大量に八田家に伝来している。また、八田家の組織自体も先述のように諸機能の分化・拡大に伴って専門分化している。つまり、八田家に伝来した文書群は、種々の組織体の活動にかかわる文書、いいかえれば複数の出所（文書の作成・受理母体）をもつ文書の複合体なのである。

したがって、八田家文書目録の編成にあたっては、まず同一の組織体の活動にかかわる文書をまとめた上で、その内部においては同一の用件ないし事項ごとの小文書群に区分して配列する方針をとった。そうすることによって、利用者は、八田家伝来文書群の内的構造、およびそれぞ

れの文書がどの組織体に属する人物によっていかなる目的で作成されたものか、あるいは他から受理されたものであるかを、即自的に把握、確認できると考えたからである。

四 整理の方針と本目録所収文書について

八田家においてどの場所にとどのような容器に入れて文書が管理・保存されていたか、この点も実は商家の経営および藩の御用の遂行と文書管理の関係を考察する上で重要な手がかりとなるのであるが、残念ながら当館受人時にそれが記録されておらず、しかも受人後に粗仕分けが施されているので、今となっては確認できない。

当館においては冊子と綴り、および書付類の一部は収蔵庫の棚に配架され、他の書付類の大部分は木箱と行李に収めて保管されている。ただし、この容器も八田家で用いられていたものかどうか不明である。そこで、整理にあたっては、とりあえず当館での棚の配架順および容器区分に従って整理し、目録上において先の観点で文書群の内的構造を再構成することにした。

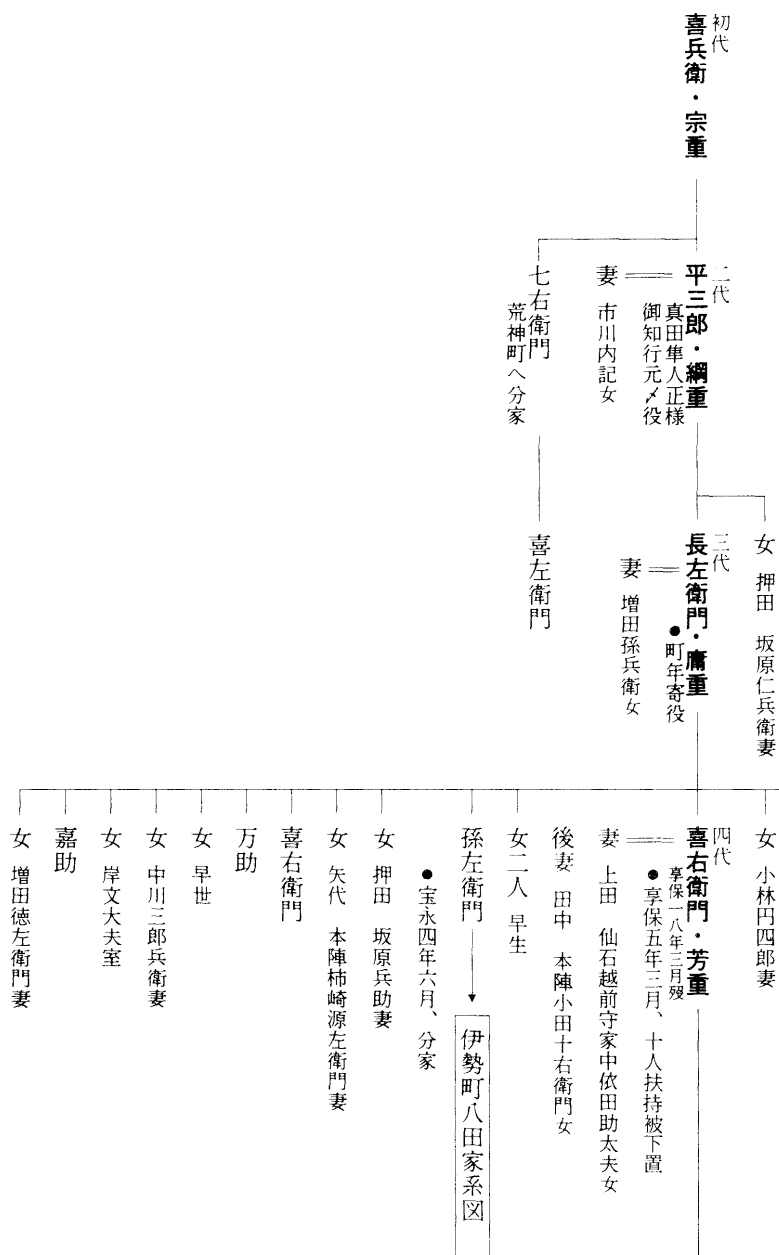
冊子の大半は既刊の「八田家文書目録」（その一）および（その二）に収めているので、本目録所収文書は書付類が大部分を占める。書付は数点あるいは数十点まとめて綴じ合わされているものが少なくない。これは八田家における文書管理のあり方を示すもので、整理にあたってはそれを重視し、一括単位で統一表題を付与して「―内」にどのような文書が綴られているかを注記するか、あるいは枝番号でその中の一点一点のデータを記述した。一括管理の文書の大半は相互に関連する一連の小文書群を構成しているのであるが、なかには異なる組織体の活動あるいは異なる用件にかかわる文書が合綴されたりしている例もある。それらは一定期間に作成ないし受理した文書をまとめて管理したものである。それについては現物そのものは一括形態のまま整理封筒に入れ、目録においてそれぞれの該当項目に配することにした。その場合、何番から何番までの文書が一括されているかを注記している。

本目録所収文書の大半は産物会所文書であり、その中でも商人から会所宛に提出した鑑札下げ渡しの願書と嘉永期・安政期の大坂交易にかか

わる文書がそろっている。会所では鑑札の種類ごとに帳簿に下げ渡した商人の名前を登録し、請印させている。この鑑札渡請印帳は「八田家文書目録」（その一）にまとめて収めているので、本目録所収文書と併せて利用されたい。

なお、本目録では、各大項目ごとにそこに収めている文書の作成・受理母体となっていた組織体について解説文を付し、また中項目についてもそれがどのような用件・事項にかかわる文書であるかを適宜解説した。したがって、本解題では以上の総論的な説明にとどめ、詳細に関しては目録本文の項目ごとの解題に譲ることにする。

木町八田家系図



養女 伊勢町八田孫左衛門女、岡野甚十郎
室（享保十四年）

五代
長左衛門・昭重

享保一九年二月歿

- 享保九年七月、被召出七人扶持被下置、刀御免御物成御用勤被仰付
- 享保十一年十二月、給人格被仰付
- 享保十二年十月、御郡奉行支配二被仰付
- 享保十三年八月、種貸役被仰付
- 享保十八年三月、家督相続、十五人扶持被下置

妻 伊勢町 八田孫左衛門女

惣三郎 後二競ト改ム

- 十人扶持被召出御番入
- 後信安公御近習被仰付
- 名競ト被下置御加恩百石被下置馬場屋敷被下置

室 岡野甚十郎女

女 樋口一角室
女 高田幾田室

競

室 木町 八田嘉右衛女

六代
吉十郎・重薫 押田 坂原兵助次男

- 享保十九年二月、家督相続、十五人扶持被下置
- 享保十九年七月、五人扶持被召上、御目見遠慮被仰付
- 享保二十年五月、小幡長右衛門組江御番入被仰付、後二江戸にて出奔 断絶

七代
嘉右衛門・英重 増田徳左衛門三男

- 宝暦六年、再興

妻 伊勢町 八田嘉助女

八代
喜右衛門・嘉重 伊勢町

八田嘉助四男

女 八田競室
女 大瀬登養女

九代
長左衛門・實親
十代
喜兵衛

○「真田家家中系図書（八田勇氏所蔵）、「八田家系譜調書」（国立史料館所蔵八田家文書№二七一一）、「旧書留帳」（同前№二七三一）により作成。史料的に判明する範囲内で記した。
○……は養子・養女を示す。

伊勢町八田家系図

初代
孫左衛門・重以

延享四年五月二十三日歿
輝光院長嶽榮久居士

●宝永四年六月、木町八田家より分家
●宝永六年六月、町年寄役被仰付
(寛保三年七月)

●享保十二年十二月、三十人扶持下置

テフ 屋代 柿崎市之丞基景女

享保九年八月十日歿
蓮臺院華屋千開大姉

二代
嘉助・芳茲 孫左衛門弟

宝曆六年七月十五日歿(60)
精心院好道祐善居士

●寛保二年七月、町年寄役被仰付
(宝曆六年七月)

●延享四年、家督相統、
三拾人扶持被下置

●寛延二年十二月、二十人扶持
御加増被下置

ヘン 屋代 柿崎源左衛門景忠妹

享保十五年四月二十日歿
妙源院桃雲仙花大姉

マツ(後妻) 樋口弥兵衛兼季女

宝曆元年五月十八日歿
桂心院貞屋恵松法尼

女 木町 八田長左衛門妻
女 押田 坂原兵左衛門妻
女 木町 八田嘉右衛門養女 岡野甚十郎室(享保十四年)

女 増田惣左衛門妻

ツタ 享保二年九月十一日歿
光岩随円童女

エイ 享保十五年五月二十二日歿
嘯月吟草童女

寅松 寛保二年十一月十日歿
玉翁瑞光居士

女 木町 八田嘉右衛門妻

キイ 享和二年六月二十二日歿

新十郎・重則 押田 坂原兵左衛門三男

タカ 宝曆二年八月三日歿
隔山了河童女

孫助 寛延四年三月十三日歿
天真露節居士

三代
孫左衛門・以親 幼名鉄治郎

享和三年正月一日歿(62)
慧光院忠崇泰全居士

●宝曆六年、家督相統、三十人扶持被下置

●宝曆十一年三月、町年寄役被仰付
(寛政四年二月)

●享和二年七月、給人格御勝手
御用役被仰付

チカ 綿内 堀内惣蔵養女

文政八年五月二十二日歿
靈明院審承井幹大姉

女 大瀬登室

喜右衛門 木町 八田嘉右衛門養子

権五郎 寛延四年三月十三日歿
露外修節童子

女 寛延四年五月十八日歿

一影幻夢童女

常一郎 明和五年十一月二十一日歿
貞觀顯常童子

ヒサ 明和八年六月二十二日歿
智海淨展童女

武治郎 安永三年十月二十一日歿
絶紅素印童子

甚五郎 享和元年九月八日歿
忠節義孝居士

米吉 寛政六年十一月八日歿
真相宝珠童子

嘉右衛門・知義
四代 (明和八年) 生

嘉永元年十二月九日歿(78)
悟達院大道無閑居士

- 寛政三年二月、町年寄役被仰付
- 享和三年二月、家督相統、三十人扶持被下置、給人格御勝手御用役被仰付
- 文化十年十月、五人扶持御加増被下置
- 文化十三年五月、産物御用掛被仰付
- 文政七年閏八月、給人永格被仰付
- 文政七年十一月、社倉調役兼被仰付
- 文政九年九月、糸会所締懸り兼被仰付
- 天保四年、産物会所取締役仰付
- 天保八年十二月、切米納穀三十俵御加増被仰付

ナカ 木町 八田喜右衛門女
天保十四年四月一日歿
獻光院宝珠貞璫大姉

喜兵衛 母方再従弟堀三右衛門家来安達
与左衛門弟ヲ文化十年七月二引取厄介仕置、同年十一月二養弟トス

- 文化十年十一月、別家、五人扶持被下置、御勝手御用役被仰付
- 文政七年十一月、社倉調役兼被仰付
- 文政九年九月、糸会所惣元方兼被仰付
- 天保四年、産物会所元方被仰付
- 天保十二年十二月、一人扶持御加増被下置

女 三人

女

寛政五年十一月十七日歿
露雲清麗童女

女

辰三郎・知嘉 厄介致置候落合辰三郎
ヲ文化七年二月二智養子トス

- 文政元年十二月、被召出別家、十人扶持被下置、御勝手御用役被仰付
- 文政七年十一月、社倉調役兼被仰付
- 文政九年九月、糸会所惣元方兼被仰付
- 天保四年、産物会所元方被仰付

女 小山田六郎兵衛悻藤四郎室(文化十二年)

女 師岡七郎右衛門悻治助室(文化十二年)

女 文化元年九月八日歿、幻明觀夢童女

養女 増田徳左衛門次女、大瀬登室(文政六年)

養女 八田辰三郎次女、岡野弥右衛門悻錫之助室(文政九年)

五代 (文化四年) 生

嘉助・知則 幼名鉄之助

嘉永四年十一月二十三日歿(45)
玄曠院浩然至靜居士

- 天保五年三月、被召出御勝手御用役見習被仰付
- 嘉永二年二月、家督相統、三十人扶持被下置、本役被仰付

ムメ 岡野弥右衛門元礼次女

明治十四年十二月十日歿
宝勝院玉堂妙珠大姉

六代 (文政十二年) 生
慎蔵・知道

明治四十年十月八日歿(79)

知道院齋庵子静居士

嘉永五年正月十六日、家督相続、

三十人扶持被下置、御勝手御用役被仰付

明治二年十二月、商法掌

明治三年閏十月、土族

明治四年八月、免職、少属補助商法方

明治十一年七月、同十三年三月、第六三

国立銀行頭取

(天保二年)生

岡野元賢妹

明治二十九年四月四日歿(65)

清亮院浄雲慧明大師

鉄治郎・知徳

明治九年三月二十三日歿

正倫院義観諦賢居士

シゲ 伊勢崎 竹内莊三郎妹

明治十年正月二十一日歿

法性院還入到安大師

長 (天保八年) 生

松木董正妻

明治十七年十月三十一日歿(48)

清操院順譽皎月大師

ハル

嘉永五年九月二十三日歿

玉樹院實相妙心大師

(嘉永四年) 生
綱

明治二十三年十一月二十日歿(50)

瓊芳院玉室貞樹大師

七代 (安政元年) 生

彦次郎 上田 内藤源治郎弟

明治二十七年七月八日歿(41)

鮮明院真光透然居士

(安政二年) 生

久米

大正七年九月十六日歿(64)

秋岳院玉顔妙姿大師

八代 明治九年十二月九日生
彦次郎・知信

昭和三年一月九日歿(80)

知信院晚香子進居士

(明治十一年) 生

よう 下高井郡江部村 山田莊左衛門次女

明治三十一年六月二十六日歿(21)

端正院高信操要大師

のぶ (後妻)

明治十五年生 山田莊左衛門三女

昭和三十六年正月七日歿(80)

瑞昌院徳光貞順大師

長野 藤井安治妻

純 (明治十五年) 生

長久保 竹内忠雄妻

昭和四年四月九日歿(48)

竹内純刀自瑞比賣命

(明治十八年) 生

就 東京 内藤克二妻

大正十五年四月二十九日歿(42)

專明理法精就大師

諒 井上 坂本重雄妻

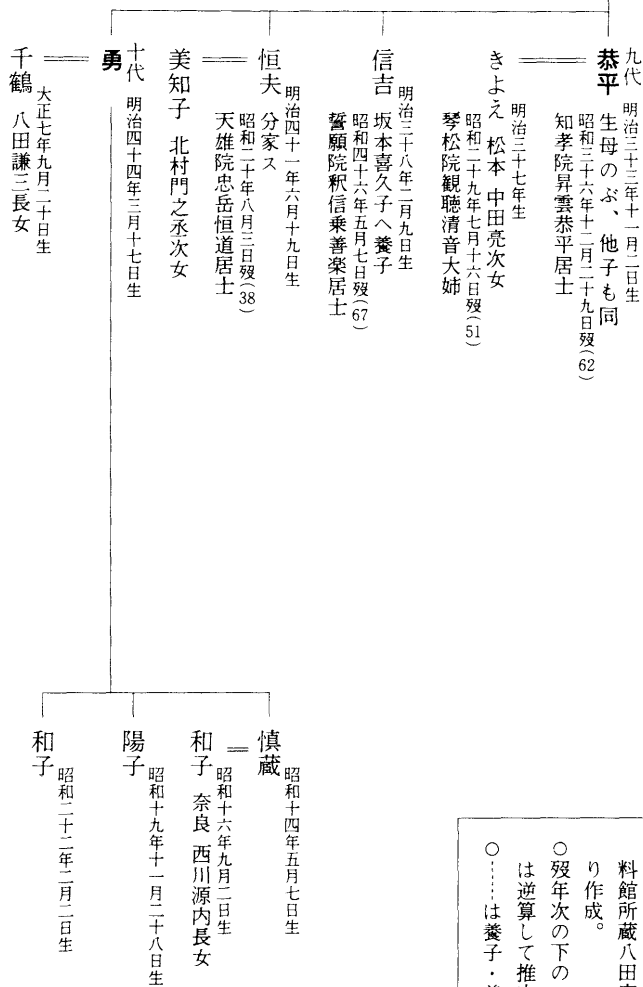
(明治二十六年) 生

謙三 千葉県鎌ヶ谷町へ移ル

昭和三十九年一月九日歿(72)

謙光院実相超心居士

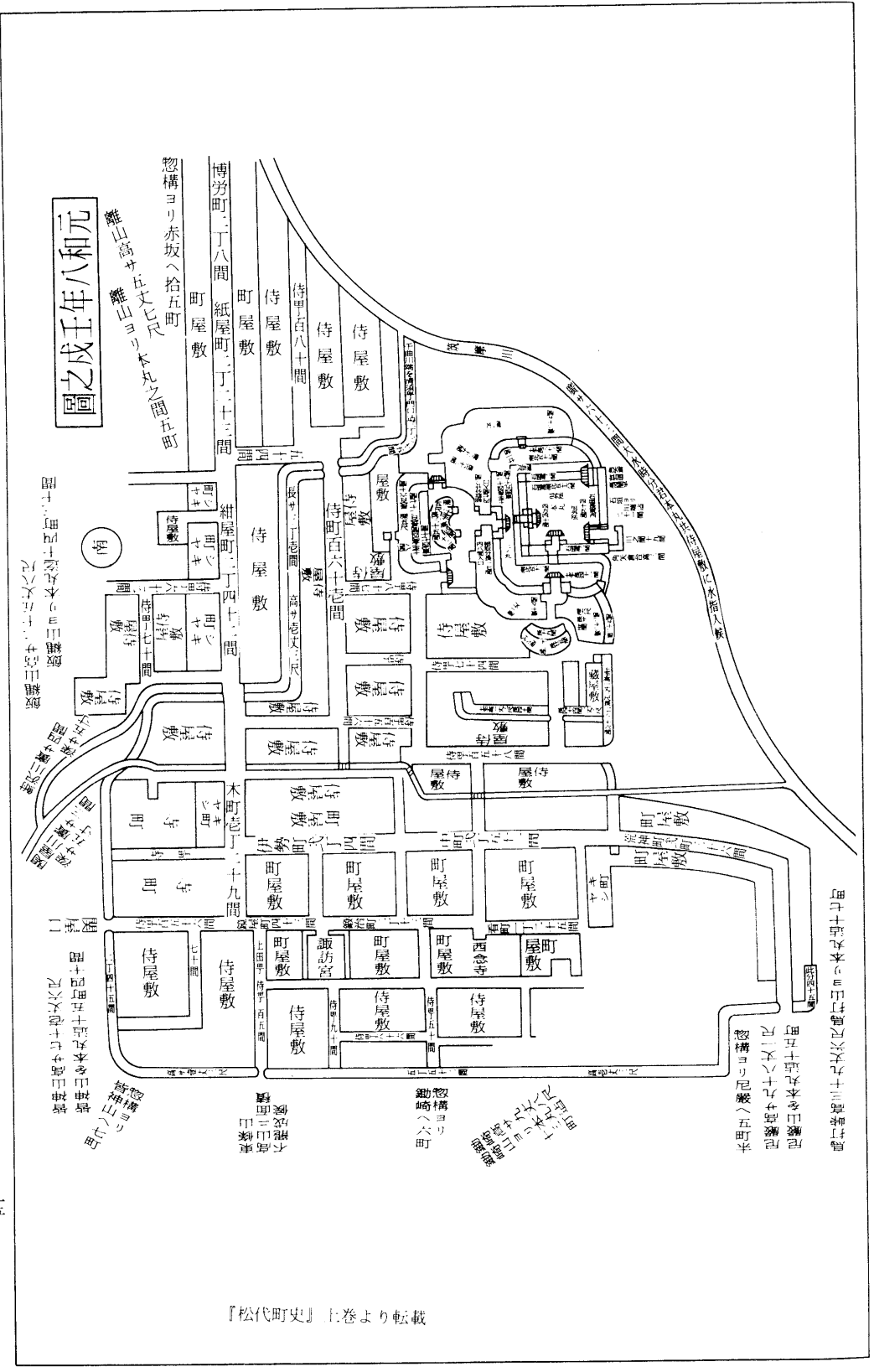
茂子 上田 柳沢太郎兵衛次女



○八田家過去帳、「真田家家中系図書」（八田勇氏所蔵）、「真田家
 中明細書」（国立史料館所蔵真田家文書）、「御書付写帳」（国立史
 料館所蔵八田家文書No.二七四八）および八田勇氏の御教示によ
 り作成。
 ○歿年次の下の（ ）内の数字は数えの享年。（ ）を付した生年
 は逆算して推定したもの。
 ○……は養子・養女・養弟を示す。

『史料館所蔵史料目録』での冊子型史料の形態表記用語の改正一覧表

従来目録での用語	本目録での用語
半（半紙判）	<div> 半（半紙縦折判） 半切（半紙縦半截判） </div>
美（美濃判）	<div> 美（美濃縦折判） 美切（美濃縦半截判） </div>
横長半（半紙横長判） 〈美〉〈美濃〉	横長半（半紙横折判） 〈美〉〈美濃〉
横半半（半紙半截横長判） 〈美〉〈美濃〉	横半半（半紙横折紙半截判） 〈美〉 〈美濃〉
	横半半折（半紙横折紙半折判） 〈美〉 〈美濃〉
	横切半半折（半紙横切紙半折判） 〈美〉 〈美濃〉
	横切半列（半紙横切紙列帖装） 〈美〉 〈美濃〉
	横半列（半紙横折紙列帖装） 〈美〉 〈美濃〉
	縦半半（半紙縦折紙半截判） 〈美〉 〈美濃〉



元和八年壬戌之圖

『松代町史』上巻より転載